

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-111133

(P2019-111133A)

(43) 公開日 令和1年7月11日(2019.7.11)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0 2 C 3 3 3

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 146 頁)

(21) 出願番号	特願2017-246952 (P2017-246952)	(71) 出願人	000144153
(22) 出願日	平成29年12月22日 (2017.12.22)		株式会社三共
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
		(74) 代理人	100095407
			弁理士 木村 満
		(74) 代理人	100148633
			弁理士 桜田 圭
		(74) 代理人	100134599
			弁理士 杉本 和之
		(74) 代理人	100166442
			弁理士 鈴木 洋雅
		(72) 発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株式会社三共内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

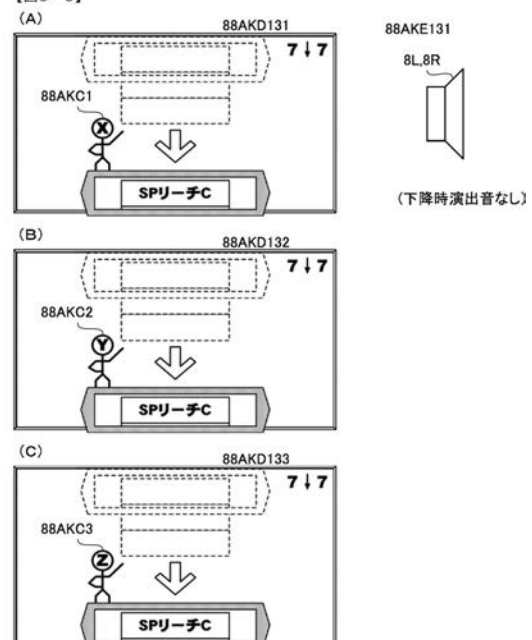
(57) 【要約】

【課題】 適切な演出の実行により遊技興趣を向上させる。

【解決手段】 復帰演出期間では、可動部材の位置が第2位置としての初期位置に変更されるときに、演出画像の表示による特定表示と、可動部材との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させる。復帰演出期間にて、可動部材の位置が第2位置としての初期位置に変更されたときに、特定表示とは異なる演出画像の表示による追加表示を行う。追加表示として表示される演出画像は、可変表示結果に応じた割合により決定されるので、追加表示により大当り遊技状態に制御されることを予告可能である。

【選択図】 図9-9

【図9-9】



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、
画像を表示可能な表示手段と、
前記表示手段の前方側にて位置を変更可能な可動部材と、
前記可動部材の位置を、前記表示手段の前方側における第 1 位置と第 2 位置との間で変更可能に制御する可動制御手段とを備え、
前記表示手段の表示として、前記可動部材の位置が前記第 1 位置であるときに、前記可動部材の周辺に対応する表示位置で特定表示を行い、前記可動部材の位置が前記第 2 位置に変更されるときに、前記特定表示と前記可動部材との位置関係が維持されるように前記特定表示の表示位置を変更させる、
ことを特徴とする遊技機。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機等の遊技が可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

パチンコ遊技機等の遊技機において、表示領域に表示される演出画像を可動部材により隠蔽したり出現させたりする技術が提案されている（例えば特許文献 1）。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2017-131762 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記特許文献 1 に記載の技術によると、例えば画像表示と可動部材の動作が煩雑な印象を与えることなどにより、遊技興趣を向上できないおそれがあった。

【0005】

30

この発明は、上記実状に鑑みてなされたものであり、適切な演出の実行により遊技興趣を向上させる遊技機の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

（1）上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、遊技が可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1 など）であって、画像を表示可能な表示手段（例えば画像表示装置 5 など）と、前記表示手段の前方側にて位置を変更可能な可動部材（例えば可動部材 88AKA1 など）と、前記可動部材の位置を、前記表示手段の前方側における第 1 位置（例えば演出画像 88AKB1～88AKB3 に対応する位置など）と第 2 位置（例えば構成例 88AKP0 における位置など）との間で変更可能に制御する可動制御手段（例えば演出制御用 CPU 120 など）とを備え、前記表示手段の表示として、前記可動部材の位置が前記第 1 位置であるときに、前記可動部材の周辺に対応する表示位置で特定表示（例えば演出画像 88AKB1～88AKB3 の表示など）を行い、前記可動部材の位置が前記第 2 位置に変更されるときに、前記特定表示と前記可動部材との位置関係が維持されるように前記特定表示の表示位置を変更させる（例えば演出実行例 88AKD131～88AKD133 など）。

40

このような構成によれば、適切な演出を実行することで遊技興趣を向上させることができる。

【0007】

（2）上記（1）の遊技機において、前記可動部材の位置が前記第 2 位置に変更された

50

ときに、前記特定表示とは異なる追加表示（例えば演出画像 8 8 A K C 1 ～ 8 8 A K C 3 の表示など）を行うようにしてもよい。

このような構成においては、追加表示により遊技興趣を向上させることができる。

【0008】

（３）上記（２）の遊技機において、前記追加表示により遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを予告可能（例えば決定割合 8 8 A K T 2 1 を参照）であってもよい。

このような構成においては、追加表示により遊技興趣を向上させることができる。

【0009】

（４）上記（１）から（３）のいずれかの遊技機において、前記特定表示の表示位置を変更させた後に、特定条件の成立に応じて、前記可動部材の位置が前記第 2 位置から前記第 1 位置に変更される変更演出（例えば演出実行例 8 8 A K D 1 4 2 など）を実行可能であってもよい。

このような構成においては、変更演出により遊技興趣を向上させることができる。

【0010】

（５）上記（１）から（４）のいずれかの遊技機において、前記可動部材の位置は、複数種類の前記第 1 位置のうちいずれかに変更可能であり、前記可動部材の位置がいずれの第 1 位置に変更されるかに応じて、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なってもよい（例えば決定割合 8 8 A K T 0 1、8 8 A K T 1 1、8 8 A K T 1 2、8 8 A K T 2 1 など）。

このような構成においては、可動部材の位置により遊技者の期待感を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

【0011】

（６）上記（１）から（５）のいずれかの遊技機において、演出音を出力可能な音出力手段（例えばスピーカ 8 L、8 R など）を備え、前記音出力手段により出力される演出音として、前記可動部材の位置が前記第 2 位置から前記第 1 位置に変更されるときに、特定演出音を出力させ（例えば演出実行例 8 8 A K E 1 1 4 など）、前記可動部材の位置が前記第 1 位置から前記第 2 位置に変更されるときに、前記特定演出音を出力させない（例えば演出実行例 8 8 A K E 1 3 1 など）ようにしてもよい。

このような構成においては、煩雑な演出の実行による遊技興趣の低下を防止できる。

【0012】

（７）上記（１）から（６）のいずれかの遊技機において、複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値 1 ～ 3 のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など）と、設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など）と、電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップ S a 6、S a 1 2 を実行する C P U 1 0 3 など）と、演出の出力量の調整に関する動作を検出可能な演出調整用検出手段（例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 など）と、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する出力量制御手段（例えばステップ 7 1 A K S 0 1 3 の開始時出力切替処理やステップ 7 1 A K S 0 1 9 の進行中出力変更処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず前記出力量制御手段による制御の実行を制限する制限手段（例えばステップ 7 1 A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理としてステップ A K S 0 1 2 の処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）とを備えてもよい。

このような構成においては、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0013】

（８）上記（１）から（６）のいずれかの遊技機において、複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値 1 ～ 3 のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステッ

10

20

30

40

50

プ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段(例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段(例えばステップ S a 6 およびステップ S a 1 2 の処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、遊技の進行に応じて動作可能な可動部材(例えば動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 3 によって動作する第 1 可動部材、動作用モータ A K 0 1 4 によって動作する第 2 可動部材など) と、少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作(例えばショートイニシャル動作など)の制御と、前記可動部材による初期動作(例えばロングイニシャル動作など)の制御とを実行可能な可動制御手段(例えばステップ A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、前記可動制御手段は、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行う(例えばステップ 7 2 A K S 0 0 7 の実行など)ようにしてもよい。

10

このような構成においては、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0014】

(9) 上記(1)から(6)のいずれかの遊技機において、複数の設定値のうちいずれかの設定値(例えば設定値 1 ~ 3 のいずれかなど)に設定可能な設定手段(例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段(例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段(例えばステップ S a 6 およびステップ S a 1 2 の処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、遊技の進行に応じて動作可能な可動部材(例えば動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 3 によって動作する第 1 可動部材、動作用モータ A K 0 1 4 によって動作する第 2 可動部材など) と、少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作の制御を実行可能な可動制御手段(例えばステップ A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、前記可動制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作を実行する制御を行い(例えばステップ 7 3 A K S 0 1 0 の実行など)、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行わない(例えばステップ 7 3 A K S 0 0 5 ~ 7 3 A K S 0 0 9 の実行など)ようにしてもよい。

20

30

このような構成においては、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0015】

(10) 上記(1)から(6)のいずれかの遊技機において、複数の設定値のうちいずれかの設定値(例えば設定値 1 ~ 3 のいずれかなど)に設定可能な設定手段(例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段(例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段(例えばステップ S a 6 およびステップ S a 1 2 の処理を実行する C P U 1 0 3 など) と、演出を実行可能な演出手段(例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R など) と、電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段(例えばステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、前記確認制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い(例えばステップ A K S 0 2 1、A K S 0 3 0 を実行した後におけるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の実行など)、前記変更許可状態であるときに、前記確認演出を実行する制御を行わない(例えばステップ A K S 0 2 5 ~ A K S 0 2 9 の実行など)ようにしてもよい。

40

このような構成においては、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

50

【0016】

(11) 上記(1)から(6)のいずれかの遊技機において、複数の設定値のうちいずれかの設定値(例えば設定値1~3のいずれかなど)に設定可能な設定手段(例えばステップS a 1 3の設定変更処理を実行するCPU 1 0 3など)と、設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段(例えばステップS 2 5の特別図柄プロセス処理を実行するCPU 1 0 3など)と、電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段(例えばステップS a 6およびステップS a 1 2の処理を実行するCPU 1 0 3など)と、演出を実行可能な演出手段(例えば演出表示装置5、スピーカ8 L、8 Rなど)と、電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段(例えばステップ7 4 A K S 0 1 8の確認演出制御処理、ステップ7 5 A K S 0 0 8の設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU 1 2 0など)とを備え、前記確認制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い(例えばステップ7 4 A K S 0 1 8における確認演出制御処理の実行など)、前記変更許可状態であるときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う(例えばステップ7 5 A K S 0 0 8における設定変更中確認演出制御処理の実行など)ようにしてもよい。

このような構成においては、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-1】基本特徴部に係る各種の制御基板などを示す構成図である。

【図8-2】基本特徴部に係るパチンコ遊技機を示す背面図である。

【図8-3】基本特徴部に係る演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図8-4】基本特徴部に係る遊技用乱数となる乱数値を例示する説明図である。

【図8-5】基本特徴部に係る変動パターンを示す図である。

【図8-6】基本特徴部に係る表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図8-7】基本特徴部に係る当り種別判定テーブルを示す説明図である。

【図8-8】基本特徴部に係る大当り種別を示す説明図である。

【図8-9】基本特徴部に係る変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図8-10】基本特徴部に係る変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図8-11】基本特徴部に係る遊技制御用データ保持エリアを示す図である。

【図8-12】基本特徴部に係る表示モニタの配置と表示内容を示す図である。

【図8-13】基本特徴部に係る賞球数を記憶する記憶領域を示す図である。

【図8-14】基本特徴部に係るメモリマップを示す図である。

【図8-15】基本特徴部に係る内蔵RAMエリアを示す図である。

【図8-16】基本特徴部に係る表示モニタにおける表示の制御例を示す図である。

【図8-17】基本特徴部に係るバッファ更新の実行例を示す図である。

【図8-18】基本特徴部に係るメイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-19】基本特徴部に係る表示モニタの表示態様を示す図である。

【図8-20】基本特徴部に係る表示モニタの表示態様を示す図である。

【図8-21】基本特徴部に係る変形例における表示モニタの表示態様を示す図である。

10

20

30

40

50

【図 8-22】基本特徴部に係る変形例における表示モニタの表示態様を示す図である。

【図 8-23】基本特徴部に係る変形例におけるパチンコ遊技機を示す背面斜視図である。

。

【図 8-24】基本特徴部に係る変形例における遊技機用枠を開放した状態を示す背面斜視図である。

【図 8-25】基本特徴部に係る変形例におけるセキュリティカバーを示す図である。

【図 8-26】基本特徴部に係る変形例におけるセキュリティカバーを示す図である。

【図 8-27】基本特徴部に係る状態制御例を示す図である。

【図 8-28】基本特徴部に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

10

【図 8-29】基本特徴部に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-30】基本特徴部に係る演出制御の優先度を示す図である。

【図 8-31】基本特徴部に係る変形例における演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-32】基本特徴部に係る変形例における進行中設定確認処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-33】特徴部 71AK に係る出力量切替スイッチの構成例を示す図である。

【図 8-34】特徴部 71AK に係る初期設定制御を示す図である。

【図 8-35】特徴部 71AK に係る報知の実行例を示す図である。

20

【図 8-36】特徴部 71AK に係る表示例を示す図である。

【図 8-37】特徴部 71AK に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-38】特徴部 71AK に係る開始時出力切替処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-39】特徴部 71AK に係る進行中出力変更処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-40】特徴部 71AK に係る変形例における演出制御の優先度を示す図である。

【図 8-41】特徴部 72AK に係るイニシャル動作の実行例を示す図である。

【図 8-42】特徴部 72AK に係る制御パターンを示す図である。

30

【図 8-43】特徴部 72AK に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-44】特徴部 72AK に係る変形例における電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-45】特徴部 73AK に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-46】特徴部 73AK に係る設定確認報知画面の表示例を示す図である。

【図 8-47】特徴部 74AK に係る演出制御パターンの構成例を示す図である。

【図 8-48】特徴部 74AK に係る演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

40

【図 8-49】特徴部 74AK に係る確認演出制御処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-50】特徴部 74AK に係る確認演出の制御例を示すタイミング図などである。

【図 8-51】特徴部 75AK に係る電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-52】特徴部 75AK に係る設定変更中確認演出制御処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8-53】特徴部 75AK に係る確認演出の制御例を示すタイミング図などである。

【図 9-1】特徴部 88AK に係る画像表示装置と可動部材の構成例を示す図である。

【図 9-2】特徴部 88AK に係る変動パターンの構成例を示す図である。

50

【図 9-3】特徴部 88AK に係る変動パターンの決定例を示す図である。

【図 9-4】特徴部 88AK に係る可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 9-5】特徴部 88AK に係るリーチ演出設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 9-6】特徴部 88AK に係る演出実行例を示す図である。

【図 9-7】特徴部 88AK に係る演出実行例を示す図である。

【図 9-8】特徴部 88AK に係る演出実行例を示す図である。

【図 9-9】特徴部 88AK に係る演出実行例を示す図である。

【図 9-10】特徴部 88AK に係る演出実行例を示す図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0018】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

【0019】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

20

【0020】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4A 及び第 2 特別図柄表示装置 4B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの LED などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

【0021】

30

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

【0022】

40

なお、第 1 特別図柄表示装置 4A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【0023】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示装置 5 は、例えば LCD（液晶表示装置）や有機 EL（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

50

【0024】

例えば、画像表示装置5の画面上では、第1特図ゲームや第2特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

【0025】

画像表示装置5の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

10

【0026】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第1特図ゲームに対応する保留記憶数を第1保留記憶数、第2特図ゲームに対応する保留記憶数を第2保留記憶数ともいう。また、第1保留記憶数と第2保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【0027】

また、遊技盤2の所定位置には、複数のLEDを含んで構成された第1保留表示器25Aと第2保留表示器25Bとが設けられ、第1保留表示器25Aは、LEDの点灯個数によって、第1保留記憶数を表示し、第2保留表示器25Bは、LEDの点灯個数によって、第2保留記憶数を表示する。

20

【0028】

画像表示装置5の下方には、入賞球装置6Aと、可変入賞球装置6Bとが設けられている。

【0029】

入賞球装置6Aは、例えば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第1始動入賞口を形成する。第1始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば3個）の賞球が払い出されるとともに、第1特図ゲームが開始され得る。

【0030】

可変入賞球装置6B（普通電動役物）は、ソレノイド81（図2参照）によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第2始動入賞口を形成する。可変入賞球装置6Bは、例えば、一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、ソレノイド81がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、当該可動翼片の先端が入賞球装置6Aに近接し、第2始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる（第2始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。）。その一方で、可変入賞球装置6Bは、ソレノイド81がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第2始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる（第2始動入賞口が開放状態になるともいう。）。第2始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば3個）の賞球が払い出されるとともに、第2特図ゲームが開始され得る。なお、可変入賞球装置6Bは、閉鎖状態と開放状態とに変化するものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

30

40

【0031】

遊技盤2の所定位置（図1に示す例では、遊技領域の左右下方4箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口10が設けられる。この場合には、一般入賞口10のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0032】

入賞球装置6Aと可変入賞球装置6Bの下方には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置7が設けられている。特別可変入賞球装置7は、ソレノイド82（図2参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化

50

する特定領域としての大入賞口を形成する。

【0033】

一例として、特別可変入賞球装置7では、大入賞口扉用（特別電動役物用）のソレノイド82がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口に進入（通過）できなくなる。その一方で、特別可変入賞球装置7では、大入賞口扉用のソレノイド82がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口に進入しやすくなる。

【0034】

大入賞口に進入したときには、所定個数（例えば14個）の遊技球が賞球として払い出される。大入賞口に進入したときには、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口及び一般入賞口10に進入したときよりも多くの賞球が払い出される。

10

【0035】

一般入賞口10を含む各入賞口に進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口（第1始動入賞口、第2始動入賞口）への入賞を始動入賞ともいう。

【0036】

遊技盤2の所定位置（図1に示す例では、遊技領域の左側方）には、普通図柄表示器20が設けられている。一例として、普通図柄表示器20は、7セグメントのLEDなどからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

20

【0037】

画像表示装置5の左方には、遊技球が通過可能な通過ゲート41が設けられている。遊技球が通過ゲート41を通過したことに基づき、普図ゲームが実行される。

【0038】

普通図柄表示器20の上方には、普図保留表示器25Cが設けられている。普図保留表示器25Cは、例えば4個のLEDを含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数をLEDの点灯個数により表示する。

【0039】

遊技盤2の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

30

【0040】

遊技機用枠3の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ8L、8Rが設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の遊技効果ランプ9が設けられている。遊技効果ランプ9は、LEDを含んで構成されている。

【0041】

遊技盤2の所定位置（図1では図示略）には、演出に応じて動作する可動体32が設けられている。

【0042】

遊技機用枠3の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）30が設けられている。

40

【0043】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する打球供給皿（上皿）が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い出される打球供給皿（下皿）が設けられている。

【0044】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可

50

能なスティックコントローラ 3 1 A が取り付けられている。スティックコントローラ 3 1 A には、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ 3 1 A に対する操作は、コントローラセンサユニット 3 5 A（図 2 参照）により検出される。

【0045】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン 3 1 B が設けられている。プッシュボタン 3 1 B に対する操作は、プッシュセンサ 3 5 B（図 2 参照）により検出される。

【0046】

パチンコ遊技機 1 では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B が設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【0047】

（遊技の進行の概略）

パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドル 3 0 への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート 4 1 を通過すると、普通図柄表示器 2 0 による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート 4 1 を通過した場合（遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば 4）まで保留される。

【0048】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置 6 B を所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第 2 始動入賞口が開放状態になる）。

【0049】

入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図ゲームが開始される。

【0050】

可変入賞球装置 6 B に形成された第 2 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図ゲームが開始される。

【0051】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば 4）までその実行が保留される。

【0052】

特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「ー」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0053】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

【0054】

大当り遊技状態では、特別可変入賞球装置 7 により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（例えば 29 秒間や 1.8 秒間）の経過タイ

10

20

30

40

50

ミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（例えば9個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。前記所定期間は、1ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる1のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当り遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（15回や2回）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

【0055】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

10

【0056】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（後述の、通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

【0057】

小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態では、一部の大当り種別のときの大当り遊技状態と同様の開放態様（大入賞口の開放回数が上記ラウンド数と同じであり、かつ、大入賞口の閉鎖タイミングも同じ等）で大入賞口が開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

20

【0058】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

【0059】

時短状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

30

【0060】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

【0061】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変等）ともいう。

40

【0062】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、時短状態、確変状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率及び特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

50

【0063】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

【0064】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。なお、特図ゲームの表示結果として「小当り」がなくてもよい。

10

【0065】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0066】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、遊技効果ランプ9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

20

【0067】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0068】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の様子が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

30

【0069】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

40

【0070】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0071】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数

50

の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

【0072】

特図ゲームの表示結果が「小当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別）の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

【0073】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

【0074】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

【0075】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0076】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当り種別）での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0077】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストレーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0078】

(基板構成)

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0079】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

10

【0080】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM（Read Only Memory）101と、RAM（Random Access Memory）102と、CPU（Central Processing Unit）103と、乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105とを備える。

【0081】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板11の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。

20

【0082】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

30

【0083】

I/O105は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0084】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッチ23）からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

40

【0085】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82をオンする信号など）を、普通電動役物のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82に伝送する。

【0086】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、

50

中継基板 1 5 により中継され、演出制御基板 1 2 に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板 1 1 における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

【0087】

演出制御基板 1 2 は、主基板 1 1 とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体 3 2 の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

10

【0088】

演出制御基板 1 2 には、演出制御用 CPU 1 2 0 と、ROM 1 2 1 と、RAM 1 2 2 と、表示制御部 1 2 3 と、乱数回路 1 2 4 と、I/O 1 2 5 とが搭載されている。

【0089】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、ROM 1 2 1 に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部 1 2 3 とともに演出を実行するための処理（演出制御基板 1 2 の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM 1 2 1 が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 1 2 2 がメインメモリとして使用される。

【0090】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、コントローラセンサユニット 3 5 A やプッシュセンサ 3 5 B からの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部 1 2 3 に指示することもある。

20

【0091】

表示制御部 1 2 3 は、VDP (Video Display Processor)、CGROM (Character Generator ROM)、VRAM (Video RAM) などを備え、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0092】

表示制御部 1 2 3 は、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 1 2 3 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 9 の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 1 3 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 1 4 に供給したりする。また、表示制御部 1 2 3 は、可動体 3 2 を動作させる信号を当該可動体 3 2 又は当該可動体 3 2 を駆動する駆動回路に供給する。

30

【0093】

音声制御基板 1 3 は、スピーカ 8 L、8 R を駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ 8 L、8 R を駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ 8 L、8 R から出力させる。

【0094】

ランプ制御基板 1 4 は、遊技効果ランプ 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 1 2 3 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

40

【0095】

なお、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体 3 2 の制御（可動体 3 2 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 1 2 0 が実行するようにしてもよい。

【0096】

乱数回路 1 2 4 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）

50

を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用CPU120が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0097】

演出制御基板12に搭載されたI/O125は、例えば主基板11などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0098】

演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、主基板11以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機1のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0099】

（動作）

次に、パチンコ遊技機1の動作（作用）を説明する。

【0100】

（主基板11の主要な動作）

まず、主基板11における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機1に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理が実行される。図3は、主基板11におけるCPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【0101】

図3に示す遊技制御メイン処理では、CPU103は、まず、割込禁止に設定する（ステップS1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップS2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ／タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0102】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する（ステップS3）。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号（クリア信号）が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合（ステップS3；Yes）、初期化处理（ステップS8）を実行する。初期化处理では、CPU103は、RAM102に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアするRAMクリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

【0103】

また、CPU103は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS9）。演出制御用CPU120は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

【0104】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には（ステップS3；No）、RAM102（バックアップRAM）にバックアップデータが保存されているか否かを判定する（ステップS4）。不測の停電等（電断）によりパチンコ遊技機1への電力供給が停止したときには、CPU103は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップS4では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフでRAM1

10

20

30

40

50

02にバックアップデータが記憶されていない場合（ステップS4；No）、初期化処理（ステップS8）を実行する。

【0105】

RAM102にバックアップデータが記憶されている場合（ステップS4；Yes）、CPU103は、バックアップしたデータのデータチェックを行い（誤り検出符号を用いて行われる）、データが正常か否かを判定する（ステップS5）。ステップS5では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM102のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM102のデータが正常であると判定する。

【0106】

RAM102のデータが正常でないと判定された場合（ステップS5；No）、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化処理（ステップS8）を実行する。

【0107】

RAM102のデータが正常であると判定された場合（ステップS5；Yes）、CPU103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理（ステップS6）を行う。復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容（バックアップしたデータの内容）に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

【0108】

そして、CPU103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS7）。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

【0109】

復旧処理または初期化処理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後は、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS10）。そして、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込みがかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い（ステップS11）、割込みを許可する（ステップS12）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば2ms）ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0110】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップS21）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップS22）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報（大当りの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となっ

10

20

30

40

50

た回数等を示す情報)などのデータを出力する(ステップS23)。

【0111】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する(ステップS24)。この後、CPU103は、特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25)。CPU103がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される(詳しくは後述)。

【0112】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される(ステップS26)。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく(通過ゲート41に遊技球が通過したことに基

10

【0113】

く)普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

20

【0114】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する(ステップS27)。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS27のコマンド制御

【0115】

処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

30

【0116】

図5は、特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、始動入賞判定処理を実行する(ステップS101)。

40

【0117】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果(大当り種別を含む)や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

50

が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図 2 優先消化ともいう）。また、第 1 始動入賞口及び第 2 始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

【0118】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM 101 に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板 11 における他の決定、演出制御基板 12 における各種の決定についても同じである。演出制御基板 12 においては、各種のテーブルが ROM 121 に格納されている。

【0119】

ステップ S 111 の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

【0120】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【0121】

ステップ S 112 の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

【0122】

ステップ S 113 の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B にて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される。その一方で、大当りフラグがオフであり、表示結果が「小当り」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。表示結果が「小当り」又は「ハズレ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

【0123】

ステップ S 114 の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用の

ソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当たり種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新され、大当たり開放前処理は終了する。

【0124】

ステップ S 1 1 5 の大当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この大当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新し、大当たり開放中処理を終了する。

10

【0125】

ステップ S 1 1 6 の大当たり開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される。この大当たり開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当たり遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当たり解放後処理は終了する。

20

【0126】

ステップ S 1 1 7 の大当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この大当たり終了処理には、大当たり遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当たり遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、大当たり終了処理は終了する。

【0127】

ステップ S 1 1 8 の小当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”のときに実行される。この小当たり開放前処理には、表示結果が「小当たり」となったことに基づき、小当たり遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”に更新され、小当たり開放前処理は終了する。

30

【0128】

ステップ S 1 1 9 の小当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”のときに実行される。この小当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当たり遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“ 1 0 ”に更新され、小当たり開放中処理は終了する。

40

【0129】

ステップ S 1 2 0 の小当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 0 ”のときに実行される。この小当たり終了処理には、小当たり遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当たり遊技状態が終了するときには、小当たり遊技状態となる以前のパチンコ遊技機 1 における遊技状態を継続させる。小当たり遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、小当たり終了処理は終了する。

【0130】

(演出制御基板 1 2 の主要な動作)

50

次に、演出制御基板 1 2 における主要な動作を説明する。演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 C P U 1 2 0 が起動して、図 6 のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 6 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して（ステップ S 7 1）、R A M 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された C T C（カウンタ／タイマ回路）のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する（ステップ S 7 2）。初期動作制御処理では、可動体 3 2 を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体 3 2 の初期動作を行う制御が実行される。

【0131】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップ S 7 3）。タイマ割込みフラグは、例えば C T C のレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば 2 ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップ S 7 3；N o）、ステップ S 7 3 の処理を繰り返し実行して待機する。

【0132】

また、演出制御基板 1 2 の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板 1 1 からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板 1 1 からの演出制御 I N T 信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならない C P U を用いている場合には、割込み禁止命令（D I 命令）を発行することが望ましい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I / O 1 2 5 に含まれる入力ポートのうちで、中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0133】

ステップ S 7 3 にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップ S 7 3；Y e s）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップ S 7 4）、コマンド解析処理を実行する（ステップ S 7 5）。コマンド解析処理では、例えば主基板 1 1 の遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドを R A M 1 2 2 の所定領域に格納したり、R A M 1 2 2 に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部 1 2 3 に指示してもよい。

【0134】

ステップ S 7 5 にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップ S 7 6）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力動作、遊技効果ランプ 9 及び装飾用 L E D といった装飾発光体における点灯動作、可動体 3 2 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 1 1 から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0135】

ステップ S 7 6 の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ス

10

20

30

40

50

テップ S 7 7)、演出制御基板 1 2 の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップ S 7 3 の処理に戻る。ステップ S 7 3 の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【0136】

図 7 は、演出制御プロセス処理として、図 6 のステップ S 7 6 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 7 に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、先読予告設定処理を実行する(ステップ S 1 6 1)。先読予告設定処理では、例えば、主基板 1 1 から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

10

【0137】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば RAM 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ~ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

【0138】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“0”(初期値)のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“1”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

20

【0139】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果(確定飾り図柄)、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン(表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり)を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を“2”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

30

【0140】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令(効果音信号)の出力によりスピーカ 8 L、8 R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 1 4 に対する指令(電飾信号)の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED を点灯/消灯/点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 1 1 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“3”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

40

【0141】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、主基

50

板 1 1 から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“ 6 ”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“ 4 ”に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

10

【 0 1 4 2 】

ステップ S 1 7 4 の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“ 5 ”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

【 0 1 4 3 】

ステップ S 1 7 5 の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

20

【 0 1 4 4 】

ステップ S 1 7 6 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“ 7 ”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

30

【 0 1 4 5 】

ステップ S 1 7 7 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【 0 1 4 6 】

(基本説明の変形例)

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機 1 に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

40

【 0 1 4 7 】

上記基本説明のパチンコ遊技機 1 は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【 0 1 4 8 】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは 1 種類の図柄（例えば、「一」を示す記号）だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよ

50

い。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい（表示結果としては「ー」を示す記号が表示されなくてもよい）。

【0149】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ARRT、CZ（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

10

【0150】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機1に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

【0151】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけでなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

20

【0152】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0%」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0%」の割合で、他方が「100%」の割合又は「100%」未満の割合であることも含む。

30

【0153】

（基本特徴部に関する構成の説明）

次に本発明の形態における基本特徴部について説明する。この特徴部は、設定値にもとづいて遊技者にとって有利な大当り遊技状態などの有利状態の制御を実行可能とし、所定の設定変更操作にもとづいて設定値を変更可能にするための構成や、設定されている設定値を表示により確認可能にするための構成を備えている。そして、遊技球などの遊技媒体が所定領域に進入することにもとづいて付与される賞球などの遊技価値に関する情報を表示可能な構成により、設定されている設定値を表示可能にする。

【0154】

図8-1は、この特徴部に係るパチンコ遊技機1に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。上記実施の形態と共通する構成には、同一の符号が付されている。例えば出力回路111は、ソレノイド回路111と同様の構成を有するものであればよい。第1特別図柄表示器4Aや第2特別図柄表示器4Bは、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bと同様の構成を有するものであればよい。演出表示装置5は、画像表示装置5と同様の構成を有するものであればよい。表示結果が「はずれ」（ひらがな）となる場合は、表示結果が「ハズレ」（カタカナ）となる場合と同様である。第1一般入賞口スイッチ26A、第2一般入賞口スイッチ26B、第3一般入賞口スイッチ26C、第4一般入賞口スイッチ26Dは、複数の一般入賞口10のいずれかを通過（進入）した遊技球を検出し、検出に基づいて所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出さ

40

50

れる。

【0155】

演出制御基板12には、可動役物（可動演出装置）となる可動部材を駆動する動作用モータAK011～AK014と、その可動部材の原点位置を検知する原点センサAK021～AK024とが接続されている。動作用モータAK011～AK014は、モータあるいは電磁ソレノイドなどを用いたものであればよい。原点センサAK021～AK024は、マイクロスイッチなどの接触型のセンサやフォトセンサもしくは静電容量式センサなどの非接触型センサを用いて構成されていればよい。演出制御基板12には、時刻情報を出力可能なリアルタイムクロック（RTC）126が設けられている。

【0156】

この実施例では、小当り遊技状態に制御された場合に、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口である第1大入賞口とは別個に設けられた第2大入賞口が、所定の開放状態で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態において、所定の上限時間（例えば3秒間）が経過するまでの期間あるいは所定個数（例えば10個）の入賞球が発生するまでの期間にて、第2大入賞口を開放状態とする。本実施例では、小当り遊技状態において所定の上限時間（例えば3秒間）が経過するまで第2大入賞口が1回開放するように設定されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、小当り遊技状態において複数回開放するようにしてもよい。第2大入賞口は、第2大入賞口扉用のソレノイド83がオン状態であるときに、第2大入賞口扉により開放状態となり、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）しやすくなる。その一方で、第2大入賞口扉用のソレノイド83がオフ状態であるときに、第2大入賞口扉により第2大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）できなくする。このように第2大入賞口は、遊技球が通過（進入）しやすく遊技者にとって有利な開放状態と、遊技球が通過（進入）できず遊技者にとって不利な閉鎖状態とに変化する。なお、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）できない閉鎖状態に代えて、あるいは閉鎖状態の他に、遊技球が第2大入賞口を通過（進入）しにくい一部開放状態を設けてもよい。

【0157】

カウントスイッチ23は、第1大入賞口を通過（進入）した遊技球を検出する第1カウントスイッチとなる。第2大入賞口を通過（進入）する遊技球は、第2大入賞口内に設置された第2カウントスイッチを通過することで、第2カウントスイッチによって検出される。第2カウントスイッチによって遊技球が検出されたことに基づき、所定個数（例えば15個）の遊技球が賞球として払い出される。こうして、て開放状態となった第2大入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口といった、他の普通入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出される。したがって、第2大入賞口が開放状態となれば、第2大入賞口に遊技球が進入可能となり、遊技者にとって有利な第1状態となる。その一方で、第2大入賞口が閉鎖状態となれば、第2大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることが不可能または困難になり、遊技者にとって不利な第2状態となる。

【0158】

第2大入賞口の内部には、遊技球が通過可能な第3カウントスイッチと第4カウントスイッチとが設置されている。第2大入賞口を通過（進入）した遊技球は、第3カウントスイッチまたは第4カウントスイッチのいずれかを通過して、遊技盤2の背面側に誘導される。遊技球は、第3カウントスイッチを通過することで、第3カウントスイッチによって検出される。遊技球は、第4カウントスイッチを通過することで、第4カウントスイッチによって検出される。

【0159】

本実施例では、小当り遊技中に第3カウントスイッチによって遊技球が検出されたことに基づき、小当り遊技終了後の遊技状態を大当り遊技状態に制御するようになっている。よって、小当り遊技中に第2大入賞口扉が開放している期間において、振動等を付加することによって遊技球の進路が変更されて第3カウントスイッチによって遊技球が検出されて

しまうと、遊技者にとって有利な大当り遊技状態に制御されてしまう不正が可能となってしまうので、本実施例のパチンコ遊技機 1 では、このような場合に遊技を中止するようになっている。

【0160】

第 2 大入賞口の内部には、遊技球の第 3 カウントスイッチへ向けての流下を規制及び許容する規制部材が設けられている。規制部材は、遊技球の第 3 カウントスイッチへ向けての流下を規制する規制状態と、遊技球の第 3 カウントスイッチへ向けての流下を許容する許容状態と、に変化可能となるように設けられている。

【0161】

小当り遊技状態において、第 2 大入賞口に入賞した遊技球が第 3 カウントスイッチを通過すると、遊技球の第 3 カウントスイッチの通過に基づく「大当り」となる（V 入賞大当り）。つまり、CPU 103 は、第 3 カウントスイッチにより遊技球の通過を検出したことに基づき、遊技状態を大当り遊技状態に制御する。一方、小当り遊技状態において第 2 大入賞口に入賞した遊技球が第 4 カウントスイッチを通過した場合は、「大当り」とはならない。つまり、CPU 103 は、第 4 カウントスイッチにより遊技球の通過を検出したことに基づき、遊技状態を大当り遊技状態には制御しない。

【0162】

そして、遊技球の第 3 カウントスイッチの通過に基づいて大当り遊技状態に制御されると、第 2 大入賞口扉が、所定の上限時間（例えば 29 秒間）が経過するまでの期間あるいは所定個数（例えば 10 個）の入賞球が発生するまでの期間にて、第 2 大入賞口を開放状態とする。これにより、第 2 大入賞口を遊技者にとって有利な第 1 状態（開放状態）とするラウンド遊技が実行される。なお、本実施例では、第 3 カウントスイッチの通過に基づいて大当り遊技状態に制御されると、第 2 大入賞口が第 1 状態に制御されるようになっているが、本発明はこれに限定されるものではなく、第 1 大入賞口が第 1 状態に制御されるようにしてもよい。

【0163】

第 2 大入賞口の開放サイクルであるラウンド遊技は、その実行回数が所定の上限回数（例えば「15」や「5」など）に達するまで、繰り返し実行可能となっている。なお、ラウンド遊技の実行回数が上限回数に達する前であっても、所定条件の成立（例えば第 2 大入賞口に遊技球が入賞しなかったことなど）によりラウンド遊技が終了するようにしてもよい。

【0164】

図 8-2 は、パチンコ遊技機 1 に搭載された主基板 11、演出制御基板 12、電源基板 17 などを示す背面図である。主基板 11 は、基板ケース 201 に収納された状態でパチンコ遊技機 1 の背面に搭載される。主基板 11 には、パチンコ遊技機 1 の背面側から視認可能な表示モニタ 29 が設けられており、表示モニタ 29 に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。なお、表示モニタ 29 の左側方には表示切替スイッチ 30 が設けられており、表示切替スイッチ 30 の操作によって表示モニタ 29 に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

【0165】

主基板 11 には、遊技盤 2 の前面を開閉可能に覆うガラス扉枠の開放を検知する扉開放センサ 90、第 1 大入賞口や第 2 大入賞口の開放を検知するための大入賞口扉センサ 91、等の各種のセンサが接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づいて、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。主基板 11 のスイッチ回路 110 には、電源基板 17 からのリセット信号、電源断信号、クリア信号が取り込まれ、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に伝送される。

【0166】

主基板 11 は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 201 に封入されており、主基板 11 の中央には表示モニタ 29（例えば、7 セグメント）が配置され、表示モニタ 29 の右側には表示切替スイッチ 30 が配置されている。表示モニタ 29 及び表示切替

10

20

30

40

50

スイッチ 30 は、主基板 11 を視認する際の正面に配置されている。主基板 11 は、遊技機用枠 3 を開放していない状態では視認できないので、主基板 11 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 11 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

【0167】

主基板 11（遊技制御用マイクロコンピュータ 100）は、各入賞口（第 1 大入賞口、第 2 大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 29 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認（検証）される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、調整が行われたか否か、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかなどが確認（検証）される。そこで、本実施例のパチンコ遊技機 1 においては、設置後における調整の有無や内容を認識できるようになっている。

【0168】

電源基板 17 は、外部電源（商用電源）である交流電源（AC100V）からの電力を、主基板 11 や演出制御基板 12 などの各種制御基板を含めた電気部品に供給可能となるように構成されている。電源基板 17 は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 202 に封入されており、電源基板 17 の背面右側上部には、設定変更状態または設定確認状態に切り替えるための錠スイッチ 51 と、設定変更状態において大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能する設定切替スイッチ 52 が設けられている。また、電源基板 17 には、クリアスイッチ AK001、電源スイッチ AK002 が設けられている。

【0169】

錠スイッチ 51 および設定切替スイッチ 52 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能であり、所定のキーを所持する係員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 51 はキー操作を要することから、遊技場の係員のなかでも、錠スイッチ 51 の操作を行うキーを所持する係員のみ操作が可能とされている。錠スイッチ 51 は、所定のキーによって ON と OFF の切替操作を実行可能なスイッチであるとともに、切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチでもある。

【0170】

電源スイッチ AK002 を用いた電源投入の操作が行われるときには、錠スイッチ 51 におけるオンとオフの切替操作や、クリアスイッチ AK001 の押下操作といった、錠スイッチ 51 またはクリアスイッチ AK001 を用いた所定の動作が行われる場合がある。錠スイッチ 51 とクリアスイッチ AK001 は、電源スイッチ AK002 を用いた電源投入の動作に伴い、これらのスイッチを同時に用いた所定の動作が行われる場合もある。そこで、少なくとも、錠スイッチ 51 と、クリアスイッチ AK001 と、電源スイッチ AK002 は、遊技場の係員などにより同時操作が可能な位置に配置されていればよい。このように、錠スイッチ 51、および、クリアスイッチ AK001 は、電源スイッチ AK002 を用いた電源投入の動作に伴い、遊技場の係員などによるオンとオフの切替操作や押下操作となる各種動作を検出可能に構成されている。

【0171】

パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられ、ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球を検出する（発射された遊技球を検出す

る) ための排出口スイッチ 70 が設けられている。排出口スイッチ 70 からの信号は、主基板 11 のスイッチ回路 110 に取り込まれる。

【0172】

図 8-3 は、本実施例で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば 2 バイト構成であり、1 バイト目は MODE (コマンドの分類) を示し、2 バイト目は EXT (コマンドの種類) を表す。MODE データの先頭ビット (ビット 7) は必ず「1」とされ、EXT データの先頭ビットは「0」とされる。なお、このコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが 2 つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1 であってもよいし、3 以上の複数であってもよい。

10

【0173】

コマンド 8001H は、第 1 特別図柄表示器 4A における第 1 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 1 変動開始コマンドである。コマンド 8002H は、第 2 特別図柄表示器 4B における第 2 特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第 2 変動開始コマンドである。コマンド 81XXH は、特図ゲームにおける特別図柄の変動表示に対応して演出表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5L、5C、5R で変動表示される飾り図柄などの変動パターン (変動時間) を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXH は不特定の 16 進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なる EXT データが設定される。

20

【0174】

コマンド 8CXXH は、特別図柄や演出図柄などの変動表示結果を指定する変動表示結果通知コマンドである。変動表示結果通知コマンドでは、変動表示結果が「はずれ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果 (事前決定結果) や、変動表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果 (大当たり種別決定結果) に応じて、異なる EXT データが設定される。

【0175】

変動表示結果通知コマンドは、例えばコマンド 8C00H~8C05H を含んでいる。コマンド 8C00H は、変動表示結果が「はずれ」となる旨の事前決定結果を示す第 1 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8C01H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり A」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 2 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8C02H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり B」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 3 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8C03H は、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たり C」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 4 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8C04H は、変動表示結果が「小当たり A」となる旨の事前決定結果を通知する第 5 変動表示結果指定コマンドである。コマンド 8C05H は、変動表示結果が「小当たり B」となる旨の事前決定結果を通知する第 6 変動表示結果指定コマンドである。

30

40

【0176】

コマンド 8F00H は、演出表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5L、5C、5R で飾り図柄の変動停止 (確定) を指定する図柄確定コマンドである。コマンド 9000H は、パチンコ遊技機 1 における電源投入による電力供給が開始されたときに、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 での初期化に伴い、RAM 102 の記憶内容がクリアされたことを通知する RAM クリア通知コマンドである。コマンド 9100H は、パチンコ遊技機 1 における電源投入による電力供給が開始されたときに、設定値を変更可能にする設定変更状態の開始を指定する設定変更開始コマンドである。コマンド 9200H は、停電復旧時に対応する停電復旧処理の実行を指定する停電復旧指定コマンドである。コマンド 93XXH は、設定変更状態の終了を指定する設定変更終了コ

50

マンドである。

【0177】

設定変更終了コマンドでは、例えば変更により新たに設定された設定値に対応する E X T データが設定されてもよい。この場合には、設定変更状態における変更により新たに設定された設定値または変更されずに継続して設定される設定値に応じて、異なる E X T データが設定される。設定値が 1 ～ 3 の 3 段階からなる場合に、コマンド 9 3 0 0 H は設定値が「1」に設定されていることを指定し、コマンド 9 3 0 1 H は設定値が「2」に設定されていることを指定し、コマンド 9 3 0 2 H は設定値が「3」に設定されていることを指定すればよい。あるいは、設定変更終了コマンドは、E X T データが 0 0 H であるコマンド 9 3 0 0 H のみが用意され、変更により新たに設定された設定値にかかわらず、コマンド 9 3 0 0 H により、設定変更状態の終了を指定してもよい。あるいは、設定変更終了コマンドとは異なる演出制御コマンドとして、パチンコ遊技機 1 にて設定されている設定値を指定する設定値指定コマンドが用意されてもよい。設定値指定コマンドは、設定変更終了コマンドの送信に伴い送信される場合の他にも、例えば第 1 変動開始コマンドや第 2 変動開始コマンドの送信に伴い、特図ゲームの各回における変動開始と対応して送信されてもよい。また、例えば特図ゲームにおける 1 0 回の変動開始ごとのように、所定回数の変動表示が実行されることに伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。これらに代えて、あるいは、これらに加えて、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。客待ちデモ指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。

10

20

【0178】

コマンド 9 4 0 0 H は、パチンコ遊技機 1 における電源投入による電力供給が開始されたときに、設定値を確認可能にする設定確認状態の開始を指定する設定確認開始コマンドである。コマンド 9 4 0 1 H は、設定確認状態の終了を指定する設定確認終了コマンドである。コマンド 9 5 X X H は、パチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる E X T データが設定される。具体的な一例として、コマンド 9 5 0 0 H を時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第 1 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9 5 0 1 H を時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第 2 遊技状態指定コマンドとする。

30

【0179】

コマンド 9 6 X X H は、パチンコ遊技機 1 においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応する E X T データが設定されることにより、演出制御基板 1 2 側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、エラー報知処理によって報知される。コマンド 9 F 0 0 H は、客待ち状態における遊技の進行停止に対応した演出画像の表示などによる客待ちデモンストレーション画面の表示（デモ画面表示）を指定する客待ちデモ指定コマンドである。

【0180】

コマンド A 0 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを指定する大入賞口開放中指定コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを指定する大入賞口開放後指定コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

40

【0181】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば変動表示結果通知コマンド

50

と同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、変動表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当り遊技状態または小当り遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

【0182】

コマンド B 1 0 0 H は、普通入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基つき、第 1 特別図柄表示器 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、普通可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基つき、第 2 特別図柄表示器 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

【0183】

コマンド C 1 X X H は、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。第 1 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことに基づいて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことに基づいて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。また、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

【0184】

第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

【0185】

コマンド D 1 0 0 H は、遊技球が第 3 カウントスイッチを通過したことで第 3 カウントスイッチがオンとなったこと、すなわち、V 入賞したことを通知する V 入賞通知指定コマンドである。演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0 により、V 入賞通知指定コマンドを受信したことに基づいて、V 入賞したことを報知する V 入賞報知演出を実行する制御が行われてもよい。V 入賞報知演出では、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値に応じて、異なる演出パターンに決定可能としたり、複数の演出パターンの決定割合を異ならせてもよい。このように、V 入賞報知演出の演出態様により設定値を示唆可能にしてもよい。例えば V 入賞報知演出の演出態様として、「V」を示す演出画像が回転表示される場合に、その回転方向を右回りとする演出態様と、回転方向を左回りとする演出態様とが含まれていてもよい。あるいは、「V」を示す演出画像の表示色を異ならせた複数の演出態様が含まれていてもよい。そして、V 入賞通知指定コマンドの送信に伴い、設定値指定コマンドが送信されてもよい。これにより、V 入賞報知演出が実行される場合に、設定値に応じた演出態様を適切に決定することができる。

【0186】

図 8-4 は、主基板 1 1 の側においてカウントされる遊技用乱数となる乱数値を例示す

10

20

30

40

50

る説明図である。この実施例では、主基板 11 の側において、特図表示結果判定用の乱数値 MR 1 の他、大当たり種別判定用の乱数値 MR 2、変動パターン判定用の乱数値 MR 3、普図表示結果判定用の乱数値 MR 4、MR 4 の初期値決定用の乱数値 MR 5 のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。なお、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値 MR 1 ~ MR 5 は、CPU 103 にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路 104 によって更新されてもよい。乱数回路 104 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。

【0187】

10

本実施例では各乱数値 MR 1 ~ MR 5 をそれぞれ図 5 に示す範囲の値として用いる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら各乱数値 MR 1 ~ MR 5 の範囲は、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値に応じて異ならせてもよい。

【0188】

図 8-5 は、本実施例における変動パターンを示している。以下では、非リーチハズレの変動パターンを非リーチ変動パターンとも称し、リーチハズレの変動パターンをリーチ変動パターンとも称する。また、表示結果が「大当たり」となる変動パターンを大当たり変動パターンとも称し、表示結果が「小当たり」となる変動パターンを小当たり変動パターンとも称する。

【0189】

20

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチ α、スーパーリーチ β といったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。本実施例では、ノーマルリーチ変動パターンを 1 種類のみしか設けていないが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチと同様に、ノーマルリーチ α、ノーマルリーチ β、…のように、複数のノーマルリーチ変動パターンを設けてもよい。また、スーパーリーチ変動パターンでも、スーパーリーチ α やスーパーリーチ β に加えてスーパーリーチ γ … といった 3 以上のスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

【0190】

ROM 101 には、例えば表示結果判定テーブル（設定値 1）、表示結果判定テーブル（設定値 2）、表示結果判定テーブル（設定値 3）、大当たり種別判定テーブル（第 1 特別図柄用）、大当たり種別判定テーブル（第 2 特別図柄用）、小当たり種別判定テーブルなどが記憶される。

30

【0191】

本実施例のパチンコ遊技機 1 は、設定値に応じて大当たり及び小当たりの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。例えば特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当たり及び小当たりの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は 1 ~ 3 の 3 段階からなり、1 が最も出玉率が高く、1、2、3 の順に値が大きくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として 1 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、2、3 の順に値が大きくなるほど有利度が段階的に低くなる。

40

【0192】

図 8-6 は、表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルには、MR 1 と比較される当り判定値が設定されている。表示結果判定テーブルでは、変動特図指定バッファが 1（第 1）である、つまり、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが 2（第 2）である、つまり、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値と、小当たりとする判定値が設定されている。

【0193】

図 8-6（A）は、設定値 1 に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値 1

50

に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/99$ ）で大当りに当選するとともに、これら判定値のうちの一部が小当りに対応する判定値として設定されていることで、設定値が「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/50$ ）で小当りに当選するようになっている。設定値1に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/99$ ）で大当りに当選するとともに、これら判定値のうち半数が小当りに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率（ $100/200$ ）で小当りに当選するようになっている。

10

【0194】

図8-6（B）は、設定値2に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」である場合よりも低い確率（ $1/150$ ）で大当りに当選するとともに、これら判定値のうちの一部が小当りに対応する判定値として設定されていることで、設定値が「1」である場合よりも低い確率（ $1/99$ ）で小当りに当選するようになっている。設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/150$ ）で大当りに当選するとともに、これら判定値のうち半数が小当りに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率であり、かつ、設定値が「1」である場合と同じ確率（ $100/200$ ）で小当りに当選するようになっている。

20

【0195】

図8-6（C）は、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを示している。設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、大当りに対応する判定値が設定されているが、小当りに対応する判定値は設定されておらず、よって、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも低い確率（ $1/200$ ）で大当りに当選するが、小当りは当選しない（当選確率：0）。設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/200$ ）で大当りに当選するとともに、これら判定値のうち半数が小当りに対応する判定値として設定されていることで、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合よりも高い確率であり、かつ、設定値が「1」、「2」である場合と同じ確率（ $100/200$ ）で小当りに当選するようになっている。

30

40

【0196】

CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当りA～大当りC）とすることを決定する。また、MR1が小当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りとすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当り及び小当りの当選を決定する。なお、「確率」は、大当りになる確率（割合）並びに小当りになる確率（割合）を示す。大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器4Aまたは第2特別図柄表示器4Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定すると

50

いうことは、小当り遊技状態に制御するか否か決定することであるが、第1特別図柄表示器4Aまたは第2特別図柄表示器4Bにおける停止図柄を小当り図柄にするか否か決定することでもある。このように、設定値に応じて、大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御される確率が異なるので、設定値を変更すれば、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定において、1の設定が他の設定に変更されることになる。

【0197】

なお、本実施例では、各表示結果判定テーブルにおいて、変動特図指定バッファが第2である場合における小当りの当選確率は全て同じとしているが、設定値1、2、3の順に小当りの当選確率が低くなるようにしてもよい。一方、変動特図指定バッファが第1である場合、設定値1、2、3の順に小当りの当選確率が低くなるようにしているが、変動特図指定バッファが第2である場合と同様に、全ての設定値で同じ当選確率としてもよい。

10

【0198】

本実施例では、CPU103は、表示結果判定テーブルを用いて大当りまたは小当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルと小当り判定テーブルとを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにし、小当りの判定は、変動特図指定バッファが第1である場合と第2である場合とで別個のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

【0199】

本実施例では、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに変動特図指定バッファが第1である場合、大当りに対応する判定値以外の判定値が小当りに対応する判定値として設定されていない、つまり、小当りが当選しないようになっていたが、大当りに対応する判定値以外の判定値の一部を小当りに対応する判定値として設定し、小当りが当選するようにしてもよい。つまり、設定されている設定値に応じて小当り確率の割合が異なることには、小当り確率が0%であることも含まれている。

20

【0200】

なお、本実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1~3の計3個の設定値を設けているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個または4個以上（例えば6個）であってもよい。また、設定値に応じた遊技者の有利度は、設定値が小さいほど遊技者にとって有利度が高くなるものに限定されず、設定値が大きいほど遊技者にとっての有利度も高くなるようにしてもよい。例えば設定値が1~6の6段階からなる場合に、1が最も出玉率が低く、1、2、3、4、5、6の順に値が大きくなるほど出玉率が高くなり、6が最も出玉率が高くなるものであってもよい。このように、設定値として1が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が低く、6が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高くなるように、値が大きくなるほど有利度が段階的に高くなるものでもよい。

30

【0201】

図8-7は、大当り種別判定テーブルと小当り種別判定テーブルを示す説明図である。大当り種別判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数(MR2)に基づいて、大当りの種別を大当りA~大当りCのうちのいずれかに決定するために参照される。小当り種別判定テーブルは、変動表示結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数(MR2)に基づいて、小当りの種別を小当りAまたは小当りBに決定するために参照される。本実施例では、小当りAの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過した場合、すなわちV入賞大当りが発生した場合は、大当り種別が大当りDの大当り遊技が実行されるようになっている。また、小当りBの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過した場合、すなわちV入賞大当りが発生した場合は、大当り種別が大当りEの大当り遊技が実行されるようになっている。これら大当りD及び大当りEは、始動入賞時に抽出される当り種別判定用の乱数値MR2によって決定される大当り種別ではなく、小当りAと小当りBのいずれの小当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過したか否かによって決定

40

50

される大当たり種別である。

【0202】

図8-7(A)は、大当たり種別判定テーブル(第1特別図柄用)を示している。大当たり種別判定テーブル(第1特別図柄用)は、遊技球が第1始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて(すなわち、第1特別図柄の変動表示が行われるとき)大当たり種別を決定する場合に参照される。

【0203】

図8-7(B)は、大当たり種別判定テーブル(第2特別図柄用)を示している。大当たり種別判定テーブル(第2特別図柄用)は、遊技球が第2始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて(すなわち、第2特別図柄の変動表示が行われるとき)大当たり種別を決定する場合に参照される。

10

【0204】

図8-7(C)は、小当たり種別判定テーブルを示している。小当たり種別判定テーブルは、遊技球が第1始動入賞口と第2始動入賞口のうちのいずれに入賞したことに基づく保留記憶であるかにかかわらず、小当たり種別を決定する場合に参照される。

【0205】

図8-8は、本実施例における大当たり種別を示す説明図である。本実施例では、大当たり種別として、大当たり遊技状態の終了後において時短制御が実行されない大当たりA及び大当たりDと、大当たり遊技状態の終了後において時短制御が実行される大当たりB、大当たりC及び大当たりEが設定されている。これら大当たりA~大当たりEのうち、大当たりCと大当たりEは遊技者にとって最も有利な大当たりとされ、大当たりAと大当たりDは遊技者にとって最も不利な大当たりとされている。また、大当たりEは大当たりDよりも有利な大当たりであるため、小当たりBは小当たりAよりも有利な小当たりとされている。

20

【0206】

これら大当たりA~大当たりEのうち、大当たりAは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが5回(いわゆる5ラウンド)、繰返し実行される大当たりである。また、大当たりAの大当たり遊技状態の終了後は時短制御が実行されない。大当たりBは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが10回(いわゆる10ラウンド)、繰返し実行される大当たりである。また、大当たりBの大当たり遊技状態の終了後は20回の特図ゲームが実行されるまで、または20回の特図ゲームが実行されるまでに再度大当たりが発生するまで時短制御が実行される。大当たりCは、第1大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが15回(いわゆる15ラウンド)、繰返し実行される大当たりである。また、大当たりCの大当たり遊技状態の終了後は100回の特図ゲームが実行されるまで、または100回の特図ゲームが実行されるまでに再度大当たりが発生するまで時短制御が実行される。大当たりDは、第2大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが4回(いわゆる4ラウンド)、繰返し実行される大当たりである。また、大当たりDの大当たり遊技状態の終了後は時短制御が実行されない。大当たりEは、第2大入賞口を遊技者にとって有利な第2状態に変化させるラウンドが14回(いわゆる14ラウンド)、繰返し実行される大当たりである。また、大当たりEの大当たり遊技状態の終了後は100回の特図ゲームが実行されるまで、または100回の特図ゲームが実行されるまでに再度大当たりが発生するまで時短制御が実行される。

30

40

【0207】

なお、大当たりDと大当たりEは、開放対象の大入賞口を第2大入賞口としているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当たりDと大当たりEの開放対象の大入賞口は、第1大入賞口であってもよい。つまり、小当たり遊技については第2大入賞口を開放し、小当たり遊技中にV入賞が発生したことに基づく大当たりDと大当たりEについては、大当たり遊技として第2大入賞口に代えて第1大入賞口を開放すればよい。

【0208】

時短状態においては、「普図当り」となる確率が上昇することで通常状態よりも小当たりが発生しやすくなる。このため、時短状態では、第2特別図柄の変動表示結果として大当

50

りが発生する場合と、遊技球が小当り遊技中にV入賞することにより大当りが発生する場合があるので、大当り遊技状態が通常状態を介すること無く連続的に発生しやすくなり、いわゆる連チャン状態となる。

【0209】

大当りBの大当り遊技終了後の時短状態では、時短制御が実行される特図ゲーム数が20回に設定されているため、20回の特図ゲーム中に小当りが発生し、遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合（20回の特図ゲーム中に遊技球がV入賞して大当りが発生する割合）は約50%に設定されている。一方、大当りC及び大当りEの大当り遊技終了後の時短状態では、時短制御が実行される特図ゲーム数が100回に設定されているため、100回の特図ゲーム中に小当りが発生し、遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合（100回の特図ゲーム中に遊技球がV入賞して大当りが発生する割合）はほぼ100%に設定されている。

10

【0210】

本実施例では大当り種別として大当りA～大当りEの5種類が設けられているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当り種別は6種類以上設けられていてもよく、また、4種類以下が設けられていてもよい。

【0211】

大当り種別判定テーブル（第1特別図柄用）においては、設定値が「1」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～49までが大当りAに割り当てられており、50～149までが大当りBに割り当てられており、150～299までが大当りCに割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～99までが大当りAに割り当てられており、100～249までが大当りBに割り当てられており、250～299までが大当りCに割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～149までが大当りAに割り当てられており、150～249までが大当りBに割り当てられており、250～299までが大当りCに割り当てられている。このように、第1特別図柄の特図ゲームにおいて大当りが発生した場合に、大当り遊技終了に時短制御が実行される大当りBまたは大当りCを決定する割合が設定値1、2、3の順に低くなるようにしている。

20

【0212】

大当り種別判定テーブル（第2特別図柄用）においては、設定値が「1」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～29までが大当りAに割り当てられており、30～99までが大当りBに割り当てられており、100～299までが大当りCに割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～69までが大当りAに割り当てられており、70～269までが大当りBに割り当てられており、270～299までが大当りCに割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR2の判定値の範囲0～299のうち、0～199までが大当りAに割り当てられており、200～269までが大当りBに割り当てられており、270～299までが大当りCに割り当てられている。このように、第2特別図柄の特図ゲームにおいて大当りが発生した場合に、大当り遊技終了に時短制御が実行される大当りB、Cを決定する割合が、第1特別図柄の特図ゲームにおいて大当りが発生した場合よりも高く、かつ、設定値1、2、3の順に低くなるようになっている。

30

40

【0213】

本実施例においては、設定されている設定値が1である場合は、大当り種別を大当りCに決定する割合が最も高く、次いで、大当りBに決定する割合が高く、大当りAに決定する割合が最も低い（設定値1における大当り種別決定割合：大当りC>大当りB>大当りA）。また、設定されている設定値が2である場合は、大当り種別を大当りBに決定割合が最も高く、次いで、大当りAに決定する割合が高く、大当りCに決定する割合が最も低い（設定値2における大当り種別決定割合：大当りB>大当りA>大当りC）。さらに、設定されている設定値が3である場合は、大当り種別を大当りAに決定する割合が最も高く、次いで、大当りBに決定する割合が高く、大当りCに決定する割合が最も低くなっている。

50

る（設定値 3 における大当り種別決定割合：大当り A > 大当り B > 大当り C）。

【0214】

なお、設定されている設定値によっては、大当り A、大当り B、大当り C のうち、決定されていない大当り種別が 1 つまたは複数あってもよい。つまり、設定されている設定値に応じて大当り種別の決定割合が異なることには、いずれかの当り種別を決定しないこと（決定割合が 0 % である）や、特定の大当り種別を 100 % の割合で決定すること含まれている。

【0215】

小当り種別判定テーブルにおいては、設定値が「1」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 99 までは小当り A に割り当てられており、100 ~ 299 ま 10
では小当り B に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 149 までは小当り A に割り当てられており、150 ~ 299 までは小当り B に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR 2 の判定値の範囲 0 ~ 299 のうち、0 ~ 199 までは小当り A に割り当てられており、200 ~ 299 までは小当り B に割り当てられている。このように、小当り遊技中に V 入賞大当りが発生した場合は、大当り遊技終了後に時短制御が実行される特図ゲームの回数が 100 回である大当り E を決定する割合が、20 回である大当り D を決定する割合よりも高く、かつ、設定値 1, 2, 3 の順に低くなるようになっている。

【0216】

本実施例においては、設定されている設定値が 1 である場合は、小当り種別として小当り B が小当り A よりも高い割合で決定されることにより、小当り遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当り種別が大当り E に決定される割合が大当り D に決定される割合よりも高くなっている（設定値 1 における V 入賞による大当り種別決定割合：大当り E > 大当り D）。また、設定されている設定値が 2 である場合は、小当り種別として小当り A と小当り B とが同一の割合にて決定されることにより、小当り遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当り種別が大当り D に決定される割合と大当り E に決定される割合が等しくなっている（設定値 2 における V 入賞による大当り種別決定割合：大当り E = 大当り D）。さらに、設定されている設定値が 3 である場合は、小当り種別として小当り A が小当り B よりも高い割合で決定されることにより、小当り遊技中に V 入賞が発生することに基づいて大当り種別が大当り D に決定される割合が大当り E に決定される割合よりも高くな 30
っている（設定値 1 における V 入賞による大当り種別決定割合：大当り D > 大当り E）。

【0217】

このように、本実施例では、設定されている設定値に応じて変動表示結果が大当りとなった場合の大当り種別の決定割合や、V 入賞が発生した場合の大当り種別の決定割合が異なっている、つまり、設定されている設定値に応じて制御される小当り遊技状態の種類が変化するとともに、V 入賞が発生した場合に制御される大当り遊技状態の種類が変化することがあるので、遊技興趣を向上できるようになっている。

【0218】

なお、設定されている設定値によっては、小当り A、小当り B のうち、決定されない小当り種別があってもよい。つまり、設定されている設定値に応じて小当り種別の決定割合が異なることには、いずれかの一方小当り種別を決定しないこと（決定割合が 0 % である）、すなわち、他方の小当り種別を 100 % の割合で決定することも含まれている。また、小当り種別の決定割合は、変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかに応じて異なっている。小当り種別を変動特図に応じて異なる割合で決定する場合は、変動特図によっては、小当り A、小当り B のうち、決定されない小当り種別があってもよい。つまり、小当り種別を変動特図に応じて異なる割合で決定することには、いずれか一方の小当り種別を決定しないこと（決定割合が 0 % である）、すなわち、他方の小当り種別を 100 % の割合で決定することも含まれている。大当り種別と小当り種別の少なくともどちらか一方は、特図表示結果判定用の乱数値である MR 1 と用いて決定してもよい。パチンコ遊技機 1 に設定される設定値が大きいほど遊技者にとって有利となるようにしてもよい。 40
50

設定されている設定値に応じて大当り種別や小当り種別の決定割合が異なるものに限定されず、全ての設定値で同じ決定割合により、大当り種別や小当り種別が決定されてもよい。

【0219】

パチンコ遊技機1に設定される設定値にかかわらず遊技性自体は変化しないものに限定されず、パチンコ遊技機1に設定される設定値に応じて遊技性が変化するようにしてもよい。例えば、パチンコ遊技機1に設定される設定値が1である場合は、通常状態での大当り確率が1/320、確変状態が65%の割合でループする遊技性（いわゆる確変ループタイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が2である場合は、通常状態での大当り確率が1/200、大当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過することに基づいて大当り遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御する一方で、変動特図に応じて大当り遊技中に遊技球が第3カウントスイッチを通過する割合が異なる遊技性（いわゆるV確変タイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合は、大当り確率が1/320かつ小当り確率が1/50であり、高ベース中（時短制御中）に遊技球が第3カウントスイッチを通過することに基づいて大当り遊技状態に制御する遊技性（いわゆる1種2種混合タイプ）としてもよい。さらに、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3と遊技性が同一であるが、これら設定値が1～3のいずれかである場合よりも大当り確率や小当り確率が高い一方で大当り遊技中に獲得可能な賞球数が少ない設定（例えば、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4である場合）を設けてもよい。設定値に応じて遊技性を変化させる場合は、共通のスイッチを異なる用途に使用してもよい。具体的には、設定値が1や4の場合は、第3カウントスイッチを演出用スイッチ（遊技球が第3カウントスイッチを通過する毎に所定の演出を実行するためのスイッチ）として使用し、設定値が2や3の場合は、第3カウントスイッチを遊技用スイッチ（遊技球が第3カウントスイッチを通過したことに基づいて遊技状態を確変状態や大当り遊技状態に制御するためのスイッチ）として使用してもよい。

【0220】

ROM101には、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルが記憶されている。変動パターン判定テーブルは、事前決定結果に応じて複数種類のうちのいずれかの変動パターンに決定するために用いられる。変動パターン判定テーブルとしては、変動表示結果を「大当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、変動表示結果を「小当り」にすることが事前決定されたときに使用される大当り用変動パターン判定テーブルと、変動表示結果を「はずれ」にすることが事前決定されたときに使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルとが予め用意されている。

【0221】

図8-9は、大当り用変動パターン判定テーブルと小当り用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。大当り用変動パターン判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。小当り用変動パターン判定テーブルは、変動表示結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。

【0222】

図8-9(A)は、大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）を示している。大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）は、大当り種別が大当りAである場合に参照される。大当り用変動パターン判定テーブル（大当りA用）においては、設定値が「1」である場合、MR3の判定値の範囲0～997のうち、0～300までがノーマルリーチ大当りの変動パターン（PB1-1）に割り当てられており、301～800までがスーパーリーチα大当りの変動パターン（PB1-2）に割り当てられており、801～997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン（PB1-3）に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR3の判定値の範囲0～997のうち、0～

350までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、351~825までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、826~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~400までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、401~850までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、851~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。

【0223】

図8-9(B)は、大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)を示している。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)は、大当り種別が大当りBまたは大当りCの場合に参照される。大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)においては、設定値が「1」である場合、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~100までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、101~350までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、351~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「2」である場合、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~150までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、151~450までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、451~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。また、設定値が「3」である場合、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~200までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、201~550までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、551~997までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられている。

【0224】

大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)と大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)には、ノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)の各変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。特図ゲームにおいて大当りAが当選した場合に、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)を決定する割合が、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)を決定する割合よりも高く、かつ、設定値1, 2, 3の順に低くなるようになっている。また、特図ゲームにおいて大当りBまたは大当りCが当選した場合に、スーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)を決定する割合が、スーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)を決定する割合よりも高く、かつ、設定値1, 2, 3の順に低くなるようになっている。本実施例では、大当りの種別が「大当りB」または「大当りC」である場合にはスーパーリーチβが決定され易く、大当りの種別が「大当りA」である場合には、スーパーリーチαが決定され易いように、判定値が割り当てられていることで、スーパーリーチβの変動パターンが実行されたときには、「大当りB」または「大当りC」となるのではないかという遊技者の期待感を高めることができる。

【0225】

図8-9(C)は、小当り用変動パターン判定テーブルを示している。小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、設定値が「1」、「2」、「3」のいずれである場合でも、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~997までが小当りの変動パターン(PC1-1)に割り当てられている。小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、小当りの変動パターン(PC1-1)の変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。なお、

本実施における小当りの変動パターンとしてはPC1-1のみが設けられているが、本発明はこれに限定されるものではなく、小当りの変動パターンとしては2以上の変動パターンを設け、設定値「1」、「2」、「3」で小当りの変動パターンを複数の変動パターンから異なる割合で決定してもよい。

【0226】

図8-10は、はずれ用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。はずれ用変動パターン判定テーブルは、変動表示図柄をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン判定用の乱数値MR3に基づいて変動パターンを決定するために参照される。

【0227】

図8-10(A)は、はずれ用変動パターン判定テーブルAを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルAは、遊技状態が時短制御の実施されていない低ベース状態において保留記憶数が1個以下である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルAにおいては、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン(PA1-1)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0228】

図8-10(B)は、はずれ用変動パターン判定テーブルBを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルBは、低ベース状態において合計保留記憶数が2~4個である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルBにおいては、合計保留記憶数が2~4個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン(PA1-2)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0229】

図8-10(C)は、はずれ用変動パターン判定テーブルCを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルCは、低ベース状態において合計保留記憶数が5~8個である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルCにおいては、合計保留記憶数が5~8個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン(PA1-3)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0230】

図8-10(D)は、はずれ用変動パターン判定テーブルDを示している。はずれ用変動パターン判定テーブルDは、遊技状態が時短制御の実施されている高ベース状態である場合に参照される。はずれ用変動パターン判定テーブルDにおいては、時短制御中に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン(PA1-4)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【0231】

はずれ用変動パターン判定テーブルA~Dを用いる場合、非リーチ変動パターンまたはノーマルリーチ変動パターンを決定する割合が、スーパーリーチ変動パターンを決定するよりも高く、かつ、設定値1、2、3の順に低くなるようになっている。また、はずれ用変動パターン判定テーブルA~Dを用いる場合は、変動パターン判定テーブルにかかわらず判定値のうち701~900までがスーパーリーチαはずれの変動パターン、901~

10

20

30

40

50

997までがスーパーリーチβはずれの変動パターンにそれぞれ割り当てられている、つまり、変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチの変動パターンを共通の決定割合で決定するので、スーパーリーチの変動パターンによる変動表示が実行されないことにより演出効果が低下してしまうことを防ぐことができる。

【0232】

なお、「共通の決定割合」とは、異なる設定値にて決定割合が完全に同一であるもの（本実施例）の他、異なる設定値にて決定割合が同一であるもの（例えば、設定値1～設定値3間において、スーパーリーチの変動パターンの決定割合が1%程度異なるもの）を含んでいる。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチの変動パターンの決定割合が同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらず非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの全ての変動パターンの決定割合が同一であってもよいし、また、非リーチ、ノーマルリーチのいずれかの変動パターンの決定割合のみが同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチαはずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβはずれの変動パターンの決定割合の両方が設定されている設定値にかかわらず同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチαはずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβはずれの変動パターンの決定割合のどちらか一方のみの決定割合が設定されている設定値にかかわらず同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチαはずれの変動パターンの決定割合とスーパーリーチβはずれの変動パターンの決定割合の両方が設定されている設定値にかかわらず同一である形態に限定されるものではなく、変動表示結果が大当たりである場合においても、設定されている設定値にかかわらずスーパーリーチ大当たりの変動パターンの決定割合が設定されている設定値にかかわらず同一であってもよい。変動表示結果がはずれである場合は、設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチの変動パターンの決定割合が異なる形態に限定されるものではなく、設定されている設定値によっては、非リーチの変動パターンとノーマルリーチの変動パターンのうち、決定されない変動パターンが1つまたは複数であってもよい。設定されている設定値に応じて変動パターンの決定割合が異なることには、いずれかの変動パターンを決定しないこと（決定割合が0%であること）や、特定の変動パターンを100%の割合で決定することも含まれている。合算保留記憶数に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する形態に限定されるものではなく、変動対象の特別図柄における保留記憶数（例えば、第1特別図柄の変動表示を実行する場合は第1特別図柄の保留記憶数、第2特別図柄の変動表示を実行する場合は第2特別図柄の保留記憶数）に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定してもよい。

【0233】

各はずれ用変動パターン判定テーブルにおいては、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれの数値であっても、スーパーリーチはずれの変動パターン（PA2-2及びPA2-3）に割り当てられている乱数値の範囲が同一となっている。しかしながら、大当たり確率及びはずれ確率は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なっているので、実際に変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行される割合（スーパーリーチはずれの変動パターンの出現率）は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なっている。なお、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行される割合が異なる形態に限定されるものではなく、各設定値毎の大当たり確率及びはずれ確率を考慮し、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず同一の割合で変動表示がスーパーリーチはずれの変動パターンにて実行されるようにしてもよい。

【0234】

図8-11は、遊技制御用データ保持エリア150を示している。遊技制御用データ保

持エリア 150 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が備える RAM 102 に設けられ、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域となる。遊技制御用データ保持エリア 150 は、第 1 特図保留記憶部 151 A と、第 2 特図保留記憶部 151 B と、普図保留記憶部 151 C と、遊技制御フラグ設定部 152 と、遊技制御タイマ設定部 153 と、遊技制御カウンタ設定部 154 と、遊技制御バッファ設定部 155 とを備えている。

【0235】

第 1 特図保留記憶部 151 A は、第 1 特別図柄表示器 4 A における第 1 特図の可変表示に関する保留データを記憶する。一例として、第 1 特図保留記憶部 151 A は、第 1 始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）による第 1 始動条件の成立に基づいて CPU 103 により乱数回路 104 等から抽出された変動表示結果判定用の乱数値 MR 1 や大当たり種別判定用の乱数値 MR 2、変動パターン判定用の乱数値 MR 3 を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。第 1 始動条件は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞が発生することにより成立する。第 1 特図保留記憶部 151 A に記憶された保留データは、第 1 特図を用いた特図ゲームの実行が未だ開始されずに保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

10

【0236】

第 2 特図保留記憶部 151 B は、第 2 特別図柄表示器 4 B における第 2 特図の可変表示に関する保留データを記憶する。一例として、第 2 特図保留記憶部 151 B は、第 2 始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）による第 2 始動条件の成立に基づいて CPU 103 により乱数回路 104 等から抽出された変動表示結果判定用の乱数値 MR 1 や大当たり種別判定用の乱数値 MR 2、変動パターン判定用の乱数値 MR 3 を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。第 2 始動条件は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞が発生することにより成立する。第 2 特図保留記憶部 151 B に記憶された保留データは、第 2 特図を用いた特図ゲームの実行が未だ開始されずに保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

20

30

【0237】

なお、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第 1 始動条件の成立に基づく保留情報（第 1 保留情報）と、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第 2 始動入賞の成立に基づく保留情報（第 2 保留情報）とを、共通の保留記憶部にて保留番号と対応付けて記憶するようにしてもよい。この場合には、第 1 始動入賞口と第 2 始動入賞口のいずれを遊技球が通過（進入）したかを示す始動口データを保留情報に含め、保留番号と対応付けて記憶させればよい。

【0238】

普図保留記憶部 151 C は、通過ゲート 41 を通過した遊技球がゲートスイッチ 21 によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器 20 により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部 151 C は、遊技球が通過ゲート 41 を通過した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいて CPU 103 により乱数回路 104 等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値 MR 4 を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

40

【0239】

遊技制御フラグ設定部 152 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定

50

部 1 5 2 には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。遊技制御タイマ設定部 1 5 3 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部 1 5 3 には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられるカウンタ値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウンタ値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 には、遊技用乱数の一部または全部を CPU 1 0 3 がソフトウェアにより更新可能にカウンタするためのランダムカウンタが設けられてもよい。遊技制御バッファ設定部 1 5 5 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部 1 5 5 には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

10

【0 2 4 0】

遊技制御カウンタ設定部 1 5 4 のランダムカウンタには、乱数回路 1 0 4 で生成されない乱数値、例えば、乱数値 MR 1 ~ MR 4 を示す数値データが、ランダムカウンタ値として記憶され、CPU 1 0 3 によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。CPU 1 0 3 がランダムカウンタ値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウンタ値を乱数回路 1 0 4 における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路 1 0 4 から抽出された数値データの全部又は一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウンタ値を更新するためのものであってもよい。

20

【0 2 4 1】

本実施例の主基板 1 1 における遊技球の集計および役物比率等の表示について説明する。主基板 1 1 には、遊技の入賞に関する情報、例えば、第 1 始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第 2 始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、発射球数が集計され、表示モニタ 2 9 は、賞球合計数のうち第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である連比（％）、賞球合計数のうち第 2 始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である役比（％）、打ち出した遊技球数に対する賞球合計数が占める割合であるベース（％）を表示するようになっている。連比とは、賞球合計数のうち第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の連続役物獲得球数）が占める割合である。役比とは、賞球合計数のうち第 2 始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の役物獲得球数）が占める割合である。ベースとは、賞球合計数に対する打ち出した遊技球数が占める割合である。賞球合計数（下記の総獲得球数）は、第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数と、第 2 始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と、第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）及び第 2 始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第 1 始動入賞口、一般入賞口）への入賞による賞球数と、の総和である。なお、第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）及び第 2 始動入賞口（電チュー）は、可変役物であり、遊技球の通過可能幅が変動することで、遊技球の入賞想定割合が変動する役物である。また、第 1 大入賞口および第 2 大入賞口（アタッカー）及び第 2 始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第 1 始動入賞口、一般入賞口）は、固定役物であり、遊技球の通過可能幅が固定されており、遊技球の入賞想定割合は一定の役物である。

30

40

【0 2 4 2】

遊技の入賞に関する情報の集計、計算方法としては、連比と役比については、6 0 0 0 個の賞球数における第 1 始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球

50

数（一般賞球数）、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数である普通電役賞球数（電チュー賞球数）、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数である特別電役賞球数（アタッカー賞球数）を集計する。その集計を1セットとし、10セット分、すなわち60000個分の連比（%）、役比（%）を算出する。なお、集計する第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、普通電役賞球数（電チュー賞球数）、特別電役賞球数（アタッカー賞球数）は、設定値毎に設けられたリングバッファに記録されるようになっており、少なくとも11セット分の記録容量があり、1セット毎に更新するようになっており、つまり、60000個の11セット分の記憶を相当数量（例えば、数バイト分）記憶しており、それらの累計の連比（%）、役比（%）を算出することができる。また、ベースについては、60000個の賞球数に対する打ち出した遊技球数を集計する。その集計を1セットとし、打ち出した遊技球数に対する60000個の賞球の占める割合（ベース（%））を算出する。

【0243】

表示モニタ29は、60000個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（%））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（%））を所定時間（例えば、5秒）毎に切り替えて表示することができる。すなわち、一つの表示手段で6つの表示を切り替えて表示するようになっており、この場合、全て表示を行うのに30秒要するが、遊技が進行することで集計される第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が変化することになる。とすると、例えば、60000個分の連比（%）を表示した後に入賞した賞球数を、その後に表示される60000個分の役比（%）に反映してしまうと、60000個分の連比（%）と60000個分の役比（%）とで食い違いが生じてしまうおそれがある。そこで、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）の入賞による賞球数、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、集計は、切替表示における所定のタイミング（例えば、60000個分の連比（%）の表示タイミングなど）で行うようにすれば、このような食い違いを防ぐことができる。

【0244】

なお、本実施例における遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、設定値毎に設けられており、一般入賞賞球や第1始動口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されるようになっており、このため、本実施例の連比、役比、ベースは、設定値ごとに個別に算出可能となっている。

【0245】

以下に計算方法の一例として、賞球合計数が60000個であり、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数との合計である役物獲得球数が42000個である場合の役物比率（役比（%））の計算方法を説明する。なお、以下の説明において、総獲得球数とは、パチンコ遊技機1から払い出された遊技媒体（賞球）の総累計数をいう。また、役物獲得球数とは、アタッカー及び電チューに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。また、連続役物獲得球数とは、アタッカーに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。打込合計とは、賞球数が60000個に達するまでにパチンコ遊技機1に打ち込まれた遊技媒体の累計数をいう。このため、連比は、下記（1）式で求めることができる。また、役比は、下記（2）式で求めることができる。また、ベースは下記（3）式で求めることができる。

【0246】

連比 = [連続役物獲得球数 / 総獲得数] × 100 …… (1)

【0247】

役比 = [(連続役物獲得球数 + 役物獲得球数) / 総獲得数] × 100 …… (2)

【0248】

ベース＝[60000（賞球合計数）／打込合計]×100・・・（3）

【0249】

賞球合計数が60000個であり、役物獲得球数が42000個である場合の役物比率は、42000を60000で除算することにより0.70（小数点以下3桁切り捨て）として求められる。しかしながら、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは小数点以下の演算を行うことができないため、以下の手法での演算が必要となる。

【0250】

まず、第1の演算方法を説明する。第1の演算方法において、まず、役物獲得球数を100倍して4200000とする。そしてこの4200000を60000で除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、被除数を100倍することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000倍すればよい。

10

【0251】

次に、第2の演算方法を説明する。第2の演算方法において、まず、賞球合計数を100で除算して600とする。そしてこの600で42000を除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、除数を100で除算することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000で除算すればよい。

20

【0252】

上記した例で賞球合計数は60000個であるが、長い期間の役物比率を算出するために、賞球合計数を格納するための領域として3バイトの領域が設けられている。つまり本例では3バイトの格納領域に00EA60hとして格納される。また、同様に役物獲得球数も3バイトの格納領域に00A410hが格納される。パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは最大2バイトの値同士の演算しか行うことができない。したがって、演算を容易にするために、下位1バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【0253】

上記第2の演算方法を簡略化して行う第3の演算方法を説明する。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の00EA60hに対し、下位1バイトの60hを切り捨て、賞球合計数を00EAh、つまり10進数表記で234を算出する。同じく、役物獲得球数の00A410hに対し、下位1バイトの10hを切り捨て、役物獲得球数を00A4h、つまり10進数表記で164を算出する。そして、上記第2の演算方法と同様に、賞球合計数を100で除算（273／100）して2を算出する。そして、この2で156を除算して、商として78が求められる。ここで求められた78より役物比率が78%として求められる。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1で用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になる一方、+12%の誤差が生じる。ただし、賞球合計数および役物獲得球数がともに10倍の場合の誤差は+1%となる。つまり、役物比率を算出するための期間が長くなることにより誤差は縮小され、本来の数値に近似する。

30

40

【0254】

役比（%）の計算は、例として総獲得球数を34321個、役物獲得球数を19876個とすると、19876個に対して34321個を除数として除算し、割合を計算する。 $19876 / 34321 = 0.57912 \dots$ となり約57.9%の役比（%）であることが算出される。遊技制御用マイクロコンピュータ100において演算を行う場合には小数点での計算を避けなければならないため、以下のような計算式に置き換える。 $19876 / 34321$ の除算において分母の34321を100で除算し、小数点を切り捨て、 $19876 / 343 = 57.9475 \dots$ となる。小数点以下は切り捨てられるため57%の役比（%）であることが算出され、表示モニタ29に表示されることとなり、こ

50

の例の場合には正確な計算によって算出した値とは表示上では誤差がないものとなる。

【0255】

16ビットにおける最小値は32768（最上位ビットの値以外が0）で誤差が最大となる値は総獲得球数および役物獲得球数がそれぞれ32799であるときである。これを上記の方法で計算すると、 $32799 / 32799 = 100\%$ 、遊技制御用マイクロコンピュータ100での計算に置き換えると $32799 / 327 = 100.3\%$ で $+0.3\%$ の誤差となる。小数点を切り捨てて計算を行った場合に、例えば、正確な値が69.9%、遊技制御用マイクロコンピュータの計算による値が70.1%となった場合に69%→70%で表示上1%の誤差が表示されることが考えられるが、1%の誤差という表示上においても非常に小さい誤差で役比（%）（又は連比（%））が表示できる。

10

【0256】

また、上記の計算方法を用いる場合に、総獲得球数を100で除算するため、総獲得球数が100未満の場合には計算を行うことができない。さらに、32768未満である場合にも徐々に誤差が大きくなる。10000未満である場合には誤差が1%を超え、さらに大きな誤差となる場合がある。つまり、総獲得球数が少ないほど誤差が大きくなってしまふ。このため特定の数以上の総獲得球数（例えば16ビットの最小値である32768）をカウンタによって集計するまでは、表示モニタに役比（%）、連比（%）の表示を行わなかったり、表示を行ったとしても誤差が大きい可能性があることを専用のLEDの発光や、報知音を出力したり、表示された値を点滅表示させるなどして報知してもよい。

【0257】

20

遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、クリアスイッチAK001などが操作された場合に初期化は行われず、継続して記憶されてもよい。この記憶領域は、リングバッファを含み、最大2バイトのカウンタを10個備えるリングバッファに記憶された遊技の入賞に関する情報を合計した10セット合計バッファや賞球合計数バッファなどを構成してもよい。なお、記憶された値のチェックサムを算出し、異常が検出された場合に初期化を行ったり、記憶された賞球合計数の値よりも役物獲得球数の値が大きかったり、役物獲得球数の値よりも連続役物獲得球数の値が大きかったりした場合など、状況として起こりえない事象が検知された場合などには遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域の初期化処理を行ってもよい。また、初期化処理を行うことなく、エラー表示や警告表示などを行ってもよいし、エラー表示や警告表示を行うとともに、あるいは行った後に初期化処理を行ってもよい。

30

【0258】

なお、連比や役比の算出などに障害が生じた場合といった、連比や役比の算出をやり直さざるを得ない状態に陥った時に、クリアスイッチAK001とは異なる表示モニタクリア用スイッチを操作することにより、RAM102あるいはフラッシュメモリといった不揮発性の記憶装置に記憶された連比や役比に用いるデータがクリアされてもよい。表示モニタクリア用スイッチは、遊技盤2の裏側面において、例えば電源基板17の所定位置といった、遊技場の係員等が容易に操作できない位置に配置されていればよい。表示モニタクリア用スイッチを操作すると、クリア信号とは異なる表示モニタクリア信号が主基板11に送信される。

40

【0259】

基板ケース201は、透光性を有する材質で形成されており、主基板11、及び表示モニタ29が視認可能になっている。基板ケース201には主基板11に接続される配線コネクタが挿通する図示しない孔部と、主基板11の電気部品の熱を放出するための放熱孔とが形成されている。主基板11に設けられた表示モニタ29は、放熱孔が真正面にはない位置に配置されている。このため放熱孔によって表示モニタ29の視認性が遮られないようにされている。なお、ここでの「真正面」とは、主基板11を視点としての真正面を意味し、主基板11を視認しようとする遊技場の係員等と主基板11との間を意味する。

【0260】

表示モニタ29は役比（%）と、連比（%）と、ベース（%）を7セグメント上に表示

50

するものであり、それぞれの値を所定期間毎（例えば5秒毎）に切り替えて表示する。この場合に、例えば役比（％）を5秒間表示している間に、電チューやアタッカーへ新たに遊技媒体が入賞するという事象が発生し、それに従い計算した値を5秒後に連比（％）の値として表示してしまうと、役比（％）と連役（％）との値が乖離してしまう虞がある。このため、役比（％）と連比（％）は同一割込み内で計算し算出された値を順次表示していくことが好ましい。7セグメントに表示可能な数値を2ケタとした場合（例えば7セグメントが2つ設けられている場合）に100％を100として表示ができなくなる。この場合には100の代わりに99を表示するようにしてもよい。表示モニタ29では、下位2桁に数値を表示可能としているが、この場合でも、上位2桁を使用することなく、数値を表示してもよい。あるいは、特定の条件の下で、上位2桁の一部に数値を表示してもよい。なお、アタッカーと電チューのそれぞれに設けられたセンサによって遊技媒体が入賞したことを検出し、その検出結果に基づいてそれぞれの賞球数を個別に集計する形態に限定されるものではなく、アタッカーに入賞した遊技媒体と電チューに入賞した遊技媒体とが排出される排出通路が合流した後に設けられたセンサとを使い、その検出結果に基づいて役物獲得球数、連続役物獲得球数を集計するようにしてもよい。

10

【0261】

主基板11は、遊技盤2の裏面側に設けられている。遊技盤2の裏面側には、主基板11以外その他、演出制御基板12などの各周辺基板も設けられている。主基板11におけるRAM102には、ゲート通過数カウンタ、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタ、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタ、大入賞数カウンタが設けられている。なお、第1大入賞口および第2大入賞口（アタッカー）の入賞数を大入賞数カウンタにて集計する形態に限定されるものではなく、これら第1大入賞口への入賞数を集計する第1大入賞数カウンタと、第2大入賞口への入賞数を集計する第2大入賞数カウンタとを個別に設けて、第1大入賞口への入賞数と第2大入賞口への入賞数とを個別に集計し、これらの各入賞数を合計してアタッカーへの入賞数とするようにしてもよい。

20

【0262】

ゲート通過数カウンタは、ゲートスイッチ21が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1始動入賞数カウンタは、第1始動口スイッチ22Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2始動入賞数カウンタは、第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1一般入賞数カウンタは、第1一般入賞口スイッチ26Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2一般入賞数カウンタは、第2一般入賞口スイッチ26Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第3一般入賞数カウンタは、第3一般入賞口スイッチ26Cが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第4一般入賞数カウンタは、第4一般入賞口スイッチ26Dが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。大入賞数カウンタが、第1カウントスイッチ23と第2カウントスイッチ24Aとが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。

30

【0263】

図8-12は、表示モニタ29の配置と表示内容を示している。主基板11は、基板ケース201に収容されている。基板ケース201には、かしめピン11Bが取り付けられている。このかしめピン11Bが設けられていることにより、主基板11が基板ケース201に完全に封入された状態となり、主基板11に対する不正行為を防止するようになっている。基板ケース201は、かしめられた基板ケース（以下「かしめ基板ケース」ともいう）である。表示モニタ29は、主基板11上に設けられている。また、基板ケース201には、主基板11が封入されたことを証明するための封印シール11Sが貼られている。封印シール11Sは例えば基板ケース201における取り外し部分をまたいで貼られている。封印シール11Sは、主基板11からは離れた位置に配置されており、表示モニタ29の真正面など、表示モニタ29の視認性が遮られる位置とは異なる位置に配置されている。このように、表示モニタ29は、封印シール11Sによって隠されない位置に配

40

50

置されている。

【0264】

図8-12(A)に示すように、表示モニタ29は、第1表示部29A、第2表示部29B、第3表示部29C、第4表示部29D及び第5表示部29Eを備えている。第1表示部29A～第5表示部29Eは、いずれも「8」の字を描く7つのセグメントによって構成される7セグメントと、7セグメントの右側方下部に配置されたドットによって構成されている。これらの第1表示部29A～第5表示部29Eは、それぞれ種々の色、例えば赤色、青色、緑色、黄色、白色等で点灯、点滅可能とされている。また、これらの色を極短周期で変化させながら異なる色やいわゆるレインボーで表示させることもできる。

【0265】

図8-12(B)に示すように、表示モニタ29には表示No1～6の各項目が表示される。1桁目の第1表示部29Aには集計させた設定値(1～3)が表示され、2桁目の第2表示部29Bと3桁目の第3表示部29Cには集計期間が表示され、4桁目の第4表示部29Dと5桁目の第5表示部29Eには数値が百分率で表示される。表示No1では、短期の連比が表示され、表示No2では、短期の役比が表示される。表示No3では、総累計の連比が表示され、表示No4では、総累計の役比が表示される。また、表示No5では、前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース(ベース1)が表示され、表示No6では、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース(ベース2)が表示される。ここでの短期とは、払い出された賞球数(獲得球数)が6000個であった期間を意味する。総累計を求める期間は、連比、役比の算出を開始してからの通算、又は連比、役比の計算を一旦リセットしてからの通算の期間を意味する。なお、上記の例では、連比や役比、ベースは、遊技状態によらずに算出するが、遊技状態を考慮して算出してもよい。例えば、連比は、賞球合計数のうち、大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、役比は、賞球合計数のうち、高ベース状態中の第2始動入賞口への入賞による賞球数と大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、ベースは、低ベース状態と高ベース状態とで個別に算出してもよい。

【0266】

表示No1の短期連比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「y6.」が表示され、表示No2の短期役比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「y7.」が表示される。表示No1の短期連比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期連比が百分率表示(%表示)され、表示No2の短期役比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、短期役比が百分率表示(%表示)される。表示No3の総累計連比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「A6.」が表示され、表示No4の総累計役比が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「A7.」が表示される。表示No3の総累計連比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計連比が百分率表示(%表示)され、表示No4の総累計役比が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比が百分率表示(%表示)される。表示No5のベース1が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「bL.」が表示され、表示No4のベース2が表示される場合には、第2表示部29B及び第3表示部29Cに「B6.」が表示される。表示No5のベース1が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計連比が百分率表示(%表示)され、表示No6のベース2が表示される場合には、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比が百分率表示(%表示)される。

【0267】

主基板11は、連比、役比及びベースを算出するにあたり、第1大入賞口および第2大入賞口(アタッカー)、第1始動入賞口、第2始動入賞口、及び第1一般入賞口から第4一般入賞口に進出した遊技球の進出数と、排出口から排出された遊技球数の集計を行って

いる。CPU103は、メイン処理において、ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A及び第2始動口スイッチ22B、第1カウントスイッチ23、第2カウントスイッチ24A、並びに、第1一般入賞口スイッチ26A～第4一般入賞口スイッチ26D、排出口スイッチ70の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を行っている。スイッチ処理において、各スイッチから出力される検出信号に基づいて、いずれの進入領域に遊技球が進入したのかを特定する。そして、ゲートスイッチ21から検出信号が出力された場合には、ゲート通過数カウンタの値を加算し、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22Bから検出信号が出力された場合には、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタの値を加算し、カウントスイッチ23から検出信号が出力された場合には、大入賞数カウンタの値を加算し、第1一般入賞口スイッチ26A、第2一般入賞口スイッチ26B、第3一般入賞口スイッチ26C、第4一般入賞口スイッチ26Dから検出信号が出力された場合には、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタの値を加算し、排出口スイッチ70から検出信号が出力された場合には、打込数カウンタの値を加算することで、各進入領域への遊技球の進入数（各入賞口への遊技球の入賞数）を集計する。なお、各カウンタの値はRAM102に記憶されている。このように、各進入領域への遊技球の進入数を集計するためのステップを、各進入領域に対応したスイッチの状態を確認する一連の処理において併せて実行する（スイッチの状態確認処理であるスイッチ処理に含める）ことにより、別途の集計プログラムを実行させることなく、すなわち、実行プログラムが増加することによる容量不足という問題を生じさせることなく、各進入領域への遊技球の進入数を集計可能となっている。

【0268】

図8-13は、各入賞口への賞球数を記憶する記憶領域を示している。主基板11のCPU103は、集計した各入賞口への遊技球の入賞数に基づいて、各入賞口への入賞による賞球数を算出し、算出した賞球数を入賞口ごとにRAM102に記憶させる。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口に対する1回の入賞で払い出される遊技球数と、当該入賞口への入賞回数を乗じた数で算出される。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口毎にあらかじめ定められている。区分される入賞口ごとの賞球数は、一般入賞口賞球（第1一般入賞口～第4一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球）、第1始動入賞口賞球（第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球）、普通電役賞球（電チューへの入賞による賞球）、特別電役賞球（アタッカーへの入賞による賞球）の賞球数である。また、RAM102は、総賞球数や打ち込まれた遊技球数も記憶している。なお、CPU103では、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数を個別に集計しているが、一般入賞口への遊技球の入賞数と第1始動入賞口への遊技球入賞数をまとめて集計してもよい。また、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とを個別に算出しているが、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とをまとめて算出してもよい。

【0269】

RAM102は、これらの賞球数や打込数を記憶するためのリングバッファとアクティブバッファを備えている。リングバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる10個の第1記憶領域～第10記憶領域を備えている。このように、リングバッファでは、所定単位（最大2バイト）の記憶領域を備えている。また、アクティブバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる第0記憶領域を備えている。第0記憶領域には、遊技の進行によって増加する入賞口毎の賞球数が加算される。第0記憶領域～第10記憶領域の11個の記憶領域は、 $256 \times 256 = 65536$ のデータを記憶可能であり、6000個までのデータは余裕をもって記憶できる。また、RAM102には、入賞口毎に、第1記憶領域～第10記憶領域に記憶された賞球数（10セット分）や打込数の総和と、総累計との記憶領域が設けられている。10セット分の総和及び総累計の記憶領域は、最大3バイトのカウンタで構成されている、このため、2

$56 \times 256 \times 256 = 16777216$ のデータを記憶可能であり、60000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0270】

RAM102には、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域と、10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分のベース（ベース1）を記憶するベース記憶領域とが設けられている。主基板11のCPU103では、10セット分及び総累計の各入賞口への遊技球の入賞数に基づく賞球数によって、10セット分及び総累計の役比及び連比を算出し、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域に記憶させる。10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域は、いずれも最大1バイトのカウンタで構成されている。10セット分及び総累計の役比及び連比は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。主基板11のCPU103では、10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって、10セット分のベースを算出し、算出された10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって算出したベース（ベース1）とをベース記憶領域に記憶させる。ベース1とベース2は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

10

【0271】

図8-14は、主基板11におけるCPU103のメモリマップを示している。CPU103は、内蔵レジスタ、ROM101、RAM102などにアクセスするためのメモリ空間を有している。ROM101のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のROM領域（本実施形態では、0000H～2FFFFHのうち、0000H～2FBFH。2FC0H～2FFFFHはプログラム管理エリア）である内蔵ROMエリアに割り当てられ、CPU103は、このROM領域を指定してROM101からのデータの読み出しを行う。また、本実施例では、ROM領域を第一領域～第八領域の8つの領域に分けて管理を行っており、第一領域は0000Hから始まる領域としている。内蔵レジスタのアドレス／データ信号線は、メモリ空間の内蔵レジスタエリア（本実施形態では、FE00H～FEBFH）に割り当てられ、CPU103は、この内蔵レジスタエリアを介して内蔵レジスタからのデータの読み出しやレジスタへのデータの書き込みを行う。RAM102のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のRWM領域（本実施形態では、F000H～F3FFFH）である内蔵RAMエリアに割り当てられ、CPU103は、このRWM領域を指定してRAM102からのデータの読み出しやRAM102へのデータの書き込みを行う。なお、メモリ空間の他の領域（本実施形態では、3000H～EFFFFH、F400H～FDDFFH、FEC0H～FFFFFFH）は非使用領域とされている。

20

30

【0272】

図8-15は、内蔵RAMエリアとなるRWM領域を示している。RAM102の記憶領域に対応する内蔵RAMエリアは、RAM制御領域、非使用領域、RAMデータ領域及びその他領域で構成されている。RAM制御領域に対応するRAM102の記憶領域には、CPU103が実行する複数種類の命令それぞれに対応する命令データ（オペコード）、CPU103がそれぞれの命令を実行するために必要な補足データ（オペランド）によって構成される制御プログラム用のデータ（単に、制御プログラムデータと称する場合がある）が、一時的に記憶されている。RAMデータ領域に対応するRAM102の記憶領域には、制御プログラムによって参照される参照データ（例えば、各種抽選データ）が一時的に記憶される。

40

【0273】

連比や役比の表示に用いるデータは、非使用領域に対応するRAM102の記憶領域、あるいは、その他領域に対応するRAM102の記憶領域に、一時的に記憶される。例えば、非使用領域に対応するRAM102の記憶領域には、入賞口毎の賞球数の総累計を記憶する記憶領域及び総累計の連比役比記憶領域が設けられている。その他領域に対応するRAM102の記憶領域には、入賞口毎の第0記憶領域を備えるアクティブバッファ、第

50

1 記憶領域～第 10 記憶領域を備えるリングバッファ、入賞口毎の賞球数（10 セット分）の総和の記憶領域、及び 10 セット分の連比役比記憶領域が設けられている。なお、非使用領域に対応する RAM 102 の記憶領域と、その他領域に対応する RAM 102 の記憶領域とには、サブルーチンの先頭アドレスが互いに異なるデータがそれぞれ記憶されている。内蔵 RAM エリアにおける各々のアドレスに対応する RAM 102 の記憶領域には、1 バイト（8 ビット）のデータが記憶可能であり、各データ（命令データ、補足データ、参照データ、管理データ）が 1 バイトを超えるバイト数（例えば、2 バイト）のデータである場合には、RAM 制御領域の連続する複数のアドレスに対応する RAM 102 の記憶領域に、それらのデータを 1 バイト毎に分割して記憶している。

【0274】

図 8-16 は、表示モニタ 29 における表示の制御例を示している。主基板 11 は、表示モニタ 29 に対して、連比、役比、ベースを表示する制御を行う。表示モニタ 29 では、複数の項目が順次表示される。

【0275】

図 8-16（A）は、表示モニタ 29 における表示変化の態様を示すタイムチャートである。表示モニタ 29 に対する表示を開始すると、まず表示 No 1 の短期連比が表示される。表示 No 1 の短期連比の表示は、緑字で表示される。表示 No 1 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 2 の短期役比が表示される。表示 No 2 の短期連比の表示は、赤字で表示される。表示 No 2 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 3 の総累計連比が表示される。表示 No 3 の総累計連比の表示は、赤字で表示される。表示 No 3 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 4 の総累計役比が表示される。表示 No 4 の総累計役比の表示は、赤字で表示される。表示 No 4 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 5 のベース 1 が表示される。表示 No 5 のベース 1 の表示は、赤字で表示される。表示 No 5 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 6 のベース 2 が表示される。表示 No 6 のベース 2 の表示は、赤字で表示される。そして、表示 No 6 の表示が 5 秒間継続すると、表示 No 1 の短期連比が表示される。以後、表示 No 1 の短期連比から表示 No 6 のベース 2 まで、各表示が 5 秒毎に順次変化して表示される。その表示の色は、表示 No 1 の短期連比のみが緑色とされ、表示 No 2 の短期役比～表示 No 5 のベース 2 は赤色とされる。このように、表示モニタ 29 は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース 1、ベース 2 を 5 秒ごとに切り替えて表示する。

【0276】

図 8-16（B1）には、表示 No 1 の短期連比を表示する場合が示されている。この場合には、第 1 表示部 29A に設定値である「1」が表示され、第 2 表示部 29B に「y」の文字が表示され、第 3 表示部 29C に「6.」の文字が表示される。また、第 4 表示部 29D 及び第 5 表示部 29E には、短期連比が表示される。例えば、短期連比が 41% の場合、第 4 表示部 29D に「4.」の文字が表示され、第 5 表示部 29E に「1.」の文字が表示される。

【0277】

図 8-16（B2）には、表示 No 2 の短期役比を表示する場合が示されている。この場合には、第 1 表示部 29A に設定値である「1」が表示され、第 2 表示部 29B に「y」の文字が表示され、第 3 表示部 29C に「7.」の文字が表示される。また、第 4 表示部 29D 及び第 5 表示部 29E には、短期役比が表示される。例えば、短期役比が 63% の場合、第 4 表示部 29D に「4.」の文字が表示され、第 5 表示部 29E に「3.」の文字が表示される。

【0278】

図 8-16（B3）には、表示 No 3 の総累計連比を表示する場合が示されている。この場合には、第 1 表示部 29A に設定値である「1」が表示され、第 2 表示部 29B に「A」の文字が表示され、第 3 表示部 29C に「6.」の文字が表示される。また、第 4 表示部 29D 及び第 5 表示部 29E には、総累計連比が表示される。例えば、総累計連比が 58% の場合、第 4 表示部 29D に「5.」の文字が表示され、第 5 表示部 29E に「8

。」の文字が表示される。

【0279】

図8-16(B4)には、表示No4の総累計役比を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「A」の文字が表示され、第3表示部29Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、総累計役比が表示される。例えば、総累計役比が68%の場合、第4表示部29Dに「6.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「8.」の文字が表示される。

【0280】

図8-16(B5)には、表示No5のベース1を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「b」の文字が表示され、第3表示部29Cに「L.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、前回の賞球60000個に基づいて算出したベース1が表示される。例えば、ベース1が40%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「0.」の文字が表示される。

【0281】

図8-16(B6)には、表示No6のベース2を表示する場合が示されている。この場合には、第1表示部29Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部29Bに「b」の文字が表示され、第3表示部29Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部29D及び第5表示部29Eには、直前の賞球60000個に基づいて算出したベース2が表示される。例えば、ベース2が42%の場合、第4表示部29Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部29Eに「2」の文字が表示される。

【0282】

短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示は、表示切替スイッチ30の操作に基づいて、設定値ごとに順次変更することが可能となっている。例えば、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「2」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「2」の場合に対応した表示に変更される。設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「3」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「3」の場合に対応した表示に変更される。設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が行われているときに、表示切替スイッチ30の操作により、第1表示部29Aに表示される数値が「1」に更新されるとともに、第4表示部29D及び第5表示部29Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示が、設定値が「1」の場合に対応した表示に変更される。

【0283】

なお、表示モニタ29においては、各設定値における連比、役比、ベースを表示可能な形態に限定されるものではなく、これら連比、役比、ベースのうち、1の数値のみ、あるいは、いずれか2の数値のみ表示可能であってもよい。付与された賞球数に基づく情報である連比、役比、ベースを算出し、これら連比、役比、ベースを表示モニタ29にて表示する形態に限定されるものではなく、連比、役比、ベースを算出せずに、表示モニタ29には、付与された賞球数の履歴を表示するようにしてもよい。表示モニタ29において、短期連比のみ赤色で表示し、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2については緑色にて表示するものに限定されず、短期連比と短期役比、総累計連比及び総累計役比を同色にて表示し、ベース1とベース2については短期連比、短期役比、総累計

連比、総累計役比とは異なる同一の色にて表示してもよい。

【0284】

図8-17は、アクティブバッファおよびリングバッファにおける更新の実行例を示している。主基板11では、アクティブバッファにおける第0記憶領域の賞球合計が所定の容量である6000個に到達すると、リングバッファにおける第0記憶領域～第10記憶領域の記憶を更新する。さらには、10セット分の総和及び総累計の記憶領域、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域の記憶をそれぞれ更新する。このときには、アクティブバッファの第0記憶領域に記憶されている数値をリングバッファの第1記憶領域に移動させ、リングバッファの第1記憶領域～第9記憶領域に記憶されている数値をそれぞれ第2記憶領域～第10記憶領域に移動させる。例えば、第0記憶領域～第9記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数がそれぞれ「27」「81」「120」「36」「225」「87」「66」「117」「45」「21」である。このとき、アクティブバッファの第0記憶領域における賞球合計が6000個に到達すると、第1記憶領域～第10記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数をそれぞれ「27」「81」「120」「36」「225」「87」「66」「117」「45」「21」に更新する。これに伴い、第0記憶領域の賞球数を「0」とし、第10記憶領域の賞球数を消去する。第0記憶領域～第10記憶領域に記憶される賞球数を更新する際には、記憶している賞球数を一旦消去してから新たな賞球数を記憶させてもよい。あるいは、記憶されている賞球数に上書きする形で新たな賞球数を記憶させてもよい。

10

【0285】

(基本特徴部に関する遊技制御の説明)

図8-18は、本実施例において、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が実行するメイン処理の一例を示すフローチャートである。このメイン処理は、遊技制御メイン処理に代えて実行できればよい。メイン処理において、CPU103は、まず、割込禁止に設定する(ステップSa1)。次に、割込モードを割込モード2に設定し(ステップSa2)、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する(ステップSa3)。そして、内蔵デバイスの初期化(内蔵デバイス(内蔵周辺回路)であるCTC(カウンタ/タイマ)およびPIO(パラレル入出力ポート)の初期化など)を行った後(ステップSa4)、RAM102をアクセス可能状態に設定する(ステップSa5)。なお、割込モード2は、CPU103が内蔵する特定レジスタ(Iレジスタ)の値(1バイト)と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ(1バイト:最下位ビット0)とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

20

30

【0286】

続いて、クリアスイッチAK001の出力信号であるクリア信号に基づき、クリアスイッチAK001がオンであるか否かを判定する(ステップSa6)。クリアスイッチAK001がオフであれば、電源断検出処理を実行したか否かを判定する(ステップSa7)。電源断検出処理を実行した場合には、パリティチェックの実行結果が正常であるか否かを判定する(ステップSa8)。チェック結果が正常であれば、バックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し(ステップSa41)、その内容に基づき作業領域に初期値を設定する(ステップSa42)。これにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行に関する停電時の記憶内容が復旧される。

40

【0287】

ステップSa42にて停電復旧が行われたときには、錠スイッチ51の出力信号である錠スイッチ信号に基づき、錠スイッチ51がオンであるか否かを判定する(ステップAKS001)。ステップAKS001にて錠スイッチ51がオンである場合には、設定確認処理を実行することにより(ステップAKS002)、設定値を確認可能な状態となる。設定確認処理においては、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を表示モニタ29の表示により確認することが可能となっている。ステップAKS001にて錠スイッチAK002がオフである場合や、ステップAKS002にて設定確認処理を実行した後は、ステップSa14に進む。なお、ステップAKS001にて錠スイッチAK002がオ

50

フである場合には、主基板 1 1 から演出制御基板 1 8 2 に対して、停電復旧指定コマンドとなるコマンド 9 2 0 0 H が送信されるようにすればよい。

【0 2 8 8】

ステップ A K S 0 0 2 にて設定確認処理の実行が開始されるときには、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値を確認可能な設定確認状態となり、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定確認開始コマンドとなるコマンド 9 4 0 0 H が送信される。パチンコ遊技機 1 が設定確認状態であるときには、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を停止させる遊技停止状態としてもよい。遊技停止状態であるときには、打球操作ハンドル 3 0 の操作による遊技球の発射、各種スイッチによる遊技球の検出などが停止され、また、第 1 特別図柄表示器 4 A や第 2 特別図柄表示器 4 B、普通図柄表示器 2 0 において、はずれ図柄などを停止表示したり、はずれ図柄とは異なる遊技停止状態に対応した表示が行われたりするように制御すればよい。ステップ A K S 0 0 1 における設定確認処理の実行が終了するときには、設定確認状態と、これに伴う遊技停止状態が終了し、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定確認終了コマンドとなるコマンド 9 4 0 1 H が送信される。

10

【0 2 8 9】

ステップ S a 6 にてクリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合、ステップ S a 7 にて電源断検出処理を実行していなかった場合、あるいは、ステップ S a 8 にてチェック結果が正常ではなかった場合には、所定の R A M クリア処理を実行し、R A M 1 0 2 のバックアップ格納領域に格納されている設定値以外のデータをクリアする（ステップ S a 9）。遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、ステップ S a 9 にてクリアされないようにしてもよい。ステップ S a 9 に続いて、初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップ S a 1 0）、その内容に基づき作業領域に初期値を設定する（ステップ S a 1 1）。これにより、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行に関する記憶内容が初期化される。ステップ S a 6 にてクリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合には、ステップ S a 9、S a 1 0 により R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）されるので、クリアスイッチ A K 0 0 1 は、オンに押下操作する動作を検出することにより、パチンコ遊技機 1 の初期化に関する動作を検出することができる。

20

【0 2 9 0】

ステップ S a 1 1 にて記憶内容が初期化されたときには、錠スイッチ信号に基づき、錠スイッチ 5 1 がオンであるか否かを判定する（ステップ S a 1 2）。ステップ S a 1 2 にて錠スイッチ 5 1 がオンである場合には、設定変更処理を実行することにより（ステップ S a 1 3）、設定値を変更可能な状態となる。設定変更処理では、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更状況を表示モニタ 2 9 の表示により確認することが可能となっている。ステップ S a 1 2 にて錠スイッチ 5 1 がオフである場合や、ステップ S a 1 3 にて設定変更処理を実行した後は、ステップ S a 1 4 に進む。

30

【0 2 9 1】

ステップ S a 1 2 にて錠スイッチ 5 1 がオフである場合には、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、R A M クリア通知コマンドとなるコマンド 9 0 0 0 H が送信されるようにすればよい。なお、錠スイッチ 5 1 がオンであることを条件に設定変更処理を実行する形態に限定されるものではなく、さらに遊技機用枠 3 が開放されていることを条件として設定変更処理を実行し、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を変更可能としてもよい。

40

【0 2 9 2】

ステップ S a 1 3 にて設定変更処理の実行が開始されるときには、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値を変更可能な変更許可状態としての設定変更状態となり、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定変更開始コマンドとなるコマンド 9 1 0 0 H が送信される。パチンコ遊技機 1 が設定変更状態であるときには、設定確認状態であるときと同様に、パチンコ遊技機 1 を遊技停止状態としてもよい。ステップ S a 1 3 における設定変更処理の実行が終了するときには、設定変更状態と、これに伴う遊技停止状態が

50

終了し、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定変更終了コマンドとなるコマンド 9 3 X X H が送信される。なお、クリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合の他に、電源断検査処理を実行していなかった場合、あるいは、パリティチェックの実行結果が正常ではなかった場合に、錠スイッチ 5 1 がオンであれば設定変更処理を実行する形態に限定されるものではなく、クリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合に R A M 1 0 2 をクリアした場合のみ錠スイッチ 5 1 がオンであれば設定変更処理を実行してもよい。

【0 2 9 3】

その後、R A M 1 0 2 のバックアップ領域に格納されている設定値を読み出し（ステップ S a 1 4）、その値をパチンコ遊技機 1 における設定値として使用する。このときには、乱数回路設定処理により、乱数回路 1 0 4 を初期設定する（ステップ S a 1 5）。また、所定時間（例えば 2 m s）ごとに定期的なタイマ割込を発生させる設定を行う（ステップ S a 1 6）。そして、割込禁止の設定（ステップ S a 1 7）、表示用乱数更新処理（ステップ S a 1 8）、初期値用乱数更新処理（ステップ S a 1 9）、割込許可の設定（ステップ S a 2 0）を繰り返し実行する。

【0 2 9 4】

C P U 1 0 3 は、特別図柄プロセス処理において特別図柄通常処理を実行するときに、設定されている設定値に応じた表示結果判定テーブルと、変動表示結果判定用の乱数値 M R 1 を示す数値データに基づいて、特別図柄や演出図柄の変動表示結果を「大当り」や「小当り」とするか否かを、その変動表示結果が導出表示される前に決定（事前決定）する。また、変動パターン設定処理を実行するときに、設定されている設定値に応じた変動パターン判定テーブルと、変動パターン判定用の乱数値 M R 3 を示す数値データを用いて、変動パターンを複数種類のいずれかに決定すればよい。このように、設定されている設定値に応じて異なる割合により、変動表示結果を決定することなどにより、遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行させることができる。

【0 2 9 5】

なお、本実施例では、メイン処理のステップ S a 6 にてクリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合に、ステップ S a 9 ～ S a 1 1 にて R A M 1 0 2 の記憶内容を初期化（クリア）してから、ステップ S a 1 2、S a 1 3 にて設定値を変更可能な状態になるが、本発明はこれに限定されるものではなく、設定値を変更可能な状態が終了してから、R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）されてもよい。すなわち、ステップ S a 6 にてクリアスイッチ A K 0 0 1 がオンである場合には、ステップ S a 1 2 にて錠スイッチ 5 1 がオンであるか否かを判定し、オフであればステップ S a 9 ～ S a 1 1 に進むことで、R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）され、これに対し、ステップ S a 1 2 にて錠スイッチ 5 1 がオンである場合には、ステップ S a 1 3 にて設定変更処理を実行し、その処理が終了してからステップ S a 9 ～ S a 1 1 に進むようにしてもよい。例えば R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）されたことに対応して R A M クリア通知コマンドが送信される場合には、演出制御基板 1 2 において、R A M クリア通知コマンドの受信に伴い初期化報知が開始されることがある。そのため、ステップ S a 1 3 よりも先にステップ S a 9 ～ S a 1 1 が実行されてしまうと、ステップ S a 1 3 にて設定変更処理が実行されて設定値を変更可能な状態になる場合に、初期化報知が実行されて設定値の変更作業に支障が生じるおそれがある。これに対し、ステップ S a 1 3 の設定変更処理が終了してからステップ S a 9 ～ S a 1 1 により R A M 1 0 2 の記憶内容が初期化（クリア）されることにより、設定値の変更が完了した後に初期化報知などを開始させることができるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0 2 9 6】

図 8 - 1 9 は、ステップ S a 1 3 の設定変更処理における表示モニタ 2 9 の表示態様を示している。図 8 - 1 9 (A) に示すように、表示モニタ 2 9 において連比や役比、ベース等が表示されているときに遊技場の係員などによって電源スイッチ A K 0 0 2 が操作され、電源遮断により電力供給が停止されると、図 8 - 1 9 (B) に示すように、表示モニタ 2 9 での表示が終了する。その後、遊技場の係員などがクリアスイッチ A K 0 0 1 を押

下操作するとともに、錠スイッチ51をオンに切替操作しながら、電源スイッチAK002を操作することにより、電源投入により電力供給が開始されると、図8-19(C)に示すように、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM102のバックアップ領域に格納されている設定値が表示される。この設定値が表示されている状態において、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52が押下操作されると、その操作が検出されるごとに第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する。例えば設定切替スイッチ52の押下操作が検出されたときに、第1表示部29Aに「1」が表示されていれば「2」に更新し、「2」が表示されていれば「3」に更新し、「3」が表示されていれば「1」に更新することにより、第1表示部29Aの表示を「1」～「3」の間で循環的に順次更新できればよい。その後、遊技場の係員などにより錠スイッチ51が押込操作されると、その操作が検出されたことにより、第1表示部29Aに表示されている設定値をRAM102のバックアップ領域に格納（更新記憶）する。このときには、第1表示部29Aを点滅表示させることによって、新たな設定値が格納されたことを遊技場の係員などが認識可能に報知する。

【0297】

ステップSa13にて設定変更処理が実行されるときには、ステップSa9によりRAM102の記憶内容が初期化されている。したがって、設定値の変更が行われるときには、第1特図保留記憶部151Aや第2特図保留記憶部151Bにおける保留データなどに基づく保留記憶が消去される。遊技場の係員などにより錠スイッチ51をオフとする切替操作がなされると、その操作が検出されたことにより、設定変更処理を終了する。CPU103は、メイン処理におけるステップSa14以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態となる。これにより、例えば変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出などが実行可能な状態となる。なお、設定変更処理では、表示モニタ29に表示する初期表示として、RAM102のバックアップ領域に格納されている格納値を表示する形態に限定されるものではなく、例えば遊技者にとって最も有利な設定値の「1」、あるいは、遊技者にとって最も不利な設定値の「3」など、予め定められた設定値を表示するようにしてもよい。

【0298】

設定変更処理において、表示モニタ29の第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する制御は、設定切替スイッチ52の押下操作が検出されるごとに更新する形態に限定されるものではなく、例えばクリアスイッチAK001の押下操作が検出されるごとに順次更新して表示するようにしてもよい。例えば、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM102のバックアップ領域に格納されている設定値が表示されている状態において、クリアスイッチAK001が押下操作されると、第1表示部29Aに「1」が表示されていれば「2」に更新し、「2」が表示されていれば「3」に更新し、「3」が表示されていれば「1」に更新することにより、第1表示部29Aの表示を「1」～「3」の間で循環的に順次更新できればよい。この場合には、RAM102の記憶内容を初期化するために用いられるクリアスイッチAK001を、パチンコ遊技機1における設定値の変更にも共通して使用することができる。これにより、パチンコ遊技機1における装置構成の増大による製造コストの増大を、防止することができる。

【0299】

図8-20は、ステップAKS002の設定確認処理における表示モニタ29の表示態様を示している。図8-20(A)に示すように、表示モニタ29において連比や役比、ベース等が表示されているときに遊技場の係員などによって電源スイッチAK002が操作され、電源遮断により電力供給が停止されると、図8-20(B)に示すように、表示モニタ29での表示が終了する。その後、遊技場の係員などがクリアスイッチAK001を押下操作することなく、錠スイッチ51をオンに切替操作しながら、電源スイッチAK002を操作することにより、電源投入により電力供給が開始されると、図8-20(C)に示すように、表示モニタ29では、第1表示部29AにおいてRAM102のバックアップ領域に格納されている設定値が表示される。この設定値が表示されている状態では

、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52が押下操作されても、第1表示部29Aに表示している数値を更新表示することはできない。その後、遊技場の係員などにより錠スイッチ51をオフとする切替操作がなされると、その操作が検出されたことにより、設定確認処理を終了する。CPU103は、メイン処理におけるステップS a 1 4以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態となる。これにより、例えば変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出などが実行可能な状態となる。

【0300】

このように、パチンコ遊技機1が備える表示モニタ29には、パチンコ遊技機1の設置後における賞球数の調整などが確認可能となる遊技価値に関する情報を表示可能である。この表示モニタ29には、パチンコ遊技機1において大当たり遊技状態に制御される確率の変更などにより、遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行させる設定値の情報を表示可能である。したがって、遊技価値に関する情報を表示する表示装置とは別個に、設定値を表示する表示装置を設ける必要がないので、パチンコ遊技機1における装置構成の増大による製造コストの増大を、防止することができる。

【0301】

なお、本実施例では、表示モニタ29を用いて、RAM102のバックアップ領域に格納されている設定値の表示や、連比、役比、ベース等の表示を行うものとしているが、本発明はこれに限定されるものではなく、表示モニタ29を用いて連比や役比、ベース等の表示を行う一方で、表示モニタ29とは異なる設定表示部を用いて設定値の表示を行うようにしてもよい。これにより、表示モニタ29を用いて連比や役比、ベース等の表示を行う制御と、設定表示部を用いて設定値の表示を行う制御とを、明確に分離することができるので、例えば制御プログラムなどによる処理を分散させて簡素化し、制御負担を軽減することができる。このように、表示モニタ29とは異なる設定表示部を用いる場合には、表示モニタ29が配置される基板とは異なる基板に設定表示部が配置されてもよいし、表示モニタ29が配置される基板と共通の基板に設定表示部が配置されてもよい。

【0302】

(基本特徴部における構成や遊技制御に関する変形例の説明)

図8-21は、遊技中に設定変更処理を実行可能な変形例における表示モニタ29の表示態様を示している。パチンコ遊技機1における設定値は、電源投入時に変更可能な形態に限定されるものではなく、設定値の変更は遊技中に実行可能であってもよい。この場合には、CPU103がメイン処理にてステップS a 1 6より後の処理を開始した後、遊技場の係員などにより遊技機用枠3が開放され、錠スイッチ51をオンとする切替操作とともにクリアスイッチAK001をオンとする押下操作が行われると、それらの操作が検出されたことにより、表示モニタ29では、第1表示部29Aにおいて現在のパチンコ遊技機1に設定されている設定値を表示させる。この設定値が表示されている状態において、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001が押下操作されると、その操作が検出されるごとに第1表示部29Aに表示している数値を順次更新して表示する。そして、遊技場の係員などにより錠スイッチ51が押込操作されると、その操作が検出されたことにより、第1表示部29Aに表示されている設定値をパチンコ遊技機1の新たな設定値として、RAM102のバックアップ領域に格納(更新記憶)する。

【0303】

パチンコ遊技機1における設定値は、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出と、クリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出とに基づいて、電源投入時に変更可能な形態に限定されるものではなく、少なくとも錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出に基づいて、電源投入時に変更可能であってもよい。例えば電源投入時にクリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出がない場合でも、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出に基づいて、RAM102の記憶内容を初期化(クリア)することなく停電時の記憶内容を復旧させ、その後にクリアスイッチAK001をオンに押下操作する動作の検出などに基づいて、パチンコ遊技機1において設定され

ている設定値を変更可能にしてもよい。このように、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM 102の記憶内容を初期化（クリア）することによるパチンコ遊技機1の初期化が行われない場合でも、電源投入時のパチンコ遊技機1において設定されている設定値を変更する制御が行われてもよい。

【0304】

新たな設定値が格納されるときには、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、特図保留記憶、普図保留記憶や遊技制御フラグ設定部152、遊技制御タイマ設定部153、遊技制御カウンタ設定部154、遊技制御バッファ設定部155などに記憶されている各種フラグやデータを消去してもよい。このように、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、設定値の変更に伴い変動表示結果が大当たりとなる保留記憶が新たに発生してしまうことや、新たに普通可変入賞球装置6Bが開放されること（普図当たりが発生してしまうこと）、実行中の変動表示結果が不当に大当たりとなってしまうことを防止することができる。さらに、遊技制御用データ保持エリア150をクリアすることによって、大当たり遊技中であれば大入賞口を閉鎖させたり、普通可変入賞球装置6Bが開放中であれば普通可変入賞球装置6Bを閉鎖させることで遊技者が不適切な利益を得ることを防止することができる。さらに、新たな設定値が設定されずに設定変更処理が中断された場合に、新たな設定値が設定されていないにもかかわらず、保留記憶が消去されてしまうことを防ぐことができる。なお、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されたことに基づいて保留記憶をクリアする形態に限定されるものではなく、元からパチンコ遊技機1に設定されていた設定値を再設定した場合においても保留記憶をクリアしてもよい。表示モニタ29にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が表示されたタイミング、つまり、CPU103によって設定変更処理が実行されるときに保留記憶をクリアしてもよい。これにより、パチンコ遊技機1に設定値の変更が的確に反映されなくなってしまうことを確実に防ぐことができる。

【0305】

パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されたことに基づいて第1大入賞口や第2大入賞口が閉鎖される形態に限定されるものではなく、表示モニタ29にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が表示されたタイミング、つまり、CPU103によって設定変更処理が実行されるときに第1大入賞口や第2大入賞口を閉鎖してもよい。これにより、パチンコ遊技機1に設定値の変更が的確に反映されなくなってしまうことを確実に防ぐことができる。

【0306】

図8-22は、表示モニタ29において設定値を表示可能な第1表示部29Aが設けられない変形例における表示態様を示している。表示モニタ29は、第1表示部29A～第5表示部29Eまでの5つの表示部が設けられ、第2表示部29B～第5表示部29Eにて表示中の連比、役比、ベースの設定値を第1表示部29Aにおいて表示する形態に限定されるものではなく、表示中の連比、役比、ベースの設定値を表示する表示部を設けなくともよい。図8-22(A)では、表示モニタ29の第2表示部29B～第5表示部29Eに対応する表示部にて連比、役比、ベースの表示を行い、第1表示部29Aに対応する表示部による設定値の表示が行われない。

【0307】

図8-22(B)は、設定値の表示を行う表示部が設けられない場合における連比、役比、ベースの表示制御例を示している。この場合には、設定値1での連比、役比、ベースを赤色、設定値2での連比、役比、ベースを緑色、設定値3での連比、役比、ベースを青色にて表示する。設定値に応じて異なる表示色により、連比、役比、ベースを表示することにより、いずれの設定値での数値であるかを把握しやすくすることができる。この表示制御例でも、上記実施例と同様に、設定値1における連比、役比、ベースを5秒間隔ごとに切替表示が可能であり、表示切替スイッチ30の操作ごとに、設定値1における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替表示を、設定値2における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替表示へ、さらには、設定値3における連比、役比、ベースの5秒間隔での切替

表示へと、循環的に変化させることができればよい。あるいは、設定値 1 における連比、設定値 2 における連比、設定値 3 における連比の 5 秒間隔での切替表示と、設定値 1 における役比、設定値 2 における役比、設定値 3 における役比の 5 秒間隔での切替表示と、設定値 1 におけるベース、設定値 2 におけるベース、設定値 3 におけるベースの 5 秒間隔での切替表示と、を表示切替スイッチ 30 の操作ごとに循環的な変化が可能であってもよい。

【0308】

表示モニタ 29 は、設定値ごとの連比、役比、ベースを表示可能な形態に限定されるものではなく、設定値 1～設定値 3 のいずれか 1 の設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能としてもよい。例えば、設定値 1～設定値 3 の各々で連比、役比、ベースを算出し、これら算出した連比、役比、ベースのうち、最も高いまたは低い値や、最も計測時間の長いまたは短い値などのみを表示モニタ 29 において表示可能とすればよい。さらに、これら算出した連比、役比、ベースのうち、最も高いまたは低い値や、最も計測時間の長いまたは短い値を表示モニタ 29 における初期表示とし、表示切替スイッチ 30 の操作によって初期表示から他の値に表示モニタ 29 の表示を切替可能としてもよい。

【0309】

表示モニタ 29 は、設定値 1 における連比、役比、ベースと、設定値 2 における連比、役比、ベースと、設定値 3 における連比、役比、ベースと、のうち、2 以上の設定値における連比、役比、ベースを算出可能とし、各設定値毎の連比、役比、ベースに加えて、あるいは代えて、これら 2 以上の設定値における連比、役比、ベースを表示モニタ 29 にて表示可能としてもよい。このように、2 以上の設定値における連比、役比、ベースを表示モニタ 29 において表示可能とすることで、パチンコ遊技機 1 の状態をより詳細に把握することが可能となる。なお、複合情報として、2 以上の設定値において合算した連比、役比、ベースを算出して表示モニタ 29 に表示可能とする形態に限定されるものではなく、2 以上の設定値における連比、役比、ベースの平均値を算出して表示モニタ 29 に表示可能としてもよい。

【0310】

表示モニタ 29 においては、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能としてもよい。さらに、表示モニタ 29 においては、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースを初期表示として表示するとともに、表示切替スイッチ 30 の操作に応じて、初期表示から他の設定値における連比、役比、ベースの表示に切り替えてもよい。表示モニタ 29 においては、設定値に応じた所定情報として、所定時間（例えば、1 時間）あたりの賞球数等、連比、役比、ベース以外の数値を表示可能としてもよい。

【0311】

例えば、大当り遊技終了直後や時短状態中等の特定条件下においては、通常時の変動パターン判定テーブルとは異なる特殊変動パターン判定テーブルを用いることによって、通常時よりも特定の変動パターンでの変動表示（例えば短縮非リーチの変動パターン（PA1-4））が実行されやすいようにしてもよい。特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定可能とする場合は、設定されている設定値に応じて、特殊変動パターン判定テーブルを用いた変動パターンの決定を終了して通常時の決定に切り替えるタイミングを異ならせてもよい。具体的には、設定されている設定値が 1 である場合は、大当り遊技終了後の 15 回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当り遊技終了後の 16 回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、設定されている設定値が 2 である場合は、大当り遊技終了後の 10 回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当り遊技終了後の 11 回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、設定されている設定値が 3 である場合は、大当り遊技終了後の 5 回目の変動表示までを特殊変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定し、大当り遊技終了後の 6 回目以降は、通常時の変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定すればよい。

【0312】

メイン処理におけるステップS a 9でRAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されると、遊技者にとって有利な設定値（例えば、設定値1）が設定されていることを示唆し、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、30変動目において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されると、遊技者にとって有利な設定値（例えば、設定値1）が設定されていることが確定するなど、特定のタイミングや特定回数の変動表示において特殊な変動パターンにて変動表示が実行されるか否かに注目させるゲーム性としてもよい。なお、パチンコ遊技機1をこのようなゲーム性とする場合は、設定されている設定値が1のときに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行される割合が最も高く、設定されている設定値が3のときに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の10変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行される割合が最も低くなるようにするとともに、設定されている設定値が1の場合にのみ、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、最初の30変動目において特殊な変動パターンにて変動が実行されるようにすればよい。

10

【0313】

20

変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルを特殊変動パターン判定テーブルから通常時の変動パターン判定テーブルに切り替える切替条件（テーブルを切り替えるまでの変動回数）は、設定されている設定値に応じて異なる割合にて決定してもよい。設定されている設定値に応じて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルを切り替える切替条件が異なることによって、特定の変動パターン（例えば、短縮非リーチ（PA1-4））の決定割合が低下したタイミングに遊技者を注目させることができるので、変動パターンによる演出効果を高めることができる。

【0314】

RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの間は、特定の変動パターンの変動表示（例えば、スーパーリーチの変動パターンの変動表示）の決定割合が通常時の各変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する場合よりも増加あるいは低下するようにしてもよい。この場合には、設定されている設定値が1である場合と2である場合、3である場合とで、それぞれ異なる決定割合にてスーパーリーチの変動パターンの変動表示の実行を決定してもよい。これにより、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの間においてスーパーリーチの変動パターンの変動表示回数に遊技者を注目させることができるので、スーパーリーチの変動パターンの変動表示による演出効果を高めることができる。さらに、RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間が経過するまで、または、所定回数の変動表示が実行されるまでの間においてのみ決定可能な変動パターンを設定値ごとに設け、これら設定値に応じた変動パターンによる変動表示の実行によってパチンコ遊技機1に設定されている設定値を遊技者に対して報知可能としてもよい。

30

40

【0315】

RAM102の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100回）の変動表示が実行されるまでの間は、パチンコ遊技機

50

1 に設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチ等のスーパーリーチ以外の変動パターンの決定割合が異なってもよいし、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値に応じて非リーチやノーマルリーチ、スーパーリーチ等の通常の変動パターンとは異なる変動パターン（例えば、変動時間が 0.1 等の極端に短い変動パターンや、変動時間が 10 分等の極端に長い変動パターン）の決定割合が異なるようにしてもよい。

【0316】

RAM 102 の初期化（クリア）が実行されてから、または、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が変更されてから、所定時間（例えば、1 時間）が経過するまで、または、所定回数（例えば、100 回）の変動表示が実行されるまでの特定期間は、特定の演出が実行される割合でパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を示唆するようにしてもよい。例えば、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が遊技者にとって有利な設定値であることを示唆する高設定示唆演出を実行可能とし、特定期間は、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 1（最も遊技者にとって有利な設定値）である場合に高設定値示唆演出が最も実行されやすく、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 3（最も遊技者にとって不利な設定値）である場合に高設定値示唆演出が最も実行されにくくすればよい。特定期間では、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が前回パチンコ遊技機 1 への電源供給が停止したときから変更されたか否かに応じて非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの少なくともいずれかの変動パターンの決定割合が異なるようにしてもよい。

10

【0317】

パチンコ遊技機 1 は、大当たり遊技終了後に遊技状態を確変状態に制御可能なパチンコ遊技機として構成され、大当たり遊技中に第 3 カウントスイッチを遊技球が通過したことに基づいて大当たり遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御可能としてもよい。この場合は、大当たり種別として、大当たり遊技中に第 2 大入賞口を開放する大当たり種別、つまり、遊技球が大当たり遊技中に第 3 カウントスイッチを通過可能な大当たり種別（以下、大当たり X）と、大当たり遊技中に第 2 大入賞口を開放しない、つまり、遊技球が大当たり遊技中に第 3 カウントスイッチを通過不能な大当たり種別（以下、大当たり Y）を設け、これら大当たり X と大当たり Y の決定割合を設定値に応じて異ならせてもよい。このようにすることで、設定されている設定値に応じて大当たり遊技終了後に遊技状態が確変状態に制御される割合を異ならせることができるので、遊技興趣を向上できる。

20

30

【0318】

変動表示結果が大当たりとなる割合や、大当たり種別の決定割合が異なることに加えて、あるいは代えて、遊技球が各入賞口に入賞した際の賞球数や、大当たり遊技中における各ラウンドにおける大入賞口への遊技球の上限入賞数を、設定されている設定値に応じて異ならせるようにしてもよい。さらに、大当たり遊技中における第 1 大入賞口と第 2 大入賞口の開放パターンを、設定されている設定値に応じて異ならせるようにしてもよい。これにより、大当たり遊技状態において付与される賞球数を、設定値に応じて異ならせることができるので、遊技興趣を向上できる。

【0319】

パチンコ遊技機 1 に可動体を設け、この可動体を変動表示中や大当たり遊技中といった遊技中に動作させる可動体演出を実行可能としてもよい。このような可動体を設ける場合は、第 2 大入賞口の内部における規制部材の進退動作確認などの可変入賞初期化制御を実行可能にするとともに、可動体の動作確認や可動体を初期位置に移動させる可動体初期化制御を演出制御用 CPU 120 により実行可能とし、パチンコ遊技機 1 に新たな設定値が設定されるとき（例えば、パチンコ遊技機 1 に電源が投入されたときや、パチンコ遊技機 1 に新たな設定値が設定されたとき）に、可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を実行するようにしてもよい。これにより、規制部材や可動体の動作に、新たな設定値を的確に反映させることができる。可変入賞初期化制御や可動体初期化制御は、メイン処理におけるステップ S a 1 3 またはステップ S a 1 4 の実行後に実行すればよい。例えば 1 回目のタイマ割込が発生したタイミングで、可変入賞初期化制御や可動体初期化制御を実行しても

40

50

よい。可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を実行可能である場合は、可変入賞初期化制御を可動体初期化制御よりも前のタイミングにて開始してもよい。あるいは、可変入賞初期化制御と可動体初期化制御を同時に開始するとともに、可変入賞初期化制御を可動体初期化制御よりも先に終了してもよい。これにより、遊技球の入賞にかかわる初期化制御を適切に行うことができる。

【0320】

設定されている設定値に応じてスーパーリーチ変動パターンの決定割合が異なってもよい。特定可変表示パターンは、スーパーリーチの変動パターンとは異なる変動パターンであってもよい。いずれの変動パターンを特定可変表示パターンとするかの設定は、パチンコ遊技機1の仕様に応じて任意に変更可能である。

10

【0321】

図8-23および図8-24は、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52の設置箇所を主基板11の側方とした変形例を示している。錠スイッチ51と設定切替スイッチ52をパチンコ遊技機1の背面側に設けることによって、遊技場の係員などが遊技機用枠3を開放しなければこれら錠スイッチ51と設定切替スイッチ52を操作不能である。これに加えて、遊技機用枠3の閉鎖時に錠スイッチ51と設定切替スイッチ52をパチンコ遊技機1の背面側から被覆するセキュリティカバー500Aを設けることで、遊技機用枠3の閉鎖時におけるパチンコ遊技機1の不正な設定値の変更を防止できるようにしてもよい。

【0322】

セキュリティカバー500Aは、外枠1aの右側辺下部に取り付けられている。これにより、遊技機用枠3の閉鎖時には、セキュリティカバー500Aがパチンコ遊技機1の背面側から錠スイッチ51と設定切替スイッチ52に近接することによって、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作不能とすることができる。その一方で、遊技機用枠3の開放時には、セキュリティカバー500Aが錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とから離間することによって、錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作可能とすることができる。錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とをパチンコ遊技機1の背面側からカバー体によって被覆するとともに、さらに遊技機用枠3の閉鎖時にパチンコ遊技機1の背面側からカバー体をセキュリティカバー500Aによってパチンコ遊技機1の背面側から被覆する（セキュリティカバー500Aによってカバー体を前方に向けて押圧する）ことにより、遊技機用枠3の閉鎖時におけるパチンコ遊技機1の不正な設定値の変更をより強力に防止できるようにしてもよい。設定切替スイッチ52がクリアスイッチAK001で代用される場合には、設定切替スイッチ52に代えて、クリアスイッチAK001をカバー体やセキュリティカバー500Aによって被覆すればよい。

20

30

【0323】

図8-25は、セキュリティカバーを遊技機用枠3に設けた変形例を示している。具体的には、セキュリティカバー500Bを遊技機用枠3に対して左右方向にスライド可能に設けてもよい。遊技機用枠3の閉鎖時には、セキュリティカバー500Bの右端部を外枠1aの右側辺と遊技機用枠3との間で挟持し、セキュリティカバー500Bを錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを背面側から被覆している状態から移動不能とすればよい。そして、遊技機用枠3の開放時には、セキュリティカバー500Bをスライド移動させることによって錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作可能とすればよい。設定切替スイッチ52がクリアスイッチAK001で代用される場合には、設定切替スイッチ52に代えて、クリアスイッチAK001をセキュリティカバー500Bによって被覆すればよい。

40

【0324】

図8-26は、セキュリティカバーを回動可能に設けた変形例を示している。具体的には、セキュリティカバー500Cの左端部を遊技機用枠3の背面側に設けられた上下方向を向く枢軸に対して回動可能に枢支してもよい。このような場合は、遊技機用枠3の閉鎖時に、セキュリティカバー500Cの右端部を外枠1aの右側辺と遊技機用枠3との間で挟持し、セキュリティカバー500Cを錠スイッチ51と設定切替スイッチ52と

50

を背面側から被覆している状態から移動不能とすればよい。そして、遊技機用枠3の開放時には、セキュリティカバー500Cを図示しない枢軸周りに回転させることによって錠スイッチ51と設定切替スイッチ52とを操作可能とすればよい。設定切替スイッチ52がクリアスイッチAK001で代用される場合には、設定切替スイッチ52に代えて、クリアスイッチAK001をセキュリティカバー500Cによって被覆すればよい。

【0325】

これらのセキュリティカバーを主基板11に重複するように設ける場合には、セキュリティカバーを透過性を有する樹脂材等によって構成し、主基板11の実装面や封印シールの視認性を妨げないようにしてもよい。

【0326】

パチンコ遊技機1は、確変ループタイプやV確変タイプなど、異なる遊技性であってもよい。確変ループタイプやV確変タイプとする場合には、特定の大当たり遊技終了後に第1大入賞口を開放対象とする小当たりにより持ち玉を増加させることが可能な機能（いわゆる小当たりタイム）を有するようにしてもよい。小当たりタイムの機能を有する遊技機とする場合は、設定値に応じて大当たり確率を異ならせる（例えば、設定値1の場合は通常状態の大当たり確率を1/200とするとともに確変状態の大当たり確率を1/20とし、設定値2の場合は通常状態の大当たり確率を1/300とするとともに確変状態の大当たり確率を1/30とする）ことによって、一方の設定値が設定されている場合は、初当たり確率が他の設定値が設定されている場合よりも高いことにより小当たりタイムに突入しやすくなるが、確変制御中に大当たりとなる確率も他の設定値が設定されている場合よりも高いので、小当たりタイムが終了しやすくなる。つまり、確変制御を実行可能なパチンコ遊技機に小当たりタイムの機能を搭載する場合は、通常状態における大当たり確率が高い設定値が設定されているほど小当たりタイムに突入する確率が高い一方で小当たりタイムが継続しにくく、通常状態における大当たり確率が低い設定値が設定されているほど小当たりタイムに突入する確率が低い一方で小当たりタイムが継続しやすくなる。このため、確変ループタイプやV確変タイプのパチンコ遊技機1にあっては、小当たりタイムの機能を搭載することによって遊技の幅を広げることができるばかりか、大当たり確率の低い設定値が設定されているパチンコ遊技機1であっても遊技者に対して遊技を行う意志を惹起させることができる。

【0327】

V確変タイプのパチンコ遊技機1にあっては、確変制御決定用ラウンドにおける確変制御決定用大入賞口の開放パターンを長期開放パターン（遊技球が確変制御決定用大入賞口に入賞しやすい開放パターン）と短期開放パターン（遊技球が確変制御決定用大入賞口に入賞しにくい開放パターン）とから決定する場合、これら長期開放パターンと短期開放パターンをパチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なる割合にて決定することによって、実質的な確変突入確率（確変大当たりの割合）を異ならせるようにしてもよい。

【0328】

遊技領域の所定位置（例えば、第2大入賞口の上方位置）に大当たり種別決定用ゲートを設けるとともに、特別図柄が大当たりを示す組み合わせで導出表示された後に遊技球が大当たり種別決定用ゲートを通過したタイミングにて大当たり種別判定用の乱数値MR2を抽出し、抽出したMR2の値に基づいて決定した大当たり種別に応じた大当たり遊技を開始するようにしてもよい。このように大当たり種別決定用ゲートを設ける場合は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異なる割合で大当たり種別を決定する（例えば、大当たり種別として16ラウンド大当たりと4ラウンド大当たりが設けられている場合、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1である場合に、16ラウンド大当たりの大当たり遊技状態に制御される割合が最も高く、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合に、16ラウンド大当たりの大当たり遊技状態に制御される割合が最も低い）ようにしてもよい。

【0329】

錠スイッチ51や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001は、遊技機用枠3の前方側に設けてもよい。このように錠スイッチ51や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001を遊技機用枠3の前方側に設ける場合は、錠スイッチ51

や設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001を打球操作ハンドルや打球発射装置の近傍に設けることで、ガラス扉枠3aを開放しなければ操作不能のようにすればよい。

【0330】

設定されている設定値に応じて異なる割合で決定されるのは、少なくとも大当り遊技状態といった、遊技者にとって有利な有利状態に制御するか否かを決定される場合であればよく、大当り種別や変動パターンについては、設定されている設定値にかかわらず共通の割合で決定されるものであってもよい。設定されている設定値に応じて異なる割合で変動表示結果を「大当り」や「小当り」とするか否かを決定する一方で、設定されている設定値にかかわらず共通の割合で大当り種別や変動パターンを決定する場合には、設定値が変更されても変動パターンの決定割合は変更されないので、遊技者などに設定値を示唆しない、または示唆しにくくなる。設定されている設定値に応じて異なる割合で変動表示結果だけでなく変動パターンなども決定する場合には、設定値が変更されると変動パターンの決定割合も変更されるので、遊技者などに設定値を示唆できる、または示唆しやすくなる。

10

【0331】

以上のように、主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100では、電源投入による電力供給の開始に伴い、CPU103がメイン処理を実行することにより、錠スイッチ51やクリアスイッチAK001による動作の検出結果に応じて、設定変更状態、設定確認状態、初期化状態、停電復旧状態のいずれかに制御可能となる。設定変更状態は、設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001の操作による設定値の変更を許可する変更許可状態である。設定確認状態は、表示モニタ29にて、設定されている設定値を確認可能な状態である。初期化状態は、設定変更状態や設定確認状態とは異なり、RAM102の記憶内容が初期化（クリア）された状態である。停電復旧状態は、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧された状態である。

20

【0332】

図8-27は、電源投入時のスイッチ検出に応じた状態制御例を示している。電源スイッチAK002の操作に基づく電源投入により電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオンであるとともに、クリアスイッチAK001がオンである場合には、メイン処理のステップSa13にて設定変更処理が実行されることで、設定変更状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップSa9にてRAM102の記憶内容が初期化される。これに対し、電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオンであり、クリアスイッチAK001がオフである場合には、メイン処理のステップAKS002にて設定確認処理が実行されることで、設定確認状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップSa9が実行されず、ステップSa41、Sa42により、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧される。電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオフであり、クリアスイッチAK001がオンである場合には、メイン処理のステップSa9にてRAM102の記憶内容が初期化されることで、初期化状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップSa12にて錠スイッチ51がオフであると判定されるので、ステップSa13の設定変更処理が実行されない。電力供給が開始されたときに、錠スイッチ51がオフであるとともに、クリアスイッチAK001がオフである場合には、メイン処理のステップSa41、Sa42により、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧されることで、停電復旧状態の制御を行う。この場合には、メイン処理のステップAKS001にて錠スイッチ51がオフであると判定されるので、ステップAKS002の設定確認処理が実行されない。このように、電源スイッチAK002を用いた電源投入の動作に伴い、錠スイッチ51、および、クリアスイッチAK001により、遊技場の係員などによるオンとオフの切替操作や押下操作となる各種動作を検出し、それらの検出結果に応じた状態の制御を行うことができる。

30

40

【0333】

（上記特徴部に係る手段の説明）

50

上記実施例には、以下のような特徴部が含まれている。つまり、従来、設定値を設定可能なパチンコ遊技機として、例えば、特開 2010-200902 号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開 2010-200902 号公報に記載の遊技機にあっては、設定されている設定値を表示するための専用の設定値表示手段が設けられており、遊技機のコスト増を防ぐことができないという問題があった。そこで、この問題を解決する特徴部に係る手段 1 の遊技機として、

遊技媒体（例えば、遊技球）を用いた遊技が可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

複数の設定値のうちのいずれかの設定値（例えば、設定値 1～設定値 3 のいずれか）に設定可能な設定手段（例えば、CPU 103 が Sa 13 の設定変更処理を実行する部分）と、

設定された設定値にもとづいて前記有利状態の制御を実行可能な遊技制御手段（例えば、CPU 103 が特別図柄プロセス処理を実行する部分）と、

遊技媒体が所定領域（例えば、一般入賞口、第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 大入賞口、第 2 大入賞口など）に進入することにもとづいて遊技価値を付与する遊技価値付与手段（例えば、CPU 103 が大当り開放中処理を実行する部分など）と、

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を表示可能な情報表示手段（例えば、表示モニタ 29 など）と、

を備え、

前記情報表示手段は、前記設定手段にて設定されている設定値を表示可能である（例えば、表示モニタ 29 の第 1 表示部 29A による表示など）

ことを特徴とする遊技機が記載されており、この手段 1 によれば、設定されている設定値を表示するための表示装置を個別に設ける必要がないので、遊技機のコスト増を防ぐことができる。

【0334】

上記特徴部の手段 2 の遊技機として、

前記情報表示手段は、設定値に応じた所定情報を表示可能である（例えば、表示モニタ 29 において連比、役比、ベースを表示可能な部分など）

ことを特徴とする手段 1 に記載の遊技機が記載されており、この手段 2 においては、遊技機の状態を把握しやすくなる。

【0335】

上記特徴部の手段 3 の遊技機として、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を順次表示可能である（例えば、表示モニタ 29 は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース 1、ベース 2 を 5 秒間隔で順次表示する部分など）

ことを特徴とする手段 2 に記載の遊技機が記載されており、この手段 3 においては、各設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0336】

上記特徴部の手段 4 の遊技機として、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を異なる表示態様により表示可能である（例えば、設定値 1 では、連比、役比、ベースを赤色で表示し、設定値 2 では、連比、役比、ベースを緑色で表示し、設定値 3 では、連比、役比、ベースを青色で表示する部分など）

ことを特徴とする手段 2 または手段 3 に記載の遊技機が記載されており、この手段 4 においては、各設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0337】

上記特徴部の手段 5 の遊技機として、

操作手段（例えば、表示切替スイッチ 30 など）を備え、

前記情報表示手段は、各設定値の所定情報を、前記操作手段の操作に応じて切替表示可能である（例えば、表示切替スイッチ 30 の操作によって、設定値 1 の連比、役比、ベ

10

20

30

40

50

スの表示を、設定値 2 の連比、役比、ベースの表示に切り替える部分や、設定値 2 の連比、役比、ベースの表示を、設定値 3 の連比、役比、ベースの表示に切り替える部分など)

ことを特徴とする手段 2～手段 4 のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段 5 においては、各設定値の所定情報を把握しやすくなる。

【0338】

上記特徴部の手段 6 の遊技機として、

前記情報表示手段は、前記設定手段によって設定されている設定値に応じた所定情報を表示する（例えば、設定されている設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段 2～手段 5 のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段 6 においては、設定手段にて設定されている設定値の所定情報の確認作業を容易に行うことができる。

【0339】

上記特徴部の手段 7 の遊技機として、

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を算出可能な算出手段（例えば、CPU103 が 6000 個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球 60000 個に基づいて算出されたベース（ベース 1（%））、直前の賞球 60000 個に基づいて算出されたベース（ベース 2（%））を算出する部分など）を備え、

前記算出手段は、前記情報を各設定値毎に個別に算出可能であり（例えば、一般入賞賞球や第 1 始動口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されることにより設定値ごとに個別に算出可能な部分など）、

前記情報表示手段は、設定値のうちのいずれか 1 の特定設定値に応じた前記情報のみを表示する（例えば、設定値 1～設定値 3 のいずれか 1 の設定値に応じた連比、役比、ベースのみを表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段 1～手段 6 のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段 7 においては、情報の確認作業を容易に行うことができる。

【0340】

上記特徴部の手段 8 の遊技機として、

前記遊技価値付与手段によって付与される遊技価値に関する情報を算出可能な算出手段（例えば、CPU103 が 6000 個分の連比（%）、役比（%）、及び累計の連比（%）、役比（%）及び前回の賞球 60000 個に基づいて算出されたベース（ベース 1（%））、直前の賞球 60000 個に基づいて算出されたベース（ベース 2（%））を算出する部分など）を備え、

前記算出手段は、各設定値に応じた前記情報である個別情報を個別に算出可能であるとともに、2 以上の異なる設定値に応じた前記情報である複合情報を算出可能であって（例えば、2 以上の設定値において合算した連比、役比、ベースを算出する部分など）、

前記情報表示手段は、前記情報と前記複合情報とを表示可能である（例えば、2 以上の設定値における連比、役比、ベースを算出して表示モニタ 29 に表示可能とする部分など）

ことを特徴とする手段 1～手段 7 のいずれかに記載の遊技機が記載されており、この手段 8 によれば、遊技機の状態を、より詳細に把握することができる。

【0341】

（基本特徴部に関する演出制御の説明）

図 8-28 は、上記特徴部を備える実施例において、演出制御用 CPU120 が実行する演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施の形態における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。本実施例の演出制御メイン処理において、演出制御用 CPU120 は、上記実施の形態と同様の初期化処理（ステップ AKS011）を実行した後、上記実施の形態とは異なり、電源投入時コマンド処理（ステップ AKS012）を実行する。電源投入時コマンド処理を実行した後に

は、上記実施の形態と同様に、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップA K S 0 1 3）、オフであれば（ステップA K S 0 1 3；N o）、ステップA K S 0 1 3の処理を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップA K S 0 1 3；Y e s）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップA K S 0 1 4）、コマンド解析処理（ステップA K S 0 1 5）、演出制御プロセス処理（ステップA K S 0 1 6）、演出用乱数更新処理（ステップA K S 0 1 7）を順に実行する。

【0342】

図8-29は、電源投入時コマンド処理として、ステップA K S 0 1 2にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、電力供給の開始に伴い主基板11から送信された演出制御コマンドを、受信コマンドとして取得し、その内容を判定する。具体的には、受信コマンドがR A Mクリア通知コマンドとなるコマンド9 0 0 0 Hであるか否かを判定する（ステップA K S 0 2 1）。R A Mクリア通知コマンドではない場合には（ステップA K S 0 2 1；N o）、受信コマンドが停電復旧指定コマンドとなるコマンド9 2 0 0 Hであるか否かを判定する（ステップA K S 0 2 2）。停電復旧停止コマンドではない場合には（ステップA K S 0 2 2；N o）、受信コマンドが設定変更開始コマンドとなるコマンド9 1 0 0 Hであるか否かを判定する（ステップA K S 0 2 3）。設定変更開始コマンドではない場合には（ステップA K S 0 2 3；N o）、受信コマンドが設定確認開始コマンドとなるコマンド9 4 0 0 Hであるか否かを判定する（ステップA K S 0 2 4）。設定確認開始コマンドではない場合には（ステップA K S 0 2 4；N o）、ステップA K S 0 2 1に戻り、受信コマンドを取得するまでステップA K S 0 2 1～A K S 0 2 4を繰り返し実行して待機する。なお、受信コマンドを取得できずに予め定められたエラー判定時間が経過した場合には、受信コマンドのエラーが発生したことを報知してもよい。

【0343】

ステップA K S 0 2 3にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップA K S 0 2 3；Y e s）、遊技停止状態開始時処理を実行する（ステップA K S 0 2 5）。遊技停止状態開始時処理では、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となることに対応して、遊技の進行に伴う演出制御の進行を停止させる。ステップA K S 0 2 5にて実行される遊技停止状態開始時処理では、例えば、主基板11から送信される演出制御コマンドのうち、設定変更終了コマンド以外のコマンドについては、受信を無効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当り中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行されないように規制すればよい。設定変更開始コマンドを受信した場合には、設定変更状態となることに対応した遊技停止状態であるときに、遊技停止状態ではないときに実行可能な遊技の進行に伴う各種の演出が、実行されないという範囲あるいは限界としての制限が設けられる。

【0344】

ステップA K S 0 2 5にて遊技停止状態開始時処理を実行した後は、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップA K S 0 2 6）。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、設定変更報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に設定変更報知画面を表示させ、スピーカ8 L、8 Rから設定変更報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。こうして設定変更報知の制御が開始された後は、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップA K S 0 2 7）。ステップA K S 0 2 7では、主基板11からの受信コマンドが設定変更終了コマンドとなるコマンド9 3 X X Hである場合に、設定変更を終了すると判定すればよい。設定変更終了コマンドの受信がなく、設定変更を終了しない場合には（ステップA K S 0 2 7；N o）、ステップA K S 0 2 7を繰り返し実行して待機する。

【0345】

ステップA K S 0 2 7にて設定変更を終了すると判定した場合には（ステップA K S 0

27; Yes)、設定変更報知を終了する制御を行う(ステップAKS028)。例えば、演出制御用CPU120は、演出表示装置5における設定変更報知画面の表示を終了させ、スピーカ8L、8Rによる設定変更報知音声の出力を終了させるように、制御を行えばよい。こうして設定変更報知の制御が終了した後は、遊技停止状態終了時処理を実行する(ステップAKS029)。遊技停止状態終了時処理では、無効とされていた主基板11からのコマンド受信を有効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当たり中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行可能となるように規制を解除すればよい。

【0346】

その後、初期化報知を実行する制御を行う(ステップAKS030)。例えば、演出制御用CPU120は、初期化報知に対応して予め用意された制御データに基づき、予め定められた初期化報知時間が経過するまでの初期化報知期間において、演出表示装置5に初期化報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから初期化報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。ステップAKS021にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定した場合にも(ステップAKS021; Yes)、ステップAKS030に進むことで、初期化報知を実行できるようにすればよい。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴いクリアスイッチAK001の押下操作となる動作が検出された場合に対応して、RAM102の記憶内容が初期化(クリア)されたことを報知できる。

【0347】

ステップAKS024にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には(ステップAKS024; Yes)、遊技停止状態開始時処理を実行する(ステップAKS031)。ステップAKS031にて実行される遊技停止状態開始時処理では、例えば、主基板11から送信される演出制御コマンドのうち、設定確認終了コマンド以外のコマンドについては、受信を無効とする設定を行うようにすればよい。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当たり中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行されないように規制すればよい。設定確認開始コマンドを受信した場合には、設定確認状態となることに対応した遊技停止状態であるときに、遊技停止状態ではないときに実行可能な遊技の進行に伴う各種の演出が、実行されないという範囲あるいは限界としての制限が設けられる。

【0348】

ステップAKS031にて遊技停止状態開始時処理を実行した後は、設定確認報知を開始する制御を行う(ステップAKS032)。例えば、演出制御用CPU120は、設定確認報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に設定確認報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから設定確認報知音声を出力させるように、制御を行えばよい。こうして設定確認報知の制御が開始された後は、設定確認を終了するかどうかを判定する(ステップAKS033)。ステップAKS033では、主基板11からの受信コマンドが設定確認終了コマンドとなるコマンド9401Hである場合に、設定確認を終了すると判定すればよい。設定確認終了コマンドの受信がなく、設定確認を終了しない場合には(ステップAKS033; No)、ステップAKS033を繰り返し実行して待機する。

【0349】

ステップAKS033にて設定確認を終了すると判定した場合には(ステップAKS033; Yes)、設定確認報知を終了する制御を行う(ステップAKS034)。例えば、演出制御用CPU120は、演出表示装置5における設定確認報知画面の表示を終了させ、スピーカ8L、8Rによる設定確認報知音声の出力を終了させるように、制御を行えばよい。こうして、設定確認報知の制御が終了した後は、遊技停止状態終了時処理を実行する(ステップAKS035)。これにより、例えば演出図柄の可変表示や大当たり中の演出表示といった、遊技の進行に伴う各種の演出が実行可能となるように規制を解除すればよい。

【0350】

その後、停電復旧報知を実行する制御を行ってもよい。例えば、演出制御用CPU120は、停電復旧報知に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置5に停電復旧報知画面を表示させ、スピーカ8L、8Rから停電復旧報知音声を出力させるように、制御を行ってもよい。ステップAKS022にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定した場合にも（ステップAKS022；Yes）、停電復旧報知を実行できるようにしてもよい。これらの場合には、電源投入による電力供給の開始に伴いクリアスイッチAK001の押下操作となる動作が検出されない場合に対応して、RAM102の記憶内容が停電時の内容に復旧されたことを報知できればよい。

【0351】

図8-30は、本実施例において、演出制御による報知や画面表示などに関し、制御の優先度を示している。パチンコ遊技機1では、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態や設定確認状態に制御された場合に、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となる。これに対応して、演出制御用CPU120は、電源投入時コマンド処理のステップAKS025やステップAKS031にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後には、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。そのため、設定変更報知や設定確認報知の優先度AKP01は、演出制御に関する優先度のうちで、最も高い優先度となる。例えば節電機能等設定画面などの優先度AKP02は、設定変更報知や設定確認報知の優先度AKP01よりも低い優先度となる。節電機能等設定画面は、パチンコ遊技機1（遊技機用枠3）の背面側に設けられた出力量切替スイッチのスイッチ位置を、特定位置として予め定められた位置とした場合に、節電機能の有無や種類、RTCによる現在日時の設定などを可能にするために、演出表示装置5にて表示可能な画面である。磁石エラー報知などの優先度AKP03は、節電機能等設定画面などの優先度AKP02よりも低い優先度となるので、設定変更報知や設定確認報知の優先度AKP01よりも低い優先度となる。通常時における遊技の進行に対応した通常遊技画面の優先度AKP0Zは、演出制御に関する優先度のうちで、最も低い優先度となるので、設定変更報知や設定確認報知の優先度AKP01よりも低い優先度となる。

【0352】

このように、設定変更報知や設定確認報知の優先度AKP01は、節電機能等設定画面などの優先度AKP02よりも高いので、電源投入時コマンド処理のステップAKS026により設定変更報知を開始する制御が行われた場合や、ステップAKS032により設定確認報知を開始する制御が行われた場合には、設定変更や設定確認の終了となる前に、仮に、出力量切替スイッチのスイッチ位置が特定位置に切り替えられたとしても、出力量切替スイッチを切り替えたことによる節電機能等設定画面の表示は開始されない。こうして、設定変更報知画面や設定確認報知画面といった、パチンコ遊技機1における設定値に関する表示を、節電機能等設定画面といった、演出の出力量あるいは出力制御に関する表示よりも優先して表示する。これにより、設定値に関する表示が適切に行われるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0353】

（基本特徴部における演出制御に関する変形例の説明）

図8-31は、遊技中に設定確認処理を実行可能な変形例において実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。パチンコ遊技機1における設定値は、電源投入時に確認可能な形態に限定されるものではなく、設定値の確認は遊技中に実行可能であってもよい。この場合には、CPU103がメイン処理にてステップSa16より後の処理を開始した後、遊技場の係員などにより遊技機用枠3が開放され、錠スイッチ51をオンとする切替操作が行われると、その操作が検出されたことにより、表示モニタ29では、第1表示部29Aにおいて現在のパチンコ遊技機1に設定されている設定値を表示させる。この表示は、遊技場の係員などにより設定切替スイッチ52あるいはクリアスイッチAK001が押下操作されても変更されず、現在のパチンコ遊技機1で設定されてい

る設定値を確認するための表示となっている。遊技中に設定確認処理の実行が開始される時には、パチンコ遊技機1において設定されている設定値を確認可能な設定確認状態となり、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認開始コマンドとなるコマンド9400Hが送信される。設定確認処理の実行が終了するときには、設定確認状態が終了し、主基板11から演出制御基板12に対して、設定確認終了コマンドとなるコマンド9401Hが送信される。変形例における演出制御メイン処理では、ステップAKS017にて演出用乱数更新処理を実行した後に、進行中設定確認処理（ステップAKS01A）を実行してから、ステップAKS013に戻る。

【0354】

図8-32は、進行中設定確認処理として、ステップAKS01Aにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。例えば、演出制御用CPU120は、表示モニタ29にて、設定されている設定値を確認可能に表示している設定確認中であるか否かを判定する（ステップAKS051）。ステップAKS051では、例えばステップAKS058における制御が行われた後、ステップAKS060における制御が行われるまでの期間において、設定確認中であると判定すればよい。設定確認中ではない場合には（ステップAKS051；No）、主基板11から送信された設定確認開始コマンドの受信があったか否かを判定する（ステップAKS052）。このとき、設定確認開始コマンドを受信した場合には（ステップAKS052；Yes）、パチンコ遊技機1における遊技の進行中であるか否かを判定する（ステップAKS053）。ステップAKS053では、主基板11から送信された客待ちデモ指定コマンドを受信した後、第1変動開始コマンドや第2変動開始コマンドを受信するまでの期間において、遊技の進行中ではないと判定し、それ以外の期間では、遊技の進行中であると判定すればよい。

【0355】

ステップAKS053にて遊技の進行中であると判定した場合には（ステップAKS053；Yes）、進行中設定確認フラグをオン状態にセットする（ステップAKS054）。進行中設定確認フラグは、遊技の進行中に設定確認開始コマンドを受信したことを示すフラグである。ステップAKS052にて設定確認開始コマンドを受信していないと判定した場合や（ステップAKS052；No）、ステップAKS054にて進行中設定確認フラグをオンとした後には、主基板11から送信された客待ちデモ指定コマンドの受信があったか否かを判定する（ステップAKS055）。このとき、客待ちデモ指定コマンドの受信がなければ（ステップAKS055；No）、進行中設定確認処理を終了する。

【0356】

ステップAKS055にて客待ちデモ指定コマンドを受信したと判定された場合には（ステップAKS055；Yes）、進行中設定確認フラグがオンであるか否かを判定する（ステップAKS056）。このとき、進行中設定確認フラグがオフであれば（ステップAKS056；No）、進行中設定確認処理を終了する。これに対し、進行中設定確認フラグがオンである場合には（ステップAKS056；Yes）、進行中設定確認フラグをクリアしてオフ状態としてから（ステップAKS057）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップAKS058）。ステップAKS053にて遊技の進行中ではないと判定された場合にも（ステップAKS053；No）、ステップAKS058に進み、設定確認報知を開始する制御を行う。これにより、遊技の進行中に設定確認開始コマンドを受信した場合には、客待ちデモ指定コマンドを受信してから、設定確認報知を開始することができる。

【0357】

ステップAKS051にて設定確認中であると判定された場合には（ステップAKS051；Yes）、設定確認終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップAKS059）。このとき、設定確認終了コマンドを受信していなければ（ステップAKS059；No）、進行中設定確認処理を終了する。これに対し、設定確認終了コマンドを受信したと判定された場合には（ステップAKS059；Yes）、設定確認報知を終了する制御を行う（ステップAKS060）。

【0358】

このような進行中設定確認処理が実行されることにより、遊技中に設定確認処理が実行されて設定されている設定値が表示モニタ29に表示される場合に、演出制御基板12の側では、主基板11から送信された客待ちデモ表示コマンドを受信してから、設定確認報知画面の表示や設定確認報知音声の出力を開始することができる。これにより、遊技の進行に伴う演出の実行中に設定値が確認可能となった場合に、実行中の演出が中止されないようにして、設定値の確認による不都合を防止できる。

【0359】

なお、主基板11の側において、遊技中に設定確認処理を実行する場合には、客待ちデモ指定コマンドを送信可能になってから、設定確認状態の制御を行うようにしてもよい。この場合には、例えば、客待ちデモ指定コマンドとともに設定確認開始コマンドを、演出制御基板12に対して送信してもよい。あるいは、客待ちデモ指定コマンドとともに設定確認開始コマンドを送信するものに代えて、遊技中の設定確認に対応する専用のコマンドを送信して、遊技の進行が終了した後に、設定されている設定値を確認可能な状態の制御を行うようにしてもよい。

【0360】

あるいは、設定されている設定値は、パチンコ遊技機1の背面側に設けられた表示モニタ29にて表示され、演出表示装置5では設定値に対応する表示を行う必要がない。そこで、遊技中に設定確認処理を実行する場合には、主基板11から演出制御基板12に対して設定確認開始コマンドなどを送信せずに、表示モニタ29にて設定値を確認可能な表示を開始する制御を行うようにしてもよい。この場合には、演出制御基板12において、遊技の進行に伴う演出の実行が継続するように、演出制御用CPU120などによる制御を行うようにしてもよい。

【0361】

設定変更報知や設定確認報知に加えて、設定変更終了報知や設定確認終了報知を実行可能にしてもよい。例えば、電源投入時コマンド処理では、ステップAKS028での制御により、設定変更報知が終了するとともに、設定変更終了報知期間の開始に伴い設定変更終了報知が開始され、設定変更終了報知期間の終了に伴い設定変更終了報知を終了させてもよい。また、電源投入時コマンド処理では、ステップAKS034での制御により、設定確認報知が終了するとともに、設定確認終了報知期間の開始に伴い設定確認終了報知が開始され、設定確認終了報知期間の終了に伴い設定確認終了報知を終了させてもよい。

【0362】

設定変更報知では、演出表示装置5に設定変更報知画面を表示することなく、スピーカ8L、8Rから設定変更報知音声を出力させるように、制御が行われてもよい。設定確認報知では、演出表示装置5に設定確認報知画面を表示することなく、スピーカ8L、8Rから設定確認報知音声を出力させるように、制御が行われてもよい。あるいは、設定変更報知では、設定変更報知画面の表示や設定変更報知音声の出力に加え、または一部もしくは全部に代えて、遊技効果ランプ9の一部もしくは全部の発光部材、または遊技効果ランプ9とは別個に設けられた報知ランプといった任意の発光部材を、予め定められた設定変更報知態様で発光させる制御が行われてもよい。設定確認報知では、設定確認報知画面の表示や設定確認報知音声の出力に加え、または一部もしくは全部に代えて、遊技効果ランプ9の一部もしくは全部に代えて、遊技効果ランプ9の一部もしくは全部の発光部材、または遊技効果ランプ9とは別個に設けられた報知ランプといった任意の発光部材を、予め定められた設定確認報知態様で発光させる制御が行われてもよい。このように、設定変更報知は、任意の演出装置あるいは演出装置とは異なる報知装置を用いて、設定値が変更可能な状態であることの報知を行うことができればよい。設定確認報知は、任意の演出装置あるいは演出装置とは異なる報知装置を用いて、設定値が確認可能な状態であることの報知を行うことができればよい。なお、設定変更報知や設定確認報知が行われる形態に限定されるものではなく、設定変更報知や設定確認報知の一方または双方が行われないものであってもよい。

【0363】

設定変更終了コマンドとなるコマンド93XXHと、設定確認終了コマンドとなる9401Hとが用意される形態に限定されるものではなく、設定変更終了コマンドおよび設定確認終了コマンドとして、共通の設定終了時コマンドが用いられるものであってもよい。この場合、電源投入時コマンド処理では、ステップAKS027にて、設定終了時コマンドを受信したときに設定変更を終了すると判定し、ステップAKS033にて、設定終了時コマンドを受信したときに設定確認を終了すると判定すればよい。

【0364】

(特徴部71AKに関する説明)

図8-33は、本実施例の特徴部71AKに関し、パチンコ遊技機1の背面側に設けられた出力量切替スイッチ71AK001の構成例を示している。出力量切替スイッチ71AK001は、パチンコ遊技機1の背面側において、演出制御用CPU120が搭載された演出制御基板12の右上部分に設けられていればよい。出力量切替スイッチ71AK001は、演出制御基板12を収容する基板ケースに形成された開口部を介して外部から操作可能となっている。出力量切替スイッチ71AK001は、所定の演出出力などを初期設定するためのスイッチ切替操作といった、所定の動作を検出可能な回転式のスイッチであればよい。出力量切替スイッチ71AK001により初期設定される演出出力には、少なくとも、スピーカ8L、8Rの音量が含まれていればよい。また、遊技効果ランプ9などの発光部材の発光量が含まれていてもよい。例えば遊技場の係員が遊技機用枠3を開放したときに、出力量切替スイッチ71AK001を操作可能な状態になる。このように、出力量切替スイッチ71AK001は、遊技機用枠3を開放することが、演出出力の初期設定を変更可能にする条件となっている。出力量切替スイッチ71AK001は、演出出力を複数段階のいずれかに初期設定する。また、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に応じて、スティックコントローラ31Aなどを用いて遊技者による演出出力の変更調整を許可するか禁止するかが切り替えられる。演出制御用CPU120は、こうした演出出力の設定を示すデータを、出力設定情報としてRAM122の所定領域などに記憶させればよい。

【0365】

図8-33(B)に示すように、出力量切替スイッチ71AK001は、「0」から「F」までの計16個のチャンネルを備えており、ツマミ71AK002を回動操作する動作により、チャンネルに対応するスイッチ位置を切り替えることができる。本実施例では、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「0」～「F」のいずれであるかに応じて、音量が6段階のいずれかに初期設定されるとともに、遊技者による音量調整を許可するか否かが切り替えられる。出力量切替スイッチ71AK001は直接または所定回路を介して演出制御用CPU120に接続され、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を示す切替スイッチ信号が演出制御用CPU120に入力されることにより、チャンネルに対応するスイッチ位置を特定することができる。

【0366】

図8-34は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に応じた演出出力などの初期設定制御71AKC01を示している。この初期設定制御71AKC01において、例えば、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「5」である場合には、スピーカ8L、8Rから出力される音声の音量について、「音量6(最大)」に応じて上限音量が「97.0」に初期設定され、遊技者による音量設定(調整)が可能(許可)に制御される。なお、スピーカ8L、8Rから出力される音声の音量に限定されず、例えば遊技効果ランプ9の光量といった、任意の演出装置の出力量を出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に応じて初期設定できればよい。出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「6」～「F」のいずれかである場合には、遊技者による音量設定(調整)が不可(禁止)となるので、初期設定された演出出力により演出が実行される。また、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」である場合に対応して、演出表示装置5において節電機能等設定画面が表示可能となり、節電機能の有無や種

類（節電モード）、および、R T C 1 2 6により現在日時を示す値の設定（変更）を行うことができる。

【0367】

このように、出力量切替スイッチ71AK001は、演出制御用CPU120が搭載された演出制御基板12に設けられ、演出出力の調整に関する動作をツマミ71AK002により受け付けて、スイッチ位置を切り替える動作の検出に基づいて、演出の出力量を複数段階のいずれかに制御することを可能にする。演出制御用CPU120では、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を特定可能なスイッチ信号に基づいて、演出の出力量を複数段階のいずれかに制御するための処理が実行される。

【0368】

図8-35は、特徴部71AKに関して、設定変更報知、設定確認報知、初期化報知の実行例を示している。この実行例では、設定変更報知として、図8-35（A）に示すように、設定変更報知画面71AKD01が演出表示装置5に表示され、設定変更報知音声71AKE01がスピーカ8L、8Rから出力される。また、設定確認報知として、図8-35（B）に示すように、設定確認報知画面71AKD02が演出表示装置5に表示され、設定確認報知音声71AKE02がスピーカ8L、8Rから出力される。初期化報知として、図8-35（C）に示すように、初期化報知画面71AKD03が演出表示装置5に表示され、初期化報知音声71AKE03がスピーカ8L、8Rから出力される。特徴部71AKでは、上記実施例と同様に、演出制御メイン処理のステップAKS012にて電源投入時コマンド処理が実行される。この電源投入時コマンド処理では、ステップAKS026での制御により、設定変更報知が開始され、ステップAKS028での制御により、設定変更報知が終了する。また、ステップAKS032での制御により、設定確認報知が開始され、ステップAKS034での制御により、設定確認報知が終了する。さらに、ステップAKS030での制御により、初期化報知期間の開始に伴い初期化報知が開始され、初期化報知期間の終了に伴い初期化報知が終了する。なお、設定変更報知画面71AKD01、設定確認報知画面71AKD02、初期化報知画面71AKD03は、演出表示装置5における表示領域の全体に表示される態様に限定されず、演出表示装置5における表示領域の一部に表示される態様であってもよい。

【0369】

特徴部71AKは、出力量切替スイッチ71AK001を備えて構成され、音量などの演出出力を、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した複数段階のいずれかとする初期設定ができる。その一方で、設定変更報知、設定確認報知、初期化報知における音声出力は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した音量の初期設定にかかわらず、パチンコ遊技機1において出力可能な最大音量である「音量6（最大）」（上限音量「97.0」）にて、出力すればよい。例えば、設定変更報知では、「設定変更中です」というメッセージが報知される設定変更報知音声71AKE01を、スピーカ8L、8Rから最大音量で出力する。設定確認報知では、「設定確認中です」というメッセージが報知される設定確認報知音声71AKE02を、スピーカ8L、8Rから最大音量で出力する。初期化報知では、「初期化されました」というメッセージが報知される初期化報知音声71AKE03を、スピーカ8L、8Rから最大音量で出力する。

【0370】

このように、出力量切替スイッチ71AK001におけるスイッチ位置を切り替える動作に応じて、演出出力の調整に関する動作を検出し、その検出に基づいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する一方で、パチンコ遊技機1における設定値の変更に関する報知となる設定変更報知では、設定変更報知音声71AKE01の出力として、演出出力の調整に関する動作の検出にかかわらず共通の出力量となる最大音量により報知を行う。設定確認報知や初期化報知でも、設定確認報知音声71AKE02や初期化報知音声71AKE03の出力として、演出出力の調整に関する動作の検出にかかわらず共通の出力量となる最大音量により報知を行えばよい。このように、共通の出力量により報知を行うの

で、設定値の変更や確認、RAM 102における記憶内容の初期化（クリア）に伴い、不正行為が行われることを防止できる。

【0371】

図8-36は、特徴部71AKに関して、遊技者音量調整や節電機能設定などが行われる場合の表示例を示している。例えば、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「0」であり、未だ遊技者による演出出力の調整が行われていない場合には、音量設定が「音量1（最小）」である。図8-36（A）は、この場合に対応して演出表示装置5に表示される遊技者音量調整画面71AKD11を示している。遊技者音量調整画面71AKD11は、6段階の音量に対応した6個のメモリを示す演出画像を含み、現在の音量に応じて、各メモリの表示色を異ならせる。例えば、音量設定が「音量1（最小）」であるときには、1つのメモリを第1表示色（例えば赤色）で表示する一方、残った5つのメモリを第2表示色（例えば白色）で表示する。このとき、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）を右に傾倒操作する動作が検出されたことに対応して、音量設定を「音量2」に変更するとともに、遊技者音量調整画面71AKD11において第1表示色のメモリを1つ増加させる。このように、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）を第1方向（右方向など）に傾倒操作する第1動作が検出されるごとに、演出出力の設定が最大に達するまで、複数段階の演出出力量を1段階ずつ増加させるように変更すればよい。一方、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）を第2方向（左方向）に傾倒操作する第2動作が検出されるごとに、演出出力の設定が最小に達するまで、複数段階の演出出力量を1段階ずつ減少させるように変更すればよい。

10

20

【0372】

出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」である場合には、節電機能やRTC126の値を設定可能になる。図8-36（B）は、この場合に対応して演出表示装置5に表示される節電機能等設定画面71AKD12を示している。節電機能等設定画面71AKD12は、節電機能設定を行うための表示エリアと、RTC126による現在日時（現在時刻）の値を設定するための表示エリアとを含んでいる。節電機能等設定画面71AKD12が表示されたときに、遊技場の係員などがスティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bを操作する動作が検出されたことに応じて、節電機能の有無や種類（節電モード）、および、RTC126による現在日時を示す値の設定（変更）を実行する。演出制御用CPU120では、節電機能等設定画面71AKD12の表示や、各設定を変更する動作の検出に基づいて、節電機能などを設定（変更）するための処理が実行される。例えば節電機能等設定画面71AKD12の表示において「節電モードA」を選択することが設定された場合には、デモ画面表示が行われる客待ちデモ中であるときに限り、節電機能を発動させる制御が行われるものであればよい。また、節電機能等設定画面71AKD12の表示において「節電モードB」を選択することが設定された場合には、客待ちデモ中に加えて変動表示の実行中にも、例えば遊技効果ランプ9の輝度（発光量）を低下させるなど、節電機能を発動させる制御が行われるものであればよい。

30

【0373】

図8-37は、特徴部71AKに関して、演出制御用CPU120により実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施例における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。特徴部71AKの演出制御メイン処理において、演出制御用CPU120は、上記実施例と同様に初期化处理（ステップ71AKS011）、電源投入時コマンド処理（ステップ71AKS012）を実行する。ステップ71AKS011の初期化处理は、上記実施例におけるステップAKS011の初期化处理に対応する処理であり、ステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理は、上記実施例におけるステップAKS012の電源投入時処理に対応する処理であればよい。ステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理を実行した後、上記実施例とは異なり、開始時出力切替処理（ステップAKS013）を実行する。その後は、上記実施例と同様に、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップ71AKS014）、オフであれば（ステップ71AKS014；No）、ステップ7

40

50

1 A K S 0 1 4 の処理を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップ 7 1 A K S 0 1 4 ; Y e s）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップ 7 1 A K S 0 1 5）、コマンド解析処理（ステップ 7 1 A K S 0 1 6）、演出制御プロセス処理（ステップ 7 1 A K S 0 1 7）、演出用乱数更新処理（ステップ 7 1 A K S 0 1 8）を順に実行する。さらに、特徴部 7 1 A K の演出制御メイン処理では、進行中出力変更処理（ステップ 7 1 A K S 0 1 9）を実行してから、ステップ 7 1 A K S 0 1 4 に戻る。

【 0 3 7 4 】

図 8 - 3 8 は、開始時出力切替処理として、ステップ 7 1 A K S 0 1 3 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。開始時出力切替処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を特定する（ステップ 7 1 A K S 0 3 1）。このときには、特定されたスイッチ位置が「F」であるか否かを判定する（ステップ 7 1 A K S 0 3 2）。そして、スイッチ位置が「F」以外である場合には（ステップ 7 1 A K S 0 3 2 ; N o）、スイッチ位置に応じた演出出力の調整により、出力量の初期設定を切り替える制御を行い（ステップ 7 1 A K S 0 3 3）、開始時出力切替処理を終了する。ステップ 7 1 A K S 0 3 3 では、例えばチャンネルに対応するスイッチ位置を特定可能に示す初期出力設定データを、R A M 1 2 2 の所定領域に記憶させればよい。

【 0 3 7 5 】

ステップ 7 1 A K S 0 3 2 にてスイッチ位置が「F」と判定された場合には（ステップ 7 1 A K S 0 3 2 ; Y e s）、節電機能などの設定を開始する制御を行う（ステップ 7 1 A K S 0 3 4）。例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、節電機能などの設定に対応して予め用意された制御データに基づき、演出表示装置 5 に節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 を表示させるように、制御を行えばよい。こうして節電機能などを設定する制御が開始された後には、設定が完了したか否かを判定する（ステップ 7 1 A K S 0 3 5）。ステップ 7 1 A K S 0 3 5 では、節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 において、「終了」を示す項目の選択が確定した場合に、設定が完了したと判定すればよい。この設定が完了していない場合には（ステップ 7 1 A K S 0 3 5 ; N o）、節電機能などの設定中に対応する制御を行い（ステップ 7 1 A K S 0 3 6）、ステップ 7 1 A K S 0 3 5 に戻る。ステップ 7 1 A K S 0 3 6 では、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）を傾倒操作する動作の検出や、プッシュボタン 3 1 B を押下操作する動作の検出などに応じて、節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 における表示を変更可能となるように、制御を行えばよい。

【 0 3 7 6 】

ステップ 7 1 A K S 0 3 5 にて設定が完了したと判定された場合には（ステップ 7 1 A K S 0 3 5 ; Y e s）、節電機能などの設定を終了する制御を行い（ステップ 7 1 A K S 0 3 7）、開始時出力切替処理を終了する。ステップ 7 1 A K S 0 3 7 において、例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、節電機能の有無や種類（節電モード）を示す節電機能データを、R A M 1 2 2 の所定領域などに記憶させる。また、R T C 1 2 6 の値を変更する設定が行われた場合には、変更後の値を示すデータが R T C 1 2 6 にセットされる。

【 0 3 7 7 】

図 8 - 3 9 は、進行中出力変更処理として、ステップ 7 1 A K S 0 1 9 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。進行中出力変更処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、切替許可条件が成立したか否かを判定する（ステップ 7 1 A K S 0 5 1）。切替許可条件は、パチンコ遊技機 1 における遊技制御の進行に伴う演出制御の実行中に、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 を用いた演出出力の調整を許可する条件として、予め定められていればよい。例えば、遊技機用枠 3 が開放された場合に、切替許可条件が成立するようにしてもよい。このような切替許可条件が成立した場合には（ステップ 7 1 A K S 0 5 1 ; Y e s）、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を検出する（ステップ 7 1 A K S 0 5 2）。この検出結果により、ス

スイッチ位置の変更があったか否かを判定する（ステップ71AKS053）。例えば、演出制御用CPU120は、RAM122の所定領域に記憶されている初期出力設定データに示されるスイッチ位置と、切替スイッチ信号から特定されるスイッチ位置とを比較して、比較結果が合致しない場合に、スイッチ位置の変更があったと判定すればよい。

【0378】

ステップ71AKS053にてスイッチ位置の変更があったと判定された場合には（ステップ71AKS053；Yes）、変更後のスイッチ位置が「F」であるか否かを判定する（ステップ71AKS054）。このとき、スイッチ位置が「F」以外である場合には（ステップ71AKS054；No）、スイッチ位置に応じた演出出力の調整により、出力量の初期設定を切り替える制御を行う（ステップ71AKS055）。ステップ71AKS055では、例えばチャンネルに対応するスイッチ位置を特定可能に示す初期出力設定データを、RAM122の所定領域に記憶（更新）させればよい。

10

【0379】

ステップ71AKS054にてスイッチ位置が「F」であると判定された場合には（ステップ71AKS054；Yes）、節電機能などの設定を開始する制御を行う（ステップ71AKS056）。この場合には、開始時出力切替処理のステップ71AKS034～71AKS037と同様の処理を実行すればよい。すなわち、設定が完了したか否かを判定し（ステップ71AKS057）、完了していない場合には（ステップ71AKS057；No）、節電機能などの設定中に対応する制御を行い（ステップ71AKS058）、ステップ71AKS057に戻る。その後、設定が完了した場合には（ステップ71AKS057；Yes）、節電機能などの設定を終了する制御を行う（ステップ71AKS058）。

20

【0380】

ステップ71AKS051にて切替許可条件が成立していない場合や（ステップ71AKS051；No）、ステップ71AKS053にてスイッチ位置の変更がない場合（ステップ71AKS053；No）、あるいは、ステップ71AKS055やステップ71AKS059にて制御を行った後には、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に基づき、遊技者による音量などの調整が可能であるか否かを判定する（ステップ71AKS060）。ステップ71AKS060では、出力量切替スイッチ71AK001における現在のスイッチ位置が「0」～「5」のいずれかである場合に、遊技者による音量設定（調整）が可能（許可）であることに対応して、遊技者による調整が可能であると判定すればよい。遊技者による調整が不可（禁止）である場合には（ステップ71AKS060；No）、進行中出力変更処理を終了する。なお、ステップ71AKS051にて切替許可条件が成立したか否かを判定するものに限定されず、ステップ71AKS051による判定を行うことなく、ステップ71AKS052によるスイッチ位置の検出が行われるものであってもよい。

30

【0381】

ステップ71AKS060にて遊技者による調整が可能であると判定された場合には（ステップ71AKS060；Yes）、演出の出力量を変更させる動作の検出があったか否かを判定する（ステップ71AKS061）。ステップ71AKS061では、例えば遊技者音量調整画面71AKD11を表示しているときに、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bを操作する動作の検出結果に基づいて、複数段階の演出出力量を変更させる動作の検出があったか否かを判定すればよい。このような動作の検出がない場合には（ステップ71AKS061；No）、進行中出力変更処理を終了する。これに対し、動作の検出があったと判定された場合には（ステップ71AKS061；Yes）、検出結果に応じた出力量を調整する制御を行い（ステップ71AKS062）、進行中出力変更処理を終了する。ステップ71AKS062では、遊技者音量調整画面71AKD11において、プッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出された場合に、変更後の音量設定などを示す更新出力設定データを、RAM122の所定領域に記憶（更新）させればよい。

40

50

【0382】

(特徴部71AKに関する変形例の説明)

図8-40は、特徴部71AKの変形例において、演出制御による報知や画面表示などに関し、制御の優先度を示している。パチンコ遊技機1では、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御された場合に、パチンコ遊技機1における遊技の進行を停止させる遊技停止状態となる。これに対し、電源投入による電力供給の開始に伴い、設定確認状態に制御された場合には、遊技停止状態とならないように制御してもよい。これに対応して、演出制御用CPU120は、電源投入時コマンド処理のステップAKS031における遊技停止状態開始時処理を実行しないようにして、設定確認状態である場合には、例えば出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を特定可能な切替スイッチ信号の入力を有効にしてもよい。この場合に、設定変更報知の優先度71AKP11は、演出制御に関する優先度のうちで、最も高い優先度となり、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも高い優先度となる。これに対し、設定確認報知の優先度71AKP13は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも低い優先度となる。通常時における遊技の進行に対応した通常遊技画面の優先度71AKP1Zは、演出制御に関する優先度のうちで、最も低い優先度となるので、設定変更報知の優先度AKP11や節電機能等設定画面などの優先度71AKP12、さらには設定確認報知の優先度AKP13よりも、低い優先度となる。

【0383】

このように、設定変更報知の優先度71AKP11は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも高いので、電源投入時コマンド処理のステップAKS026により設定変更報知を開始する制御が行われた場合には、設定変更の終了となる前に、仮に、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」の特定位置に切り替えられたとしても、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を切り替える動作の検出にかかわらず節電機能等設定画面71AKD12の表示は開始されない。これに対し、設定確認報知の優先度71AKP13は、節電機能等設定画面などの優先度71AKP12よりも低いので、電源投入時コマンド処理のステップAKS032により設定確認報知を開始する制御が行われた場合には、設定確認の終了となる前に、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置が「F」の特定位置に切り替えられたときには、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を切り替える動作の検出に基づいて、節電機能等設定画面71AKD12の表示が開始されてもよい。このように、設定値の変更を行うときには演出の出力量の初期設定を切り替える制御が実行されない一方で、設定値の確認を行うときには演出の出力量の初期設定を切り替える制御が実行されてもよい。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定値の確認とともに演出の出力量の段階を適切に制御することができる。

【0384】

ステップ71AKS012にて電源投入時コマンド処理を実行してからステップ71AKS013にて開始時出力切替処理を実行することで、設定変更状態であるときには出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず演出の出力量の制御を実行しないように制限する形態に限定されるのではなく、電源投入時コマンド処理にて出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作が検出されたか否かを判定可能とし、その動作が検出された場合には、スイッチ位置を特定可能に示す情報を記憶しておき、設定変更状態が終了してから、記憶情報に基づいて演出の出力量の制御を実行するものであってもよい。例えば、上記実施例の電源投入時コマンド処理において、ステップAKS027により設定変更の終了ではないと判定された場合に、出力量切替スイッチ71AK001からの切替スイッチ信号に基づいて、スイッチ位置を特定する。このときには、スイッチ位置の特定結果を示す情報を、RAM122の所定領域に記憶させておく。その後、開始時出力切替処理のステップ71AKS031では、スイッチ位置の特定結果を示す情報に基づいて、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を特定すればよい。この場合にも、設定変更状態であるときには、出力量切替ス

スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず演出の出力量の制御を実行しないように制限できる。

【0385】

あるいは、設定変更状態であるときには、例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置が「F」であるか否かといった、特定のスイッチ位置であるか否かの判定を行い、特定のスイッチ位置である場合には、節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 を演出表示装置 5 に表示する制御よりも、設定変更報知画面 7 1 A K D 0 1 を演出表示装置 5 に表示する制御を優先して行うようにしてもよい。この場合には、電源投入時コマンド処理のステップ A K S 0 2 8 における制御により、設定変更報知が終了すると、優先して行っていた設定変更報知画面 7 1 A K D 0 1 を演出表示装置 5 に表示する制御も終了するので、演出表示装置 5 において節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 の表示を開始させることができればよい。

10

【0386】

スティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B とは異なり、遊技者が所定操作する動作を検出可能な検出装置を設け、この検出装置による動作の検出に基づいて、パチンコ遊技機 1 における設定値を変更可能にしてもよい。例えば錠スイッチ 5 1 やクリアスイッチ A K 0 0 1 とともに、あるいは代えて、遊技者による切替操作や押下操作などの動作を検出可能な設定値変更スイッチを設け、設定値変更スイッチにより遊技者の動作が検出されたことに基づいて、クリアスイッチ A K 0 0 1 により動作が検出されたときと同様に、パチンコ遊技機 1 における設定値を変更するものであってもよい。

20

【0387】

以上のように、特徴部 7 1 A K の演出制御メイン処理では、ステップ 7 1 A K S 0 1 2 にて、上記実施例と同様に電源投入時コマンド処理を実行した後、ステップ 7 1 A K S 0 1 3 にて開始時出力切替処理を実行する。電源投入時コマンド処理では、例えばステップ A K S 0 2 5 やステップ A K S 0 3 1 にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後には、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。この場合には、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置を特定可能な切替スイッチ信号の入力も無効となり、スイッチ位置に応じた演出出力の調整や節電機能等設定画面 7 1 A K D 1 2 の表示が行われないように、出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のスイッチ位置を変更する動作の検出に基づく制御が制限（禁止）される。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機 1 における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、演出の出力量の調整に関する動作の検出にかかわらず、演出の出力量の初期設定を切り替える制御の実行が制限（禁止）される。これにより、設定値を変更するための制御が、演出の出力量の初期設定を切り替える制御よりも優先されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

30

【0388】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行に応じた演出の実行を制御する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御基板に備えられている。出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 は、演出制御用 C P U 1 2 0 が搭載された演出制御基板 1 2 に設けられ、演出の出力量の調整に関する動作をツマミ 7 1 A K 0 0 2 により受け付ける。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出の出力量の初期設定を適切に切り替えることができる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

40

【0389】

特徴部 7 1 A K の演出制御メイン処理では、ステップ 7 1 A K S 0 1 2 にて電源投入時コマンド処理を実行した後、ステップ 7 1 A K S 0 1 3 にて開始時出力切替処理を実行する。ステップ 7 1 A K S 0 1 3 の開始時出力切替処理では、ステップ 7 1 A K S 0 3 3 にて、スイッチ位置に応じた演出出力の初期設定を切り替える制御を行い、または、ステップ 7 1 A K S 0 3 4 ~ 7 1 A K S 0 3 7 にて、節電機能などを設定する制御を行う。こ

50

うして、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合には、設定変更状態が終了する前に出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出があると、設定変更状態が終了してから、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出に基づいた演出の出力量の段階に制御する。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出の出力量の初期設定を適切に切り替えることができる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0390】

演出表示装置5の表示画面やスピーカ8L、8Rからの音声出力により設定変更報知を行う場合に、設定変更報知音声71AKE01は、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置に対応した音量の初期設定にかかわらず、パチンコ遊技機1において出力可能な最大音量により出力される。このように、出力量切替スイッチ71AK001のスイッチ位置を変更する動作の検出にかかわらず共通の出力量により報知を行うことにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、不正行為が行われることも防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0391】

(特徴部71AKに係る手段の説明)

以上の特徴部71AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、演出に関する設定を変更可能な遊技機として、例えば特開2015-29614号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2015-29614号公報に記載の技術では、有利度が異なる複数の設定を変更中に、演出の設定を変更するときの制御について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部71AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態(例えば大当たり遊技状態など)に制御可能な遊技機(例えばパチンコ遊技機1など)であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値(例えば設定値1~3のいずれかなど)に設定可能な設定手段(例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など)と

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段(例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など)と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段(例えばステップSa6、Sa12を実行するCPU103など)と、

演出の出力量の調整に関する動作を検出可能な演出調整用検出手段(例えば出力量切替スイッチ71AK001など)と、

前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいて演出の出力量を複数段階のいずれかに制御する出力量制御手段(例えばステップ71AKS013の開始時出力切替処理やステップ71AKS019の進行中出力変更処理を実行する演出制御用CPU120など)と、

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず前記出力量制御手段による制御の実行を制限する制限手段(例えばステップ71AKS012の電源投入時コマンド処理としてステップAKS012の処理を実行する演出制御用CPU120など)とを備える、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときには出力量制御手段による制御の実行が制限されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0392】

特徴部 7 1 A K に係る手段 2 の遊技機として、
遊技の進行に応じた演出の実行を制御する演出制御手段（例えば演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、
前記演出制御手段が設けられた演出制御基板（例えば演出制御基板 1 2 など）とを備え、

前記演出制御基板に、前記演出調整用検出手段により検出可能な動作を受け付ける受付手段（例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 のツマミ 7 1 A K 0 0 2 など）をさらに備える、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、演出の出力量を適切に制御しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

10

【0 3 9 3】

特徴部 7 1 A K に係る手段 3 の遊技機として、

前記出力量制御手段は、前記変更許可状態が終了する前に前記演出調整用検出手段による動作の検出があったときは、前記変更許可状態が終了してから、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづいた演出の出力量の段階に制御する（例えばステップ 7 1 A K S 0 1 3 における開始時出力切替処理の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、演出の出力量の段階を適切に制御しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

20

【0 3 9 4】

特徴部 7 1 A K に係る手段 4 の遊技機として、

遊技者による遊技中の動作とは異なり、遊技機の初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチ A K 0 0 1 など）を備え、

前記変更許可状態であるときに、前記設定手段による設定値を、前記初期化用検出手段による動作の検出に応じて変更可能である（例えば設定切替スイッチ 5 2 に代えてクリアスイッチ A K 0 0 1 を用いる場合など）、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 ～手段 3 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値を変更するための構成を別個に設けることなく、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

30

【0 3 9 5】

特徴部 7 1 A K に係る手段 5 の遊技機として、

前記設定手段による設定値の変更に関する報知を行う変更報知手段（例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R など）を備え、

前記変更報知手段は、前記演出調整用検出手段による動作の検出にかかわらず共通の出力量により報知（例えば設定変更報知音声 7 1 A K E 0 1 の出力など）を行う、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 ～手段 4 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、不正行為による設定値の変更を防止しつつ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

40

【0 3 9 6】

特徴部 7 1 A K に係る手段 6 の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段（例えばステップ A K S 0 0 2 の設定確認処理を実行する C P U 1 0 3 など）を備え、

前記出力量制御手段は、

前記設定確認状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづく演出の出力量の段階を制御可能であり（例えば設定確認報知の優先度 7 1 A K P 1 3 よりも高い節電機能等設定画面の優先度 7 1 A K P 1 2 など）、

50

前記変更許可状態であるときに、前記演出調整用検出手段による動作の検出にもとづく演出の出力量の段階を制御しない（例えば節電機能等設定画面の優先度 7 1 A K P 1 2 よりも高い設定変更報知の優先度 7 1 A K P 1 1 など）、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K に係る手段 1 ～手段 5 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値の確認とともに演出の出力量の段階を制御することができる一方、設定値の変更を行うときには演出の出力量の段階が制御されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0397】

（特徴部 7 2 A K に関する説明）

図 8-41 は、動作用モータ A K 0 1 1 ～ A K 0 1 4 によって駆動される可動部材による電源投入時動作の実行例を示している。動作用モータ A K 0 1 1 ～ A K 0 1 4 によって駆動される可動部材には、第 1 可動演出装置となる第 1 可動部材と、第 2 可動演出装置となる第 2 可動部材とが含まれている。第 1 可動部材は、演出表示装置 5 の左下位置を原点位置（退避位置）として停止する。その退避位置から右斜め上に上昇して、演出表示装置 5 の表示画面の前方側に重複する進出位置で停止した後に、再び退避位置に戻る動作演出を行う。第 1 可動部材は、回動機構と、第 1 ～第 3 分裂片と、スライド機構とを含んでいる。回動機構の先端部には、第 1 ～第 3 分裂片が設けられている。第 1 ～第 3 分裂片は、合体した閉状態のときを原点位置として、このときに所定の図形を形成している。第 1 可動部材の回動機構は、動作用モータ A K 0 1 1 によって原点位置である退避位置から演出表示装置 5 の表示画面中央部における進出位置まで回動される。これにより、第 1 可動部材が演出表示装置 5 の表示画面中央部まで進出した後には、動作用モータ A K 0 1 2 によって第 1 ～第 3 分裂片が分裂する開状態となる。その一方で、第 1 可動部材が原点位置にあるときには、第 1 ～第 3 分裂片を開状態とすることができない。第 1 可動部材のスライド機構は、第 1 可動部材の回動機構および第 1 ～第 3 分裂片が進出位置まで回動された後、動作用モータ A K 0 1 3 によって横方向にスライドさせる。第 1 可動部材のスライド機構は、第 1 可動部材が演出表示装置 5 の表示画面中央部にあるときを原点位置として、回動機構および第 1 ～第 3 分裂片を、演出表示装置 5 の左側位置と右側位置との間でスライドさせることができればよい。

【0398】

第 2 可動部材は、演出表示装置 5 の上方位置を原点位置（退避位置）として停止する。その退避位置から下降して、演出表示装置 5 の表示画面の前方側に重複する進出位置で停止した後に、再び退避位置に戻る動作演出を行う。第 2 可動部材は、動作用モータ A K 0 1 4 によって原点位置である退避位置から演出表示装置 5 の表示画面中央部やや上方における進出位置まで下降され、進出位置から退避位置まで上昇される。このように、第 2 可動部材は、動作用モータ A K 0 1 4 の駆動力によって上下に単純往復する演出動作を行う。

【0399】

第 1 可動部材の回動機構は、原点位置が原点センサ A K 0 2 1 によって検出される。第 1 可動部材の第 1 ～第 3 分裂片は、原点位置が原点センサ A K 0 2 2 によって検出される。第 1 可動部材のスライド機構は、原点位置が原点センサ A K 0 2 3 によって検出される。第 2 可動部材は、原点位置が原点センサ A K 0 2 4 によって原点位置が検出される。動作用モータ A K 0 1 1 は、第 1 可動部材の回動機構を原点位置と進出位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作用モータ A K 0 1 2 は、第 1 可動部材の第 1 ～第 3 分裂片を原点位置の閉状態と開状態との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作用モータ A K 0 1 3 は、第 1 可動部材のスライド機構を原点位置と演出表示装置 5 の左側位置または右側位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。動作用モータ A K 0 1 4 は、第 2 可動部材を原点位置と進出位置との間で移動可能にする駆動力を提供する。

【0400】

第 1 可動部材および第 2 可動部材による電源投入時動作には、ロングイニシャル動作と

、ショートイニシャル動作とが含まれている。ロングイニシャル動作は、遊技の進行に伴う演出の実行中における通常の演出動作と同様の動作を行う初期動作である。ロングイニシャル動作を実行することにより、通常の演出動作において不具合が発生するか否かを確認できる。ショートイニシャル動作は、通常の演出動作における一部の動作を省略した動作であり、第1可動部材や第2可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作である。

【0401】

電源投入時動作としてロングイニシャル動作が実行される場合には、まず、実線矢印72KM01で示すように、第1可動部材の回動機構を、動作用モータAK011の駆動力により原点位置（退避位置）から進出位置である演出表示装置5における表示画面中央部の前方側にて重複する位置まで移動させる。続いて、破線矢印72AKM02で示すように、第1可動部材の第1～第3分裂片を、動作用モータAK012の駆動力により原点位置の閉状態から開状態になるよう移動させる。その後、破線矢印72AKM03で示すように、第1可動部材の第1～第3分裂片を、動作用モータAK012の駆動力により開状態から閉状態（原点位置）まで移動させる。次に、実線矢印72AKM04～72AKM06で示すように、第1可動部材のスライド機構を、動作用モータAK013の駆動力により原点位置から右方向の可動位置まで移動させてから左方向の可動位置まで移動した後、原点位置に戻す。それから、実線矢印72AKM07で示すように、第1可動部材の回動機構を、動作用モータAK011の駆動力により進出位置から原点位置（退避位置）に復帰させる。その後、破線矢印72AKM08、72AKM09で示すように、第2可動部材を、動作用モータAK014の駆動力により原点位置（退避位置）から進出位置まで移動させてから原点位置（退避位置）に復帰させる。

【0402】

電源投入時動作としてショートイニシャル動作が実行される場合には、ロングイニシャル動作の一部を省略した動作が行われるようにすればよい。例えば矢印72AKM01～72AKM09で示される動作のうち、破線矢印72AKM02、72AKM03、72AKM08、72AKM09で示される動作を実行するための制御が行われる。この場合、第1可動部材の第1～第3分裂片は、第1可動部材の回動機構が進出位置に移動しなければ、閉状態から開状態に移動させることができない。そのため、ショートイニシャル動作においても、実線矢印72AKM01、72AKM07で示される動作が必要になる。また、ロングイニシャル動作では、破線矢印72AKM02、72AKM03、72AKM08、72AKM09で示される動作よりも移動量が大きくなるように、第1可動部材の第1～第3分裂片や第2可動部材の動作が行われてもよい。ショートイニシャル動作では、実線矢印72AKM04～72AKM06で示される動作よりも移動量が小さくなるように、第1可動部材のスライド機構を移動させてもよい。

【0403】

ショートイニシャル動作では、原点センサAK021～AK024による検出結果に応じて、少なくとも一部の動作が省略されたり追加されたりしてもよい。例えば原点センサAK022がオフであり、その他の原点センサがオンである場合には、第1可動部材の第1～第3分裂片を原点位置である閉状態に移動させる動作として、破線矢印72AKM03の方向に移動させるように、動作用モータAK012を駆動させる。そして、原点センサAK022がオンになったときに、動作用モータAK012の駆動を停止させればよい。その後、実線矢印72AKM01、72AKM07で示される移動量よりも小さくなるように、第1可動部材の回動機構を移動させることで、原点センサAK021を一旦オフにしてからオンとなるように、動作用モータAK021を駆動させる。また、第2可動部材については、破線矢印72AKM08、72AKM09で示されるように移動させることで、原点センサAK024を一旦オフにしてからオンとなるように、動作用モータAK024を駆動させればよい。

【0404】

図8-42は、動作用モータAK011～AK014によって可動部材を駆動するために用いられる制御パターンを示している。これらの制御パターンを構成するパターンデー

タは、演出制御基板 1 2 に搭載された R O M 1 2 1 の所定領域に予め記憶されていればよい。本実施例では、可動部材の制御パターンとして、ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 と、ロングイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 2 と、演出用動作 A 制御パターン 7 2 A K P 1 1 と、演出用動作 B 制御パターン 7 2 A K P 1 2 とが予め用意されている。

【0405】

ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 は、ショートイニシャル動作を実行するために用いられる制御パターンである。ロングイニシャル制御パターン A K P 0 2 は、ロングイニシャル動作を実行するために用いられる制御パターンである。演出用動作 A 制御パターン 7 2 A K P 1 1 は、例えばリーチ演出といった、遊技の進行に伴って実行される第 1 演出に含まれる可動部材の動作を実行するために用いられる制御パターンである。演出用動作 B 制御パターン 7 2 A K P 1 2 は、例えば予告演出といった、遊技の進行に伴って実行される第 1 演出とは異なる第 2 演出に含まれる可動部材の動作を実行するために用いられる制御パターンである。なお、可動部材の制御パターンとしては、より多くの制御パターンが用意されてもよいし、一部の制御パターンが用意されてもよい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、R O M 1 2 1 から読み出したパターンデータに基づいて、動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 4 の駆動内容を決定し、可動部材の動作を制御すればよい。

【0406】

図 8 - 4 3 は、本実施例の特徴部 7 2 A K に関し、演出制御用 C P U 1 2 0 により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時コマンド処理は、上記実施例における演出制御メイン処理のステップ A K S 0 1 2 にて実行できればよい。特徴部 7 2 A K の電源投入時コマンド処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記実施例と同様に主基板 1 1 からの受信コマンドを判定する（ステップ 7 2 A K S 0 0 1 ~ 7 2 A K S 0 0 4）。ステップ 7 2 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ 7 2 A K S 0 0 3 ; Y e s）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ 7 2 A K S 0 0 5）、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップ 7 2 A K S 0 0 6）。

【0407】

ステップ 7 2 A K S 0 0 6 による制御を行った後には、上記実施例とは異なり、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ 7 2 A K S 0 0 7）。例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、ショートイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 1 のパターンデータを R O M 1 2 1 の所定領域から読み出し、読出データに基づいて動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 4 による可動部材の動作制御を実行する。ステップ 7 2 A K S 0 0 7 における制御が実行されることにより、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ 7 2 A K S 0 0 8 以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ 7 2 A K S 0 0 7 における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

【0408】

ステップ 7 2 A K S 0 0 7 による制御に続いて、上記実施例と同様に、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ 7 2 A K S 0 0 8）。設定変更を終了しない場合には（ステップ 7 2 A K S 0 0 8 ; N o）、ステップ 7 2 A K S 0 0 8 を繰り返し実行して待機する。ステップ 7 2 A K S 0 0 8 にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ 7 2 A K S 0 0 8 ; Y e s）、設定変更報知を終了する制御を行い（ステップ 7 2 A K S 0 0 9）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ 7 2 A K S 0 1 0）。

【0409】

ステップ 7 2 A K S 0 1 0 にて遊技停止状態終了時処理を実行した後には、上記実施例とは異なり、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ 7 2 A K S 0 1 1）、ステップ 7 2 A K S 0 1 4 に進む。ステップ 7 2 A K S 0 1 1 において、例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 は、ロングイニシャル制御パターン 7 2 A K P 0 2 のパターンデータ

をROM121の所定領域から読み出し、読出データに基づいて動作用モータAK011～AK014による可動部材の動作制御を実行する。ステップ72AKS011における制御が実行されることにより、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS011における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、ステップ72AKS014に進んだ後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS011における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

10

【0410】

ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合には（ステップ72AKS001；Yes）、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ72AKS012）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ72AKS013）。ステップ72AKS013では、ステップ72AKS012での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ72AKS012、72AKS013における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ72AKS014に進んだ後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS013における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ72AKS011における制御と、ステップ72AKS013における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ72AKS011における制御と、ステップ72AKS013における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

20

【0411】

その後、初期化報知を実行する制御を行う（ステップ72AKS014）。なお、初期化報知を実行する制御を行ってから、ロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合には、ステップ72AKS012によりショートイニシャル動作を実行する制御が行われる前に、初期化報知を実行する制御が行われてもよい。

30

【0412】

ステップ72AKS004にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップ72AKS004；Yes）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ72AKS015）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップ72AKS016）。続いて、上記実施例とは異なり、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ72AKS017）。ステップ72AKS017における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ72AKS018以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ72AKS017における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

40

【0413】

ステップ72AKS017による制御に続いて、上記実施例と同様に、設定確認を終了するか否かを判定する（ステップ72AKS018）。設定確認を終了しない場合には（ステップ72AKS018；No）、ステップ72AKS018を繰り返し実行して待機する。ステップ72AKS018にて設定確認を終了すると判定された場合には（ステップ72AKS018；Yes）、設定確認報知を終了する制御を行い（ステップ72AK

50

S 0 1 9)、遊技停止状態終了時処理を実行する(ステップ7 2 A K S 0 2 0)。

【0 4 1 4】

ステップ7 2 A K S 0 2 0にて遊技停止状態終了時処理を実行した後は、上記実施例とは異なり、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ7 2 A K S 0 2 1)、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ7 2 A K S 0 2 1における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ7 2 A K S 0 2 1における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ7 2 A K S 0 2 1における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

10

【0 4 1 5】

ステップ7 2 A K S 0 0 2にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合には(ステップ7 2 A K S 0 0 2; Y e s)、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ7 2 A K S 0 2 2)、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから(ステップ7 2 A K S 0 2 3)、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ7 2 A K S 0 2 3では、ステップ7 2 A K S 0 2 2での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ7 2 A K S 0 2 2、7 2 A K S 0 2 3における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ7 2 A K S 0 2 3における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ7 2 A K S 0 2 1における制御と、ステップ7 2 A K S 0 2 3における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン7 2 A K P 0 2を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ7 2 A K S 0 2 1における制御と、ステップ7 2 A K S 0 2 3における制御は、共通のロングイニシャル制御パターン7 2 A K P 0 2を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

20

30

【0 4 1 6】

(特徴部7 2 A Kに関する変形例の説明)

図8-44は、特徴部7 2 A Kの変形例において実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ7 2 A K S 0 0 1にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合と(ステップ7 2 A K S 0 0 1; Y e s)、ステップ7 2 A K S 0 1 0にて遊技停止状態終了時処理を実行した後に、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い(ステップ7 2 A K S 0 3 1)、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから(ステップ7 2 A K S 0 3 2)、ステップ7 2 A K S 0 1 4に進み、初期化報知を実行する制御を行う。ステップ7 2 A K S 0 0 1にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合は、電源投入による電力供給の開始に伴い、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102における記憶内容を初期化(クリア)したことに対応して、ステップ7 2 A K S 0 1 4における制御が実行されることにより、初期化報知を実行する。この初期化報知が実行されるときには、ステップ7 2 A K S 0 3 1、7 2 A K S 0 3 2における制御が実行されることにより、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ7 2 A K S 0 1 0にて遊技停止状態終了時処理を実行した後も、ステップ7 2 A K S 0 3 1、7 2 A K S 0 3 2における制御が実行されることにより、変更許可状態とし

40

50

ての設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。このように、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合と、ステップ72AKS010にて遊技停止状態終了時処理を実行した後とにおいて、共通のステップ72AKS031、72AKS032における制御により、ショートイニシャル動作に続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

【0417】

この変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合と（ステップ72AKS002；Yes）、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後に、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ72AKS033）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから（ステップ72AKS034）、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合は、電源投入による電力供給の開始に伴い、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102における記憶内容を停電時の記憶内容に復旧させる。このような停電復旧が実行されるときには、ステップ72AKS033、72AKS034における制御が実行されることにより、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後も、ステップ72AKS033、72AKS034における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。このように、ステップ72AKS002にて受信コマンドが停電復旧通知コマンドであると判定された場合と、ステップ72AKS020にて遊技停止状態終了時処理を実行した後とにおいて、共通のステップ72AKS033、72AKS034における制御により、ショートイニシャル動作に続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

【0418】

ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、初期化報知が行われることに伴い実行する制御が行われてもよいし、初期化報知が行われなくても実行する制御が行われてもよい。また、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、停電復旧報知が行われることに伴い実行する制御が行われてもよいし、停電復旧報知が行われなくても実行する制御が行われてもよい。また、遊技の進行に伴う演出を実行する制御が開始された後に、復帰動作条件が成立したことに基づいて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。遊技の進行に伴う演出を実行する制御が開始された後に、初期動作条件が成立したことに基づいて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。

【0419】

可動部材の構成は、第1可動部材や第2可動部材を含む形態に限定されるものではなく、少なくとも、復帰動作となるショートイニシャル動作と、初期動作となるロングイニシャル動作を実行可能であり、遊技の進行に伴う演出において、予め定められた動作態様により動作可能なものであればよい。ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作は、可動部材の構成にあわせて、任意に指定されたものであればよい。

【0420】

以上のように、特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS007にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、第1可動部材や第2可動部材といった可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御が行われる。これにより、設定値を変更するための制御が行われるときに、可動部材が原点位置に復帰されるので、設定値の変更作業などが可動部材

によって妨げられないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0421】

特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ72AKS012、72AKS013における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これに対し、ステップ72AKS007での制御によりショートイニシャル動作を実行した場合には、ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定されるまで、ロングイニシャル動作を実行する制御を行わない。設定変更状態であるときに初期動作となるロングイニシャル動作が実行されると、設定変更報知の実行が妨げられ、適切な報知を行えなくなってしまうおそれがある。そこで、設定変更状態が終了してからロングイニシャル動作を実行する制御を行い、設定確認状態であるときにはロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにする。このように、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材による初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないようにして、設定値の変更作業が妨げられないようにすることで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

10

【0422】

ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定された場合には、ステップ72AKS011にて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、初期動作となるロングイニシャル動作のみを実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の無駄な動作を防止して、可動部材を動作させる制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

20

【0423】

特徴部72AKの変形例における電源投入時コマンド処理では、ステップ72AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。このときには、ステップ72AKS014における制御が行われることで、初期化報知を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM102における記憶内容が初期化（クリア）されることで、パチンコ遊技機1における遊技の制御に関する初期化が行われた場合には、初期化報知が実行され、この初期化報知が実行されるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。また、ステップ72AKS008にて設定変更を終了すると判定された場合にも、ステップ72AKS031、72AKS032における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の動作を共通化して、可動部材を動作させる制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

30

40

【0424】

特徴部72AKの電源投入時コマンド処理では、ステップAKS017にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値を確認するための設定確認状態に制御された場合には、第1可動部材や第2可動部材といった可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御が行われる。その後、ステップ72AKS018にて設定確認を終了すると判定された場合には、ステップ72AKS021にて、ロングイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、設定確認状態が終了してから、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。設定確認状態であるときに初期動作となるロングイニシャル動作が実行されると、設定確認報知の実行が妨げられ、適切な報知を行えなくなってしまうお

50

それがある。そこで、設定確認状態が終了してからロングイニシャル動作を実行する制御を行い、設定確認状態であるときにはロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにする。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定確認状態であるときには、可動部材による初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないようにして、設定値を容易に確認できるようにする。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0425】

(特徴部72AKに係る手段の説明)

以上の特徴部72AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、可動部材を原点位置に復帰させる遊技機として、例えば特開2016-221154号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-221154号公報に記載の技術では、設定の変更と可動部材の動作が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部72AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材（例えば動作用モータAK011～AK013によって動作する第1可動部材、動作用モータAK014によって動作する第2可動部材など）と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作（例えばショートイニシャル動作など）の制御と、前記可動部材による初期動作（例えばロングイニシャル動作など）の制御とを実行可能な可動制御手段（例えばステップAKS012の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行う（例えばステップ72AKS007の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0426】

特徴部72AKに係る手段2の遊技機として、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS012、72AKS013の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行わない（例えばステップ72AKS008の実行など）、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段1の遊技機であってもよい。

このような構成においては、変更許可状態であるときに、可動部材による初期動作が実

10

20

30

40

50

行されないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0427】

特徴部72AKに係る手段3の遊技機として、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記初期動作のみを実行する制御を行う（例えばステップ72AKS011の実行など）、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段2の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による無駄な動作を防止するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0428】

特徴部72AKに係る手段4の遊技機として、

電力供給の開始に伴って遊技機の初期化が行われた場合に、初期化報知を実行する初期化報知手段（例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8R、ステップ72AKS014を実行する演出制御用CPU120など）を備え、

前記可動制御手段は、

前記初期化報知が実行されるときに、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS014の実行に伴うステップ72AKS031、72AKS032の実行など）、

前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行う（例えばステップ72AKS005～72AKS010に続くステップ72AKS031、72AKS032の実行など）、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段2の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による動作を共通化して制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0429】

特徴部72AKに係る手段5の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段（例えばステップAKS002の設定確認処理を実行するCPU103など）を備え、

前記可動制御手段は、

前記設定確認状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行い（例えばステップ72AKS017の実行など）、

前記設定確認状態が終了してから、前記初期動作を実行する制御を行う（例えばステップ72AKS021の実行など）、

ことを特徴とする特徴部72AKに係る手段1～手段4のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定確認状態であるときに、可動部材による初期動作が実行されないようにして、設定値を容易に確認できるとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0430】

（特徴部73AKに関する説明）

図8-45は、本実施例の特徴部73AKに関し、演出制御用CPU120により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時コマンド処理は、上記実施例における演出制御メイン処理のステップAKS012にて実行できればよい。特徴部73AKにおいても、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作の動作内容については、本実施例の特徴部72AKと同様の内容であればよい。特徴部73AKの電源投入時コマンド処理において、演出制御用CPU120は、上記実施例と同様に主基板11からの受信コマンドを判定する（ステップ73AKS001～73AKS004）。ステップ73AKS003にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ73AKS003；Yes）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ73AKS005）、設定変更報知を開始する

制御を行う（ステップ73AKS006）。

【0431】

ステップ73AKS006による制御を行った後には、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ73AKS007）。設定変更を終了しない場合には（ステップ73AKS007；No）、ステップ73AKS007を繰り返し実行して待機する。ステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ73AKS007；Yes）、設定変更報知を終了する制御を行い（ステップ73AKS008）、遊技停止状態終了時処理を実行する（ステップ73AKS009）。このように、特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作としてのショートイニシャル動作を実行する制御を行わない。

10

【0432】

ステップ73AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合や（ステップ73AKS001；Yes）、ステップ73AKS009にて遊技停止状態終了時処理を実行した後には、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ73AKS010）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ73AKS011）。ステップ73AKS011では、ステップ73AKS010での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ73AKS010、73AKS011における制御が行われることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合に、その設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。あるいは、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御された場合に、その設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。

20

【0433】

その後、初期化報知を実行する制御を行う（ステップ73AKS012）。なお、初期化報知を実行する制御を行ってから、ショートイニシャル動作やロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。あるいは、ショートイニシャル動作を実行する制御を行ってから、初期化報知を実行する制御を行い、その後にロングイニシャル動作を実行する制御を行うようにしてもよい。

30

【0434】

ステップ73AKS004にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には（ステップ73AKS004；Yes）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ73AKS013）、設定確認報知を開始する制御を行う（ステップ73AKS014）。続いて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う（ステップ73AKS015）。ステップ73AKS015における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作を実行する制御を行うことができる。なお、ステップ73AKS016以降に進んだ後の期間においても、ショートイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS015における制御が継続して実行され、ショートイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

40

【0435】

ステップ73AKS015による制御に続いて、設定確認を終了するか否かを判定する（ステップ73AKS016）。設定確認を終了しない場合には（ステップ73AKS016；No）、ステップ73AKS016を繰り返し実行して待機する。ステップ73AKS016にて設定確認を終了すると判定された場合には（ステップ73AKS016；Yes）、設定確認報知を終了する制御を行い（ステップ73AKS017）、遊技停止

50

状態終了時処理を実行する（ステップ73AKS018）。次に、ロングイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ73AKS019）、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ73AKS019における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態が終了してから、可動部材の初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。また、ステップ73AKS019における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わないようにすることができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS019における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。

10

【0436】

ステップ73AKS002にて受信コマンドが停電復旧指定コマンドであると判定された場合には（ステップ73AKS002；Yes）、ショートイニシャル動作を実行する制御を行い（ステップ73AKS020）、続いてロングイニシャル動作を実行する制御を行ってから（ステップ73AKS021）、電源投入時コマンド処理を終了する。ステップ73AKS021では、ステップ73AKS020での制御によるショートイニシャル動作が終了してから、ロングイニシャル動作を実行する制御が開始されればよい。ステップ73AKS020、73AKS021における制御が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されないときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて、初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行うことができる。なお、電源投入時コマンド処理が終了した後においても、ロングイニシャル動作期間が終了するまで、ステップ73AKS021における制御が継続して実行され、ロングイニシャル動作を実行する制御が行われてもよい。ステップ73AKS019における制御と、ステップ73AKS021における制御は、特徴部72AKの場合と同様に、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いて、共通の処理により実行されてもよい。あるいは、ステップ73AKS019における制御と、ステップ73AKS021における制御は、特徴部72AKの場合と同様に、共通のロングイニシャル制御パターン72AKP02を用いる一方で、異なる処理により実行されてもよい。

20

30

【0437】

図8-46は、特徴部73AKに関して、設定確認報知の実行中に表示される設定確認報知画面73AKD01を示している。設定確認報知画面73AKD01では、「設定確認中」というメッセージを報知するための文字画像が表示されるとともに、パチンコ遊技機1において設定された設定値の履歴が表示可能となる。設定値の履歴は、例えば演出制御基板12に搭載されたRAM122のバックアップ領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶することにより、演出制御基板12の側において累積的に格納されてもよい。あるいは、設定値の履歴は、RAM122とは別個に設けられた不揮発性の記憶装置（例えばフラッシュメモリなど）にて、所定領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶することにより、演出制御基板12の側において累積的に格納されてもよい。あるいは、設定値の履歴は、主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102にて、バックアップ領域に設定値情報をRTC情報とともに記憶しておき、設定確認開始コマンドが送信される場合に、設定値の履歴を特定可能な演出制御コマンドとして予め用意された設定値履歴コマンドを、主基板11から演出制御基板12に対して送信することにより、演出制御基板12の側では、電力供給の開始に伴い特定できるようにしてもよい。

40

【0438】

設定確認報知画面73AKD01が表示される場合に、可動部材が原点位置から外れた位置で停止した状態になっていると、演出表示装置5の表示画面を視認しにくくなり、設定値の履歴を把握しにくくなる。そこで、特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では

50

、ステップ73AKS015における制御が実行されることにより、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行う。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御される場合には、設定変更状態に制御される場合とは異なり、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されるので、設定確認報知画面73AKD01にて表示可能となる設定値の履歴を、遊技場の係員などが容易に把握することができる。その一方で、特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKS018における制御によりロングイニシャル動作が実行可能になるので、パチンコ遊技機1にて設定されている設定値を確認するための設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行わない。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御される場合には、この設定確認状態であるときに、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行される一方で、初期動作となるロングイニシャル動作が実行されないので、設定確認報知画面73AKD01にて表示可能となる設定値の履歴を、遊技場の係員などが容易に把握することができるようになってから、ロングイニシャル動作が実行されてしまう場合に可動部材により設定値の履歴が把握しにくくなってしまうことを防止できる。

10

【0439】

なお、設定変更状態に制御される場合にも、設定値の履歴が表示可能となるものであってもよい。この場合には、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させるショートイニシャル動作を実行する制御を行えばよい。このように、電力供給の開始に伴い設定確認状態に制御されることで、設定値の履歴が表示可能となる場合には、復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されるようにして、設定値の履歴を容易に把握することができるものであってもよい。

20

【0440】

以上のように、特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ73AKS010にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。これに対し、ステップ73AKS003にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には、ステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定されるまで、ショートイニシャル動作を実行する制御を行わない。これにより、設定値を変更するための制御が行われるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作となるショートイニシャル動作が実行されないので、設定値の変更作業が復帰動作によって妨げられないようにして、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

30

【0441】

特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定された後に、ステップ73AKS010における制御が行われることで、復帰動作としてのショートイニシャル動作を実行する制御を行う。このように、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行うので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材を適切に原点位置に復帰させる動作が可能になる。

40

【0442】

特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップ73AKS010、73AKS011における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。このときには、ステップ73AKS012における制御が行われることで、初期化報知を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、RAM102における記憶内容が初期化（クリア）されることで、パチンコ遊技機1における遊技の制御に関する初期化が行われた場合には、初期化報知が実行され、この初期化報知が実行されるときに、

50

復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。また、ステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定された場合にも、ステップ73AKS010、73AKS011における制御が行われることで、復帰動作となるショートイニシャル動作に続いて初期動作となるロングイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、可動部材の動作を共通化して、可動部材を動作させる制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0443】

設定確認報知画面73AKD01では、パチンコ遊技機1において設定された設定値の履歴が表示可能となる。特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKK004にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合に、ステップ73AKS015にて、ショートイニシャル動作を実行する制御を行う。こうして、設定値の履歴を表示可能な設定確認表示となる設定確認報知画面73AKD01の表示が実行されているときに、復帰動作となるショートイニシャル動作を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、設定確認表示を容易に把握することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0444】

演出制御用CPU120は、主基板11から送信された演出制御コマンドに基づいて、パチンコ遊技機1における遊技の進行に応じた演出の実行を制御する。特徴部73AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ73AKS003にて、設定変更開始コマンドとなるコマンド9100Hを受信したときに、受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定される。主基板11から送信される設定変更開始コマンドとなるコマンド9100Hは、RAMクリア通知コマンドとなるコマンド9000Hや停電復旧指定コマンドとなるコマンド9200H、設定確認開始コマンドとなるコマンド9400Hとは異なっている。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御される場合に、設定変更状態に制御されない場合とは異なる情報としてのコマンドが送信される。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、演出に関する制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な変更が可能になる。

【0445】

(特徴部73AKに係る手段の説明)

以上の特徴部73AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、可動部材を原点位置に復帰させる遊技機として、例えば特開2016-221154号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-221154号公報に記載の技術では、設定の変更と可動部材の動作が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部73AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するC

10

20

30

40

50

P U 1 0 3 など) と、

遊技の進行に応じて動作可能な可動部材 (例えば動作用モータ A K 0 1 1 ~ A K 0 1 3 によって動作する第 1 可動部材、動作用モータ A K 0 1 4 によって動作する第 2 可動部材 など) と、

少なくとも、前記可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作の制御を実行可能な可動制御手段 (例えばステップ A K S 0 1 2 の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) とを備え、

前記可動制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記復帰動作を実行する制御を行い (例えばステップ 7 3 A K S 0 1 0 の実行など)、

前記変更許可状態であるときに、前記復帰動作を実行する制御を行わない (例えばステップ 7 3 A K S 0 0 5 ~ 7 3 A K S 0 0 9 の実行など)、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、可動部材を原点位置に復帰させる復帰動作が実行されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【 0 4 4 6 】

特徴部 7 3 A K に係る手段 2 の遊技機として、

前記可動制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作を実行する制御を行う (例えばステップ 7 3 A K S 0 1 0 の実行など)、

ことを特徴とする特徴部 7 3 A K に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材を適切に動作させ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【 0 4 4 7 】

特徴部 7 3 A K に係る手段 3 の遊技機として、

電力供給の開始に伴って遊技機の初期化が行われた場合に、初期化報知を実行する初期化報知手段 (例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R、ステップ 7 3 A K S 0 1 2 を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など) を備え、

前記可動制御手段は、

前記初期化報知が実行されるときに、前記復帰動作に続いて前記可動部材による初期動作を実行する制御を行い (例えばステップ 7 3 A K S 0 1 0 ~ 7 3 A K S 0 1 2 の実行など)、

前記変更許可状態が終了してから、前記復帰動作に続いて前記初期動作を実行する制御を行う (例えばステップ 7 3 A K S 0 0 5 ~ 7 3 A K S 0 0 9 に続くステップ 7 3 A K S 0 1 0 の実行など)、

ことを特徴とする特徴部 7 3 A K に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、可動部材による動作を共通化して制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【 0 4 4 8 】

特徴部 7 3 A K に係る手段 4 の遊技機として、

前記設定手段にて設定されている設定値を確認するための設定確認表示を実行可能な設定表示手段 (例えば演出表示装置 5 など) を備え、

前記設定表示手段は、前記設定確認表示において前記設定手段にて設定された設定値の履歴を表示可能であり (例えば設定確認報知画面 7 3 A K D 0 1 の表示など)、

前記可動制御手段は、前記設定確認表示が実行されているときに、前記復帰動作を実行する制御を行い、前記初期動作を実行する制御を行わない (例えばステップ 7 3 A K S 0 1 5、7 3 A K S 0 1 6 の実行など)、

ことを特徴とする特徴部 7 3 A K に係る手段 1 ~ 手段 3 のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定確認表示が実行されているときに、可動部材による初期動作が実行されないようにして、設定確認表示を容易に把握できるとともに、設定値の

10

20

30

40

50

変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0449】

特徴部73AKに係る手段5の遊技機として、

前記遊技制御手段からの情報にもとづいて演出の実行を制御する演出制御手段（例えばAKS015のコマンド解析処理を実行する演出制御用CPU120など）を備え、

前記遊技制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御される場合に、該変更許可状態に制御されない場合とは異なる情報（例えば設定変更開始コマンドとなるコマンド9100Hなど）を送信する、

ことを特徴とする特徴部73AKに係る手段1～手段4のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、演出制御手段による制御負担を軽減するとともに、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0450】

（特徴部74AKに関する説明）

図8-47は、本実施例の特徴部74AKに関し、確認演出を実行するために用いられる演出制御パターン74AKP01の構成例を示している。演出制御パターン74AKP01を構成するパターンデータは、演出制御基板12に搭載されたROM121の所定領域に予め記憶されていればよい。確認演出は、電源投入により電力供給が開始された後、予め定められた確認演出条件の成立に基づいて実行可能に制御される。特徴部74AKの確認演出は、左のスピーカ8Lからラッパの音を2回出力する確認音の出力と、右のスピーカ8Rからドラムの音を2回出力する確認音の出力と、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを所定パターンで2セット駆動する確認振動とを、含んでいる。演出制御パターン74AKP01には、確認演出プロセスタイマ初期値74AKJ00を示すデータが含まれ、例えばRAM122の所定領域に設けられた確認演出プロセスタイマの初期値を設定可能にする。また、演出制御パターン74AKP01には、確認演出プロセスタイマ判定値74AKJ01と対応付けられた第1確認演出制御データ74AKD01、確認演出プロセスタイマ判定値74AKJ02と対応付けられた第2確認演出制御データ74AKD02、確認演出プロセスタイマ判定値74AKJ03と対応付けられた第1確認演出制御データ74AKD03が、含まれている。第1確認演出制御データ74AKD01は、左のスピーカ8Lからラッパの音を2回出力する確認音の出力を制御するために用いられる。第2確認演出制御データ74AKD02は、右のスピーカ8Rからドラムの音を2回出力する確認音の出力を制御するために用いられる。第3確認演出制御データ74AKD03は、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを所定パターンで2セット駆動する確認振動を制御するために用いられる。確認演出の実行を制御するときには、確認演出プロセスタイマのタイマ値が更新され、確認演出プロセスタイマ判定値74AKJ01～74AKJ03のいずれかと合致したときに、合致した判定値に対応する第1～第3確認演出制御データ74AKD03を用いた制御を行うことにより、確認音の出力や確認振動を実行することができる。

【0451】

また、確認演出の実行中は、遊技効果ランプ9に含まれる一部または全部の発光部材を点灯させてもよい。例えば、確認演出が開始されると、発光部材の点灯が開始されるとともに、左のスピーカ8Lから確認音の出力が開始される。左のスピーカ8Lによる確認音の出力が終了すると、右のスピーカ8Rから確認音の出力が開始される。右のスピーカ8Rによる確認音の出力が終了すると、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動が開始される。そして、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動が終了するとともに発光部材が消灯され、確認演出が終了する。確認演出は、パチンコ遊技機1における電源投入により電力供給が開始された後、予め定められた確認受付期間内に、プッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出されることにより確認演出条件が成立して、実行が開

始される。左のスピーカ 8 L による確認音の出力と、右のスピーカ 8 R による確認音の出力と、スティックコントローラ 3 1 A の操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータによる確認振動とのうち、いずれか 1 の演出を実行する制御が行われているときには、他の演出を実行する制御が行われない。このように、確認演出に含まれる確認音の出力および確認振動のうち、いずれか 1 の演出を実行するときには、他の演出を実行しないように、制御が行われるようにすればよい。このように、確認音の出力と確認振動が互いに異なるタイミングで実行されることにより、各演出装置を用いた演出を正常に実行できるか否かを、遊技場の係員などが容易に把握することができる。

【0452】

図 8-48 は、特徴部 74 AK に関して、演出制御用 CPU 120 により実行される演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。この演出制御メイン処理は、上記実施例における演出制御メイン処理に代えて実行できればよい。特徴部 74 AK の演出制御メイン処理において、演出制御用 CPU 120 は、上記実施例と同様に初期化処理（ステップ 74 AK S 0 1 1）、電源投入時コマンド処理（ステップ 74 AK S 0 1 2）を実行した後、タイマ割込フラグがオンとなっているか否かを判定し（ステップ 74 AK S 0 1 3）、オフであれば（ステップ 74 AK S 0 1 3；No）、ステップ 74 AK S 0 1 3 を繰り返し実行して待機する。これに対し、タイマ割込フラグがオンである場合には（ステップ 74 AK S 0 1 3；Yes）、タイマ割込フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップ 74 AK S 0 1 4）、コマンド解析処理（ステップ 74 AK S 0 1 5）、演出制御プロセス処理（ステップ 74 AK S 0 1 6）、演出用乱数更新処理（ステップ 74 AK S 0 1 7）を順に実行する。さらに、特徴部 74 AK の演出制御メイン処理では、確認演出制御処理（ステップ 74 AK S 0 1 8）を実行してから、ステップ 74 AK S 0 1 3 に戻る。

【0453】

図 8-49 は、確認演出制御処理として、ステップ 74 AK S 0 1 8 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。確認演出制御処理において、演出制御用 CPU 120 は、初期化報知を開始したか否かを判定する（ステップ 74 AK S 0 3 1）。例えば上記実施例の電源投入時コマンド処理では、ステップ AK S 0 3 0 における制御が行われることで、初期化報知が開始される。この後、ステップ 74 AK S 0 3 1 における判定が最初に行われたときに、初期化報知の開始であると判定すればよい。RAM 122 の所定領域に初期化報知開始フラグを設け、この初期化報知開始フラグがオンであるときに、初期化報知の開始であると判定してもよい。

【0454】

ステップ 74 AK S 0 3 1 にて初期化報知の開始であると判定された場合には（ステップ 74 AK S 0 3 1；Yes）、確認受付期間を開始する制御が行われる（ステップ 74 AK S 0 3 2）。確認受付期間は、初期化報知の開始に伴い開始され、例えば 30 秒間あるいは 1 分間といった、予め定められた確認受付時間の経過に伴い終了すればよい。

【0455】

ステップ 74 AK S 0 3 1 にて初期化報知の開始ではないと判定された場合には（ステップ 74 AK S 0 3 1；No）、確認受付期間であるか否かを判定する（ステップ 74 AK S 0 3 3）。ステップ 74 AK S 0 3 2 にて確認受付期間が開始された場合や、ステップ 74 AK S 0 3 3 にて確認受付期間であると判定された場合には（ステップ 74 AK S 0 3 3；Yes）、可変表示が開始されたか否かを判定する（ステップ 74 AK S 0 3 4）。例えば、演出制御用 CPU 120 は、主基板 11 から送信された第 1 変動開始コマンドや第 2 変動開始コマンドを受信したことにより、可変表示が開始されたと判定すればよい。

【0456】

ステップ 74 AK S 0 3 4 にて可変表示の開始であると判定された場合には（ステップ 74 AK S 0 3 4；Yes）、確認受付期間を中止する制御を行い（ステップ 74 AK S 0 3 5）、確認演出制御処理を終了する。このように、確認受付期間であるときに可変表

示が開始された場合には、確認受付期間を中止して、確認演出条件が成立しないように制限する。可変表示の開始に伴い確認受付期間を中止することで、遊技の進行に伴う演出の実行と確認演出の実行とが重複しないように制御して、確認演出を適切に実行することができる。

【0457】

ステップ74AKS034にて可変表示の開始ではないと判定された場合には（ステップ74AKS034；No）、確認演出を開始させるための動作検出があったか否かを判定する（ステップ74AKS036）。ステップ74AKS036では、プッシュボタン31Bを押下する動作が検出された場合に、確認演出を開始させるための動作検出があったと判定すればよい。このとき、動作検出がない場合には（ステップ74AKS036；No）、確認演出制御処理を終了する。これに対し、動作検出があったと判定された場合には（ステップ74AKS036；Yes）、確認演出を実行するために用いられる演出制御パターン74AKP01をROM121の所定領域から読み出し（ステップ74AKS037）、確認演出プロセスタイマ初期値74AKJ00を確認演出プロセスタイマに設定する（ステップ74AKS038）。また、最初の確認演出プロセスタイマ判定値74AKD01によるタイマ値の判定が行われるように設定し（ステップ74AKS039）、ステップ74AKS046に進む。なお、ステップ74AKS036にて動作検出があったと判定され、確認演出を実行するための設定などが行われる場合には、確認受付期間を終了する制御を行ってもよい。

【0458】

ステップ74AKS033にて確認受付期間ではないと判定された場合には（ステップ74AKS033；No）、確認演出中であるか否かを判定する（ステップ74AKS040）。ステップ74AKS040では、例えば確認演出プロセスタイマによる経過時間の計測がスタートしている場合に、確認演出中であると判定すればよい。このとき、確認演出中でなければ（ステップ74AKS040；No）、確認演出制御処理を終了する。これに対し、確認演出中であると判定された場合には（ステップ74AKS040；Yes）、可変表示が開始されたか否かを判定する（ステップ74AKS041）。そして、可変表示の開始中であると判定された場合には（ステップ74AKS041；Yes）、確認演出を中止する制御を行い（ステップ74AKS042）、確認演出制御処理を終了する。このように、確認演出中に可変表示が開始された場合には、確認演出の実行を中止することで、遊技の進行に伴う演出の実行と確認演出の実行とが重複しないように制御して、確認演出を適切に実行することができる。

【0459】

ステップ74AKS041にて可変表示の開始ではないと判定された場合には（ステップ74AKS041；No）、確認演出プロセスタイマの更新制御を行う（ステップ74AKS043）。次に、確認演出プロセスタイマのタイムアウトが発生したか否かを判定する（ステップ74AKS044）。このとき、タイムアウトが発生していれば（ステップ74AKS044；Yes）、確認演出を終了させる制御を行い（ステップ74AKS045）、確認演出制御処理を終了する。これに対し、タイムアウトが発生していないと判定された場合には（ステップ74AKS044；No）、確認演出プロセスタイマのタイマ値が判定値と合致したか否かを判定する（ステップ74AKS046）。判定値と合致しない場合には（ステップ74AKS046；No）、確認演出制御処理を終了する。

【0460】

ステップ74AKS046にて判定値と合致したと判定された場合には（ステップ74AKS046；Yes）、その判定値に対応する確認演出制御データを用いた演出を開始させる（ステップ74AKS047）。また、演出制御パターン74AKP01において次に格納されている確認演出プロセスタイマ判定値によるタイマ値の判定が行われるように設定してから（ステップ74AKS048）、確認演出制御処理を終了する。

【0461】

図8-50は、特徴部74AKに関して、確認演出の制御例を示すタイミング図などで

10

20

30

40

50

ある。図 8-50 (A) は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチ A K 0 0 1 を押下操作する動作の検出がある一方で、錠スイッチ 5 1 をオンに切替操作する動作の検出がないことに対応して、設定変更状態に制御されない場合を示している。図 8-50 (B) は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチ A K 0 0 1 を押下操作する動作の検出があるとともに、錠スイッチ 5 1 をオンに切替操作する動作の検出があることに対応して、設定変更状態に制御される場合を示している。図 8-50 (C) は、各タイミングにおける制御内容を示している。

【0462】

タイミング 7 4 A K T 0 1 での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されない場合に、演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0 が、タイミ
10
ング 7 4 A K T 0 2 にて R A M クリア通知コマンドを受信したと判定する。上記実施例の
電源投入時コマンド処理では、ステップ A K S 0 2 1 にて受信コマンドが R A M クリア通
知コマンドであると判定されたことにより、ステップ A K S 0 3 0 での制御が行われ、初
期化報知が開始される。そうすると、特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理に含まれるス
テップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 1 にて初期化
報知の開始であると判定され、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 での制御により、確認受付期間
が開始される。この確認検出期間内のタイミング 7 4 A K T 0 3 にて、プッシュボタン 3
1 B を押下操作する動作が検出されると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3 6
にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S
20
0 3 7 ~ 7 4 A K S 0 4 8 といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして確
認演出を実行する制御が開始されることにより、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 に含ま
れる第 1 ~ 第 3 確認演出制御データ 7 4 A K D 0 1 ~ 7 4 A K D 0 3 などを用いて、第 1
~ 第 3 確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング 7 4 A K
T 0 4 になると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 4 4 にて確認演出プロセスタ
イマがタイムアウトしたと判定され、ステップ 7 4 A K S 0 4 5 での制御が行われること
により、確認演出が終了する。

【0463】

これに対し、タイミング 7 4 A K T 1 1 での電源投入による電力供給の開始に伴い、設
定変更状態に制御される場合に、演出制御基板 1 2 では、例えば演出制御用 C P U 1 2 0
30
が、タイミング 7 4 A K T 1 2 にて設定変更開始コマンドを受信したと判定する。上記実
施例の電源投入時コマンド処理では、ステップ A K S 0 2 3 にて受信コマンドが設定変更
開始コマンドであると判定されたことにより、ステップ A K S 0 2 5 の遊技停止状態開始
時処理が実行された後に、ステップ A K S 0 2 6 の制御が行われ、設定変更報知が開始さ
れる。このときには、設定変更終了コマンドを受信した場合の他は、設定変更報知を継続
して実行する制御が行われ、初期化報知を実行する制御などが開始されない。その後、タ
イミング 7 4 A K T 1 3 にて、主基板 1 1 から送信された設定変更終了コマンドを受信す
ると、電源投入時コマンド処理のステップ A K S 0 2 7 にて設定変更を終了すると判定さ
れることで、ステップ A K S 0 2 8、A K S 0 2 9 に続いて、ステップ A K S 0 3 0 の制
御が行われ、初期化報知が開始される。

【0464】

このようにして、タイミング 7 4 A K T 1 3 にてステップ A K S 0 3 0 の制御による初
期化報知が開始されると、特徴部 7 4 A K の演出制御メイン処理に含まれるステップ 7 4
A K S 0 1 8 の確認演出制御処理では、ステップ 7 4 A K S 0 3 1 にて初期化報知の開始
であると判定され、ステップ 7 4 A K S 0 3 2 での制御により、確認受付期間が開始され
る。したがって、タイミング 7 4 A K T 1 3 では、初期化報知の開始に伴い、確認受付期
間が開始される。この確認受付期間内のタイミング 7 4 A K T 1 4 にて、プッシュボタン
3 1 B を押下操作する動作が検出されると、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K S 0 3
40
6 にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、確認演出制御処理のステップ 7 4 A K
S 0 3 7 ~ 7 4 A K S 0 4 8 といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして
確認演出を実行する制御が開始されることにより、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 に含
50

まれる第1～第3確認演出制御データ74AKD01～74AKD03などを用いて、第1～第3確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング74AKT15になると、確認演出制御処理のステップ74AKS044にて確認演出プロセスタイマがタイムアウトしたと判定され、ステップ74AKS045での制御が行われることにより、確認演出が終了する。

【0465】

なお、確認演出に含まれる演出は、パチンコ遊技機1が備える任意の演出装置を用いた演出であればよい。例えば、スティックコントローラ31Aの操作桿（レバー）に内蔵された振動用モータを駆動することによる確認振動に加えて、あるいは代えて、プッシュボタン31Bに内蔵された振動用モータを駆動することによる確認振動を実行できるものであってもよい。

10

【0466】

以上のように、特徴部74AKの演出制御メイン処理では、ステップ74AKS012にて、上記実施例と同様に電源投入時コマンド処理を実行した後、ステップ74AKS018にて確認演出制御処理を実行する。電源投入時コマンド処理では、例えばステップAKS025やステップAKS031にて、遊技停止状態開始時処理を実行する。遊技停止状態開始時処理が実行された後には、設定変更終了コマンドや設定確認終了コマンドとは異なるコマンドの受信が無効となり、通常の演出に関する制御が実行されないように規制される。この場合には、確認演出を実行する制御も行われない。これに対し、ステップAKS021にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、ステップAKS030にて、初期化報知を実行する制御を行う。その後、ステップ74AKS018の確認演出制御処理では、ステップ74AKS031にて初期化報知の開始であると判定されたことなどに基づいて、確認演出条件が成立したときに、ステップ74AKS037以降に進み、確認演出を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合には、確認演出を実行する制御を行わない。これにより、設定値を変更するための制御が、確認演出を実行する制御よりも優先されるので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

20

【0467】

電源投入時コマンド処理では、設定変更状態に対応してステップAKS025～AKS030における制御などが行われる。その後、演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理を実行することで、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

30

【0468】

プッシュボタン31Bやプッシュセンサ35Bは、遊技者による押下操作などの動作を検出可能に構成されている。特徴部74AKの確認演出制御処理では、ステップ74AKS032における制御が実行されることにより、確認受付期間となり、その後にステップ74AKS036で開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

40

【0469】

特徴部74AKの演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理を実行するときには、ステップ74AKS032における制御が実行されることにより、設定確認状態に制御されずにRAM102の記憶内容が初期化（クリア）された場合に、設定確認状態が終了した場合と共通の確認受付期間となる。この確認受付期間における確認演出条件の成立に応じて、確認演出を実行する制御を行う。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出の実行に関する制御を共通化して、確認演出の制御負担を軽減することができる。したがって、設定値の適切な設定が可能

50

になる。

【0470】

特徴部74AKで用いられる演出制御パターン74AKP01は、第1確認演出制御データ74AKD01や第2確認演出制御データ74AKD02を含むことで、スピーカ8L、8Rから確認音を出力させる制御を可能にする。こうして、確認演出は、音出力手段となるスピーカ8L、8Rによる確認用の音声の出力を含む。これにより、設定値の変更作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。したがって、設定値の適切な設定が可能になる。

【0471】

(特徴部74AKに係る手段の説明)

以上の特徴部74AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、確認音を出力させる制御を行う遊技機として、例えば特開2016-220833号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-220833号公報に記載の技術では、設定の変更と確認用の演出が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値に変更する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部74AKに係る手段1の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値1～3のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップSa13の設定変更処理を実行するCPU103など）と、

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップS25の特別図柄プロセス処理を実行するCPU103など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップSa6およびステップSa12の処理を実行するCPU103など）と、

演出を実行可能な演出手段（例えば演出表示装置5、スピーカ8L、8Rなど）と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段（例えばステップ74AKS018の確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップAKS021、AKS030を実行した後におけるステップ74AKS018の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出を実行する制御を行わない（例えばステップAKS025～AKS029の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、確認演出が実行されないので、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0472】

特徴部74AKに係る手段2の遊技機として、

前記確認制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップAKS025～AKS030を実行した後におけるステップ74AKS018の実行など）、

ことを特徴とする特徴部74AKに係る手段1の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生

10

20

30

40

50

じることを防止できる。

【0473】

特徴部74AKに係る手段3の遊技機として、

遊技者による動作を検出可能な遊技用検出手段（例えばプッシュボタン31B、プッシュセンサ35Bなど）を備え、

前記確認演出条件は、確認受付期間であるときに前記遊技用検出手段による動作の検出にもとづいて成立する（例えばステップ74AKS036の実行など）、

ことを特徴とする特徴部74AKに係る手段1または手段2の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

10

【0474】

特徴部74AKに係る手段4の遊技機として、

前記確認制御手段は、電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されずに初期化が行われた場合に、前記変更許可状態が終了した場合と共通の確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ74AKS033、74AKS036の実行など）、

ことを特徴とする特徴部74AKに係る手段1～手段3のいずれか遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出の実行を共通化して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

20

【0475】

特徴部74AKに係る手段5の遊技機として、

演出音を出力可能な音出力手段（例えばスピーカ8L、8Rなど）を備え、

前記確認演出は、前記音出力手段による確認用の音声の出力を含む（例えば第1確認演出制御データ74AKD01、第2確認演出制御データ74AKD02を用いたステップ74AKS047の実行など）、

ことを特徴とする特徴部74AKに係る手段1～手段4のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

30

【0476】

（特徴部75AKに関する説明）

図8-51は、本実施例の特徴部75AKに関し、演出制御用CPU120により実行される電源投入時コマンド処理の一例を示すフローチャートである。この電源投入時コマンド処理は、上記実施例の特徴部74AKにおける演出制御メイン処理のステップ74AKS012にて実行できればよい。特徴部75AKの電源投入時コマンド処理において、演出制御用CPU120は、上記実施例と同様に主基板11からの受信コマンドを判定する（ステップ75AKS001～75AKS004）。ステップ75AKS003にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定された場合には（ステップ75AKS003；Yes）、上記実施例と同様に、遊技停止状態開始時処理を実行し（ステップ75AKS005）、設定変更報知を開始する制御を行う（ステップ75AKS006）。

40

【0477】

ステップ75AKS006による制御を行った後には、設定変更を終了するか否かを判定する（ステップ75AKS007）。設定変更を終了しない場合には（ステップ75AKS007；No）、上記実施例とは異なり、設定変更中確認演出制御処理を実行してから（ステップ75AKS008）、ステップ75AKS007に戻る。このように、特徴部75AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ75AKS008にて設定変更中確認演出制御処理が実行されることにより、電力供給の開始に伴い変更許可状態としての設定変更状態に制御されたときに、確認演出を実行するための制御を行うことができる。ステップ75AKS007にて設定変更を終了すると判定された場合には（ステップ75AK

50

K S 0 0 7 ; Y e s) 、設定変更報知を終了する制御を行い (ステップ 7 5 A K S 0 0 9) 、遊技停止状態終了時処理を実行する (ステップ 7 5 A K S 0 1 0) 。

【 0 4 7 8 】

ステップ 7 5 A K S 0 0 1 にて受信コマンドが R A M クリア通知コマンドであると判定された場合や (ステップ 7 5 A K S 0 0 1 ; Y e s) 、ステップ 7 5 A K S 0 1 0 にて遊技停止状態終了時処理を実行した後は、初期化報知を実行する制御を行い (ステップ 7 5 A K S 0 1 1) 、電源投入時コマンド処理を終了する。

【 0 4 7 9 】

ステップ 7 5 A K S 0 0 3 にて受信コマンドが設定確認開始コマンドであると判定された場合には (ステップ 7 5 A K S 0 0 3 ; Y e s) 、上記実施例と同様に、設定確認状態 10 に対応する処理を実行した後 (ステップ 7 5 A K S 0 1 2 ~ 7 5 A K S 0 1 6) 、電源投入時コマンド処理を終了する。このように、特徴部 7 5 A K の電源投入時コマンド処理では、電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されたときにはステップ 7 5 A K S 0 0 8 の設定変更中確認演出制御処理を実行する一方で、設定確認状態に制御されたときには設定変更中確認演出制御処理に相当する処理を実行しない。したがって、設定変更状態であるときに確認演出を実行可能とする制御を行う一方で、設定確認状態であるときには確認演出を実行可能とする制御を行わない。

【 0 4 8 0 】

図 8 - 5 2 は、設定変更中確認演出制御処理として、ステップ 7 5 A K S 0 0 8 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。設定確認中確認演出制御処理において 20 、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、確認演出済みであるか否かを判定する (ステップ 7 5 A K S 0 3 1) 。ステップ 7 5 A K S 0 3 1 では、例えば R A M 1 2 2 の所定領域に設けられた確認演出完了フラグがオンである場合に、確認演出済みであると判定すればよい。確認演出完了フラグは、確認演出の実行が完了したときに、オン状態にセットされればよい。ステップ 7 5 A K S 0 3 1 にて確認演出済みである場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 1 ; Y e s) 、設定変更中確認演出制御処理を終了する。

【 0 4 8 1 】

ステップ 7 5 A K S 0 3 1 にて確認演出済みではないと判定された場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 1 ; N o) 、確認演出中であるか否かを判定する (ステップ 7 5 A K S 0 3 2) 。このとき、確認演出中でなければ (ステップ 7 5 A K S 0 3 2 ; N o) 、確認演出を開始させるための動作検出があったか否かを判定する (ステップ 7 5 A K S 0 3 3) 30 。ステップ 7 5 A K S 0 3 3 にて動作検出がない場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 3 ; N o) 、設定変更中確認演出制御処理を終了する。ステップ 7 5 A K S 0 3 3 にて動作検出があったと判定された場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 3 ; Y e s) 、確認演出の実行を開始するための設定として、演出制御パターン 7 4 A K P 0 1 を読み出し (ステップ 7 5 A K S 0 3 4) 、確認演出プロセスタイマ初期値 7 4 A K J 0 0 を設定し (ステップ 7 5 A K S 0 3 5) 、最初の確認演出プロセスタイマ判定値 7 4 A K D 0 1 を設定する (ステップ 7 5 A K S 0 3 6) 。このように、設定変更中確認演出制御処理では、ステップ 7 5 A K S 0 3 3 の判定が行われるので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、確認受付期間のような一定期間を設けることなく、任意のタイミングでプッシュボタ 40 ン 3 1 B を押下操作する動作が検出されたことなどにより、確認演出条件が成立して確認演出の実行を開始させることができる。

【 0 4 8 2 】

ステップ 7 5 A K S 0 3 2 にて確認演出中であると判定された場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 2 ; Y e s) 、確認演出プロセスタイマの更新制御を行い (ステップ 7 5 A K S 0 3 7) 、タイムアウトが発生したか否かを判定する (ステップ 7 5 A K S 0 3 8) 。このとき、タイムアウトが発生していれば (ステップ 7 5 A K S 0 3 8 ; Y e s) 、確認演出を終了させる制御を行い (ステップ 7 5 A K S 0 3 9) 、確認演出制御処理を終了する。これに対し、タイムアウトが発生していないと判定された場合には (ステップ 7 5 A K S 0 3 8 ; N o) 、確認演出プロセスタイマのタイマ値が判定値と合致したか否かを判 50

定する（ステップ75AKS040）。判定値と合致しない場合には（ステップ75AKS040；No）、確認演出制御処理を終了する。

【0483】

ステップ75AKS040にて判定値と合致したと判定された場合には（ステップ75AKS040；Yes）、その判定値に対応する確認演出制御データを用いた演出を開始させる（ステップ75AKS041）。また、演出制御パターン74AKP01において次に格納されている確認演出プロセスタイマ判定値によるタイマ値の判定が行われるように設定してから（ステップ75AKS042）、確認演出制御処理を終了する。

【0484】

図8-53は、特徴部75AKに関して、確認演出の制御例を示すタイミング図などである。図8-53（A）は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出がある一方で、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出がないことに対応して、設定変更状態に制御されない場合を示している。図8-53（B）は、電源投入により電力供給が開始されたときに、クリアスイッチAK001を押下操作する動作の検出があるとともに、錠スイッチ51をオンに切替操作する動作の検出があることに対応して、設定変更状態に制御される場合を示している。図8-53（C）は、各タイミングにおける制御内容を示している。

【0485】

タイミング75AKT01での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定変更状態に制御されない場合は、特徴部74AKで設定変更状態に制御されない場合と同様であり、タイミング74AKT02にてRAMクリア通知コマンドを受信したことにより、初期化報知が開始され、これに伴い、確認受付期間が開始される。この確認受付期間内のタイミング75AKT03にて、確認演出の開始動作を検出すると、確認演出を実行する制御が開始され、演出制御パターン74AKP01に含まれる第1～第3確認演出制御データ74AKD01～74AKD03などを用いて、第1～第3確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング75AKT04になると、確認演出が終了する。

【0486】

これに対し、タイミング75AKT11での電源投入による電力供給の開始に伴い、設定確認状態に制御される場合は、特徴部74AKで設定変更状態に制御される場合とは異なり、タイミング75AKT12にて設定変更開始コマンドを受信したことにより、電源投入時コマンド処理のステップ75AKS003にて受信コマンドが設定変更開始コマンドであると判定される。これにより、ステップ75AKS005、75AKS006に続いて、ステップ75AKS007にて設定変更を終了するか否かを判定するが、このとき終了しない場合には、ステップ75AKS008にて設定変更中確認演出制御処理が実行される。特徴部75AKの設定変更中確認演出制御処理では、ステップ75AKS032にて確認演出中ではないと判定された場合に、ステップ75AKS033にて開始動作の検出があったか否かを判定する。こうして、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、プッシュボタン31Bを押下操作する動作の検出などにより、確認演出条件を成立させることができる。例えば設定変更状態であるときのタイミング75AKT13にて、プッシュボタン31Bを押下操作する動作が検出されると、設定変更中確認演出制御処理のステップ75AKS033にて確認演出の開始動作を検出したと判定され、設定変更中確認演出制御処理のステップ75AKS034～75AKS042といった、確認演出を実行する制御が開始される。こうして、演出制御パターン74AKP01に含まれる第1～第3確認演出制御データ74AKD01～74AKD03などを用いて、第1～第3確認演出となる複数種類の演出が順番に実行される。その後、タイミング75AKT14になると、確認演出が終了する。

【0487】

タイミング75AKT14となった後、タイミング75AKT15にて、主基板11から送信された設定変更終了コマンドを受信すると、特徴部75AKの電源投入時コマンド

処理では、ステップ75AKS007にて設定変更を終了すると判定されることで、ステップ75AKS009、75AKS010に続いて、ステップ75AKS011の制御が行われ、初期化報知が開始される。この初期化報知が開始されたときには、特徴部74AKの場合と同様に、演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始されるように制御すればよい。そして、この確認受付期間にて確認演出の開始動作を検出した場合には、再び確認演出を実行する制御が開始されるようにすればよい。

【0488】

以上のように、特徴部75AKの電源投入時コマンド処理は、ステップ75AKS008にて実行される設定変更中確認演出制御処理を含み、設定変更中確認演出制御処理のステップ75AKS033にて開始動作の検出があったと判定された場合には、確認演出条件の成立により、ステップ74AKS037以降に進み、確認演出を実行する制御を行う。こうして、電源投入による電力供給の開始に伴い、パチンコ遊技機1における設定値の変更を許可する設定変更状態に制御された場合に、確認演出条件の成立に基づいて確認演出を実行する制御を行うので、変更許可状態としての設定変更状態であるときに、確認演出を実行可能とすることで、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0489】

特徴部75AKの電源投入時コマンド処理では、ステップ75AKS001にて受信コマンドがRAMクリア通知コマンドであると判定された場合に、特徴部74AKと同様の確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始される。この確認受付期間であるときに、確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行う。これに対し、設定変更中確認演出制御処理では、確認受付期間を設けることなくステップ75AKS033にて開始動作の検出があったと判定された場合に、確認演出を実行する制御を行う。これにより、変更許可条件としての設定変更状態であるときには、いつでも確認演出を実行できるので、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、設定値の変更とともに確認演出を適切に実行できる。

【0490】

特徴部75AKの電源投入時コマンド処理では、設定変更状態に対応してステップ75AKS005～75AKS011における制御などが行われる。その後、特徴部74AKと同様の確認演出制御処理が実行されることで、確認受付期間が開始される。こうして、変更許可状態としての設定変更状態が終了してから、確認受付期間における確認演出条件の成立に応じて確認演出を実行する制御を行うので、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。

【0491】

プッシュボタン31Bやプッシュセンサ35Bは、遊技者による押下操作などの動作を検出可能に構成されている。例えば特徴部75AKの設定変更中確認演出制御処理では、ステップ75AKS033にて開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。また、特徴部74AKと同様の確認演出制御処理が実行されることで、ステップ74AKS036にて開始動作の検出があったと判定されることにより、確認演出条件が成立する。これにより、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止する場合に、確認演出を適切に実行できる。

【0492】

(特徴部75AKに係る手段の説明)

以上の特徴部75AKに関して、従来、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定に変更可能な遊技機として、例えば特開2010-200902号公報に記載されているものがある。また、確認音を出力させる制御を行う遊技機として、例えば特開2016-220833号公報に記載されているものがある。しかしながら、特開2010-200902号公報や特開2016-220833号公報に記載の技術では、設定の変更と確認用の演出が競合する場合について、考慮されていなかった。そのため、遊技機の状態を確認

10

20

30

40

50

する作業に支障が生じるおそれがあった。そこで、遊技機の状態の確認作業に支障が生じることを防止できる遊技機を提供するための特徴部 7 5 A K に係る手段 1 の遊技機として、

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機 1 など）であって、

複数の設定値のうちいずれかの設定値（例えば設定値 1 ～ 3 のいずれかなど）に設定可能な設定手段（例えばステップ S a 1 3 の設定変更処理を実行する C P U 1 0 3 など）と

設定された設定値にもとづいて遊技者にとっての有利度が異なるように遊技を進行可能な遊技制御手段（例えばステップ S 2 5 の特別図柄プロセス処理を実行する C P U 1 0 3 など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定手段による設定値の変更を許可する変更許可状態に制御可能な設定制御手段（例えばステップ S a 6 およびステップ S a 1 2 の処理を実行する C P U 1 0 3 など）と、

演出を実行可能な演出手段（例えば演出表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R など）と、

電力供給が開始された後、確認演出条件の成立にもとづいて前記演出手段による確認演出の制御を実行可能な確認制御手段（例えばステップ 7 4 A K S 0 1 8 の確認演出制御処理、ステップ 7 5 A K S 0 0 8 の設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）とを備え、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されないときに、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ 7 4 A K S 0 1 8 における確認演出制御処理の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 7 5 A K S 0 0 8 における設定変更中確認演出制御処理の実行など）、

ことを特徴とする遊技機であってもよい。

このような構成によれば、変更許可状態であるときに、確認演出を実行できるので、遊技機の状態を的確に確認して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0 4 9 3】

特徴部 7 5 A K に係る手段 2 の遊技機として、

前記確認制御手段は、

電力供給の開始に伴い前記変更許可状態に制御されずに初期化が行われた場合に、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行い（例えばステップ 7 4 A K S 0 3 3、7 4 A K S 0 3 6 の実行など）、

前記変更許可状態であるときに、確認受付期間を設けることなく前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 7 5 A K S 0 3 3 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 7 5 A K に係る手段 1 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値の変更とともに確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0 4 9 4】

特徴部 7 5 A K に係る手段 3 の遊技機として、

前記確認制御手段は、前記変更許可状態が終了してから、確認受付期間における前記確認演出条件の成立に応じて前記確認演出を実行する制御を行う（例えばステップ 7 5 A K S 0 0 5 ～ 7 5 A K S 0 1 1 を実行した後におけるステップ 7 4 A K S 0 1 8 の実行など）、

ことを特徴とする特徴部 7 5 A K に係る手段 1 または手段 2 の遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業

10

20

30

40

50

に支障が生じることを防止できる。

【0495】

特徴部75AKに係る手段4の遊技機として、

遊技者による動作を検出可能な遊技用検出手段（例えばプッシュボタン31B、プッシュセンサ35Bなど）を備え、

前記確認演出条件は、前記遊技用検出手段による動作の検出にもとづいて成立する（例えばステップ75AKS033の実行など）、

ことを特徴とする特徴部75AKに係る手段1～手段3のいずれかの遊技機であってもよい。

このような構成においては、確認演出を適切に実行して、遊技機の状態を確認する作業に支障が生じることを防止できる。

【0496】

（特徴部71AK～75AKに共通する手段の説明）

特徴部71AK～75AKに係る手段Aの遊技機として、

設定に関する動作を検出可能な設定用検出手段（例えば錠スイッチ51など）と、

遊技機の初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチAK001など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段による動作の検出にもとづいて設定確認状態に制御可能な設定確認制御手段と（例えばステップAKS001、AKS002を実行するCPU103など）、

電力供給の開始に伴い前記初期化用検出手段による動作の検出にもとづいて前記変更許可状態に制御可能な変更許可制御手段とを備える（例えばステップSa6、Sa13を実行するCPU103など）、

ことを特徴とする特徴部71AK～75AKに係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定確認状態と変更許可状態に適切に制御して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0497】

特徴部71AK～75AKに係る手段Bの遊技機として、

設定に関する動作を検出可能な設定用検出手段（例えば錠スイッチ51など）と、

初期化に関する動作を検出可能な初期化用検出手段（例えばクリアスイッチAK001など）と、

電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段により動作が検出されず前記初期化用検出手段により動作が検出された場合に、該電力供給の開始とともに初期化報知を実行する一方、電力供給の開始に伴い前記設定用検出手段により動作が検出された場合に、該動作が検出されなくなってから初期化報知を実行する初期化報知手段（例えばステップAKS012の電源投入時コマンド処理を実行する演出制御用CPU120など）とを備える、

ことを特徴とする特徴部71AK～75AKに係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、初期化報知を適切に実行して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0498】

特徴部71AK～75AKに係る手段Cの遊技機として、

遊技媒体が所定領域に進入することにもとづいて付与される遊技価値に関する情報を表示可能な情報表示手段（例えば表示モニタ29など）を備え、

前記情報表示手段は、前記設定手段にて設定されている設定値を表示可能である（例えば第1表示部29Aによる表示など）、

ことを特徴とする特徴部71AK～75AKに係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値を表示するための構成を別個に設けることなく、設定値の適切な設定が可能になる。

【0499】

特徴部71AK～75AKに係る手段Dの遊技機として、

演出の出力量に関する動作を検出可能な演出用検出手段（例えば出力量切替スイッチ 7 1 A K 0 0 1 など）と、

前記設定手段による設定値に関する表示を、演出の出力量に関する表示よりも優先して表示する表示制御手段（例えばステップ A K S 0 2 6 を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）を備える、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、設定値に関する表示が適切に行われ、設定値の変更作業に支障が生じることを防止できる。

【0500】

特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る手段 E の遊技機として、

遊技制御手段からの情報に基づいて演出の実行を制御する演出制御手段（例えば A K S 0 1 5 のコマンド解析処理を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）と、

前記演出制御手段は、前記変更許可状態であるときに、該変更許可状態の終了を通知する通知情報とは異なる情報にもとづく制御を制限する情報制限手段（例えば A K S 0 2 7 を実行する演出制御用 C P U 1 2 0 など）とを備える、

ことを特徴とする特徴部 7 1 A K ~ 7 5 A K に係る遊技機であってもよい。

このような構成においては、不具合の発生を防止して、設定値の適切な設定が可能になる。

【0501】

（特徴部 8 8 A K に関する説明）

図 9-1 は、特徴部 8 8 A K に関し、画像表示装置 5 および可動部材 8 8 A K A 1 の構成例 8 8 A K P 0 を示している。構成例 8 8 A K P 0 において、画像表示装置 5 の表示画面と重複する前方側の下方縁部である下端前方には、可動演出装置となる演出用の可動部材 8 8 A K A 1 が設けられている。構成例 8 8 A K P 0 の可動部材 8 8 A K A 1 は、一部が画像表示装置 5 の表示画面と重複する前方側の位置に設けられ、他の一部が画像表示装置 5 の表示画面と重複しない位置に設けられていればよい。構成例 8 8 A K P 0 における可動部材 8 8 A K A 1 の位置は、可動部材 8 8 A K A 1 の初期位置となる。可動部材 8 8 A K A 1 は、例えばリンク機構を介して動作用モータに連結されていればよい。可動部材 8 8 A K A 1 は、動作用モータからの動力が伝達されることにより、画像表示装置 5 の前方側にて、構成例 8 8 A K P 0 における初期位置とは異なる位置に変更可能となる。可動部材 8 8 A K A 1 は、動作用モータからの動力により位置を変更可能となるものに限定されず、例えば動作用ソレノイド、その他の一般的なアクチュエータからの動力により位置を変更可能となるものであってもよい。

【0502】

可動部材 8 8 A K A 1 は、枠部 8 8 A K A 1 1 と、窓部 8 8 A K A 1 2 とを備えている。枠部 8 8 A K A 1 1 は、装飾部材を用いて構成され、遊技者が画像表示装置 5 の表示画面を視認できないように被覆可能な構成を有している。窓部 8 8 A K A 1 2 は、透過性を有するガラスまたは合成樹脂を用いて、あるいは単純な開口として形成され、遊技者が画像表示装置 5 の表示画面を視認できるように透視可能な構成を有している。

【0503】

図 9-2 は、特徴部 8 8 A K に関する変動パターンの構成例を示している。これらの変動パターンは、上記実施例における変動パターンの一部または全部に代えて、あるいは上記実施例における変動パターンの一部または全部とともに、使用可能となるように予め用意されていればよい。複数の変動パターンは、特図変動時間や飾り図柄の可変表示態様が異なる。特図変動時間は、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームなどの特図ゲームにおいて、特別図柄の可変表示が開始されてから確定特別図柄が停止表示されるまでの所要時間である。特徴部 8 8 A K に関する複数の変動パターンには、「非リーチ」、「リーチ」、「大当たり」のいずれかに対応した変動パターンが含まれている。「非リーチ」に対応した変動パターンは非リーチ変動パターンであり、「リーチ」に対応した変動パターンはリーチ変動パターンであり、「大当たり」に対応した変動パターンは大当たり変動パターンである。非

10

20

30

40

50

リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、あわせてハズレ変動パターンともいう。

【0504】

大当り変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとが含まれている。スーパーリーチのリーチ演出として、SPリーチA、SPリーチB、SPリーチCが、予め用意されている。それぞれのリーチ演出は、互いに演出態様が異なる演出を含むものであればよい。それぞれのリーチ演出は、互いに演出態様が共通の演出を含んでいてもよい。

【0505】

図9-3は、変動パターンの決定例を示している。特別図柄プロセス処理における変動パターン設定処理（ステップS111）では、変動パターン決定用の乱数値と、予めROM101の所定領域に記憶するなどして用意された変動パターン決定テーブルとを用いて、予め用意された複数の変動パターンのうちから、今回の可変表示で使用される変動パターンが決定される。変動パターン決定テーブルでは、変動パターン決定用の乱数値と比較される数値である決定値が、複数の変動パターンのいずれかに割り当てられている。CPU103は、変動パターン決定用の乱数値と合致する決定値が割り当てられた変動パターンを、今回の可変表示で使用される変動パターンに決定する。

【0506】

図9-3（A）は、大当り変動パターンの決定例で用いられる大当り変動パターン決定テーブル88AKT01の構成例を示している。大当り変動パターン決定テーブル88AKT01では、変動パターンPA3-1～PA3-4に対して、決定値が割り当てられている。大当り変動パターン決定テーブル88AKT01の設定において、変動パターンPA3-2～PA3-4といった、スーパーリーチのリーチ演出を伴う変動パターンの決定割合が、ノーマルリーチのリーチ演出を伴いスーパーリーチのリーチ演出を伴わない変動パターンPA3-1の決定割合よりも高くなる。また、大当り変動パターン決定テーブル88AKT01の設定において、スーパーリーチのリーチ演出を伴う変動パターンPA3-2～PA3-4のうちで、変動パターンPA3-2よりも変動パターンPA3-3の方が決定割合は高くなり、変動パターンPA3-3よりも変動パターンPA3-4の方が決定割合は高くなる。したがって、可変表示結果が「大当り」となる場合には、ノーマルリーチのリーチ演出を実行する割合よりも、スーパーリーチのリーチ演出を実行する割合が高くなる。加えて、可変表示結果が「大当り」となる場合には、SPリーチAのリーチ演出を実行する割合よりもSPリーチBのリーチ演出を実行する割合が高くなり、SPリーチBのリーチ演出を実行する割合よりもSPリーチCのリーチ演出を実行する割合が高くなる。

【0507】

図9-3（B1）は、通常時におけるハズレ変動パターンの決定例で用いられるハズレ変動パターン決定テーブル88AKT11の構成例を示している。図9-3（B2）は、時短中におけるハズレ変動パターンの決定例で用いられるハズレ変動パターン決定テーブル88AKT12の構成例を示している。時短制御が行われていない通常時である場合には、ハズレ変動パターン決定テーブル88AKT11を用いて、ハズレ時の変動パターンが決定される。時短制御が行われている時短中である場合には、ハズレ変動パターン決定テーブル88AKT12を用いて、ハズレ時の変動パターンが決定される。なお、変動パターンの決定とは別個の処理により、可変表示結果が「ハズレ」となる場合にリーチ状態とするか否かが決定されてもよい。

【0508】

通常時である場合に用いられるハズレ変動パターン決定テーブル88AKT11では、第1特図の保留記憶数すなわち第1保留記憶数が、0、1、または2以上のうちで、いずれであるかに応じて、異なる変動パターンに割り当てられる決定値が含まれていてもよい。具体的な一例として、「151」～「180」の範囲の決定値は、第1保留記憶数が0であれば変動パターンPA1-1に割り当てられ、第1保留記憶数が1であれば変動パタ

ーン P A 1 - 2 に割り当てられ、第 1 保留記憶数が 2 以上であれば変動パターン P A 1 - 3 に割り当てられてもよい。このような設定により、第 1 保留記憶数に応じて、特別図柄や飾り図柄の平均的な可変表示時間を異ならせることができる。特に、第 1 保留記憶数が所定値（例えば「2」）以上であるときには、第 1 保留記憶数が所定値未満であるときよりも、平均的な可変表示時間を短くすることができるように、各変動パターンに決定値が割り当てられていればよい。時短制御が行われない通常時には、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）しにくく、第 2 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が低い。そのため、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、第 2 保留記憶数にかかわらず、第 1 保留記憶数が所定値（例えば「0」）である場合と同様のテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときの第 2 保留記憶数にかかわらず、その時点における第 1 保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されることに対応して、第 2 保留記憶数にかかわらず通常時ハズレ変動パターン決定テーブルとは決定値の割当てが異なるテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、ハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 1 における「第 1 保留記憶数」を「第 2 保留記憶数」に読み替えて、第 2 保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。

10

【0509】

20

時短中である場合に用いられるハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 2 では、第 2 特図の保留記憶数すなわち第 2 保留記憶数が、0、1、または 2 以上のいずれであるかに応じて、異なる変動パターンに割り当てられる決定値が含まれてもよい。このような設定により、第 2 保留記憶数に応じて、特別図柄や飾り図柄の平均的な可変表示時間を異ならせることができる。特に、第 2 保留記憶数が所定値（例えば「2」）以上であるときには、第 2 保留記憶数が所定値未満であるときよりも、平均的な可変表示時間を短くすることができるように、各変動パターンに決定値が割り当てられていればよい。時短制御が行われている時短中には、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）しやすく、第 2 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が高い。第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行される場合には、時短中であれば第 2 特図を用いた特図ゲームが繰り返し実行される可能性が高く、第 1 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が低い。そして、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立するときには、第 2 保留記憶数が 0 になっている。そのため、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、第 1 保留記憶数にかかわらず、第 2 保留記憶数が所定値（例えば「0」）である場合と同様のテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 1 保留記憶数にかかわらずハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 2 とは決定値の割当てが異なるテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、ハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 2 における「第 2 保留記憶数」を「第 1 保留記憶数」に読み替えて、第 1 保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。

30

40

【0510】

ハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 1、8 8 A K T 1 2 の設定において、変動パターン P A 2 - 2 ~ P A 2 - 4 といった、スーパーリーチのリーチ演出を伴う変動パターンの決定割合が、ノーマルリーチのリーチ演出を伴いスーパーリーチのリーチ演出を伴わない変動パターン P A 2 - 1 の決定割合よりも低くなる。また、ハズレ変動パターン決定テーブル 8 8 A K T 1 1、8 8 A K T 1 2 の設定において、スーパーリーチのリーチ演出を伴う変動パターン P A 2 - 2 ~ P A 2 - 4 のうちで、変動パターン P A 2 - 2 よりも変動パターン P A 2 - 3 の方が決定割合は低くなり、変動パターン P A 2 - 3 よりも変動パターン P A 2 - 4 の方が決定割合は低くなる。したがって、可変表示結果が「ハズレ

50

」となる場合には、スーパーリーチのリーチ演出を実行する割合よりも、ノーマルリーチのリーチ演出を実行する割合が高くなる。加えて、可変表示結果が「ハズレ」となる場合には、S PリーチAのリーチ演出を実行する割合よりもS PリーチBのリーチ演出を実行する割合が低くなり、S PリーチBのリーチ演出を実行する割合よりもS PリーチCのリーチ演出を実行する割合が低くなる。

【0511】

こうした変動パターンの決定例では、S PリーチA、S PリーチB、S PリーチCといった、スーパーリーチのリーチ演出のうちで、S PリーチAのリーチ演出が実行された場合よりもS PリーチBのリーチ演出が実行された場合の方が大当たり期待度は高くなり、S PリーチBのリーチ演出が実行された場合よりもS PリーチCのリーチ演出が実行された場合の方が大当たり期待度は高くなる。

10

【0512】

図9-4は、可変表示開始設定処理として、演出制御プロセス処理のステップS171にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理では、飾り図柄の可変表示結果としての確定飾り図柄となる最終停止図柄などを決定する（ステップ88AKS011）。ステップ88AKS011では、主基板11から伝送された変動パターン指定コマンドで示された変動パターンや、可変表示結果通知コマンドで示された可変表示結果といった、可変表示内容に基づいて、最終停止図柄を決定する。変動パターン指定コマンドや表示結果通知コマンドは、特別図柄プロセス処理のステップS111にて変動パターン設定処理が実行されたときに、特別図柄の変動開始時におけるコマンドの送信設定が行われることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して送信される。変動パターン指定コマンドは、使用パターンとして決定された変動パターンを指定する演出制御コマンドである。可変表示結果通知コマンドは、特図表示結果決定用の乱数値を用いて決定された可変表示結果を指定する演出制御コマンドである。一例として、変動パターンや可変表示結果の組合せに応じた可変表示内容には、「非リーチ（ハズレ）」、「リーチ（ハズレ）」、「非確変（大当たり）」、「確変（大当たり）」があればよい。

20

【0513】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」の場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態にはならず、非リーチ組合せの確定飾り図柄が停止表示されて、可変表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」の場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後に、リーチハズレ組合せの確定飾り図柄が停止表示されて、可変表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「非確変（大当たり）」の場合には、可変表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態の終了後における遊技状態が時短状態となる。可変表示内容が「確変（大当たり）」の場合には、可変表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態の終了後における遊技状態が確変状態となる。

30

【0514】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」である場合に、演出制御用CPU120は、「左」および「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにて異なる（不一致の）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される左確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された左確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の表示画面における「左」の飾り図柄表示エリア5Lに停止表示される左確定飾り図柄を決定する。次に、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された右確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の表示画面における「右」の飾り図柄表示エリア5Rに停止表示される右確定飾り図柄を決定する。このときには、右確定図柄決定テーブルにおける設定などにより、右確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄の図柄番号とは異なるように、決定されるとよい。続いて、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、

40

50

ROM 121 に予め記憶されて用意された中確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示画面における「中」の飾り図柄表示エリア 5C に停止表示される中確定飾り図柄を決定する。

【0515】

可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」である場合に、演出制御用 CPU 120 は、「左」および「右」の飾り図柄表示エリア 5L、5R にて同一の（一致する）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用 CPU 120 は、乱数回路 124 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される左右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 121 に予め記憶されて用意された左右確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示画面における「左」と「右」の飾り図柄表示エリア 5L、5R にて揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。さらに、乱数回路 124 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 121 に予め記憶されて用意された中確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の表示画面における「中」の飾り図柄表示エリア 5C にて停止表示される中確定飾り図柄を決定する。ここで、例えば中確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄および右確定飾り図柄の図柄番号と同一になる場合のように、確定飾り図柄が大当たり組合せとなってしまう場合には、任意の値（例えば「1」）を中確定飾り図柄の図柄番号に加算または減算することなどにより、確定飾り図柄が大当たり組合せとはならずリーチ組合せとなるようにすればよい。あるいは、中確定飾り図柄を決定するときには、左確定飾り図柄および右確定飾り図柄の図柄番号との差分（図柄差）を決定し、その図柄差に対応する中確定飾り図柄を設定してもよい。

【0516】

可変表示内容が「非確変（大当たり）」や「確変（大当たり）」である場合に、演出制御用 CPU 120 は、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5L、5C、5R にて同一の（一致する）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用 CPU 120 は、乱数回路 124 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される大当たり確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出する。続いて、ROM 121 に予め記憶されて用意された大当たり確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、画像表示装置 5 の表示画面における「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5L、5C、5R に揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。このときには、可変表示内容が「非確変（大当たり）」と「確変（大当たり）」のいずれであるかや、大当たり中昇格演出が実行されるか否かなどに応じて、通常図柄（例えば偶数を示す飾り図柄）と確変図柄（例えば奇数を示す飾り図柄）のいずれを確定飾り図柄とするかが決定されればよい。大当たり中昇格演出は、画像表示装置 5 において大当たりを想起させるが確変状態を想起させないような飾り図柄の組合せ（非確変大当たり組合せ）が一旦は停止表示されてから、大当たり遊技状態中や大当たり遊技状態の終了時に確変状態となるか否かを報知する演出である。

【0517】

具体的な一例として、可変表示内容が「非確変（大当たり）」である場合には、複数種類の通常図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。また、可変表示内容が「確変（大当たり）」で大当たり中昇格演出を実行しないと決定されたときには、複数種類の確変図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。これに対して、可変表示内容が「確変（大当たり）」であっても大当たり中昇格演出を実行すると決定されたときには、複数種類の通常図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。これにより、確定飾り図柄として確変図柄が揃って導出表示されたにもかかわらず、大当たり中昇格演出が実行されてしまうことを防止して、遊技者に不信感を与えないようにすればよい。

【0518】

可変表示内容が「非確変（大当たり）」または「確変（大当たり）」である場合には、ステップ 88AKS011 において、再抽選演出や大当たり中昇格演出といった確変昇格演出を実行するか否かの決定が行われてもよい。再抽選演出では、飾り図柄の可変表示中に同一

の通常図柄からなる非確変大当り組合せの飾り図柄が一旦表示されることによって、確変状態に制御されることを一旦は認識困難または認識不能とし、飾り図柄を再び可変表示（再変動）させて同一の確変図柄からなる確変大当り組合せの飾り図柄が停止表示されることによって確変状態に制御されることを遊技者が認識可能に報知できる。なお、再抽選演出にて飾り図柄を再変動させた後に非確変大当り組合せの飾り図柄が停止表示されることにより、確変状態に制御されることを報知しない場合もある。ステップ 88AKS011 にて再抽選演出を実行すると決定された場合には、再抽選演出の実行前に仮停止表示する飾り図柄の組合せなどを決定すればよい。

【0519】

ステップ 88AKS011 にて最終停止図柄などを決定した後は、リーチ演出設定処理が実行される（ステップ 88AKS012）。続いて、演出制御パターンを予め用意された複数パターンのいずれかに決定する（ステップ 88AKS013）。例えば、演出制御用 CPU 120 は、変動パターン指定コマンドで示された変動パターンなどに対応して、複数用意された演出制御パターン（特図変動時演出制御パターン）のいずれかを選択し、使用パターンとしてセットする。特図変動時演出制御パターンは、複数の変動パターンに対応して、特図ゲームにおける特別図柄の変動が開始されてから特図表示結果となる確定特別図柄が導出されるまでの期間に、飾り図柄の可変表示やリーチ演出、再抽選演出などを実行する場合の演出態様を示すデータなどから構成される。ステップ 88AKS013 にて決定される演出制御パターンには、予告演出制御パターンが含まれていてもよい。予告演出制御パターンは、予め複数パターンが用意された予告パターンに対応して実行される予告演出の演出態様を示すデータなどから構成されている。

【0520】

ステップ 88AKS013 により演出制御パターンが決定されると、例えば変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応して、RAM 122 の所定領域（演出制御タイマ設定部など）に設けられた演出制御プロセスタイマの初期値を設定する（ステップ 88AKS014）。そして、画像表示装置 5 の表示画面にて飾り図柄などの変動を開始させるための設定を行う（ステップ 88AKS015）。このときには、例えばステップ 88AKS013 にて決定された演出制御パターン（特図変動時演出制御パターン）に含まれる表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部 123 の VDP に対して伝送させることなどにより、画像表示装置 5 の表示画面に設けられた「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5L、5C、5R にて飾り図柄の変動を開始させればよい。

【0521】

ステップ 88AKS015 にて変動開始の設定を行った後は、可変表示の開始に対応して、保留表示などを更新するための設定を行う（ステップ 88AKS016）。例えば、第 1 特図ゲームが実行（開始）される場合には、画像表示装置 5 の表示画面に設けられた第 1 保留表示エリアにおいて、保留番号が「1」に対応した表示部位（右端の表示部位）を消去（消化）するとともに、他の保留番号「2」～「4」に対応した表示部位における第 1 保留表示を 1 つずつ移動（シフト）させる。一方、第 2 特図ゲームが実行（開始）される場合には、画像表示装置 5 の表示画面に設けられた第 2 保留表示エリアにおいて、保留番号が「1」に対応した表示部位（左端の表示部位）を消去（消化）するとともに、他の保留番号「2」～「4」に対応した表示部位における第 2 保留表示を 1 つずつ移動（シフト）させる。これにより、保留表示のシフトが行われる。その後、演出プロセスフラグの値を可変表示中演出処理に対応した値である“2”に更新してから（ステップ 88AKS017）、可変表示開始設定処理を終了する。

【0522】

図 9-5 は、リーチ演出設定処理として、可変表示開始設定処理のステップ 88AKS012 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。リーチ演出設定処理では、変動パターン指定コマンドで示された変動パターンなどに基づいて、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態にならない「非リーチ」であるか否かを判定する（ステップ 88AK

S101)。「非リーチ」である場合には(ステップ88AKS101; Yes)、そのままリーチ演出設定処理を終了する。これに対し、「非リーチ」以外である場合には(ステップ88AKS101; No)、変動パターンに応じてスーパーリーチであるSPリーチのリーチ演出が実行される場合であるか否かを判定する(ステップ88ASK102)。SPリーチのリーチ演出が実行される場合には(ステップ88AKS102; Yes)、発展演出の演出内容を決定する(ステップ88AKS103)。

【0523】

発展演出は、ノーマルリーチのリーチ演出が実行された後に、スーパーリーチのリーチ演出が実行されること(リーチの発展)を報知する演出である。スーパーリーチのリーチ演出が実行される場合には、ノーマルリーチのリーチ演出だけが実行されてスーパーリーチのリーチ演出が実行されない場合などに比べて、可変表示結果が「大当たり」となり有利状態としての大当たり遊技状態に制御される割合(大当たり期待度)が高くなる。スーパーリーチのリーチ演出が実行されて大当たり組合せの確定飾り図柄が導出されるか否かに応じて、大当たり遊技状態に制御されるか否かを報知できる。このように、スーパーリーチのリーチ演出が実行される状態は、大当たり遊技状態に制御されるか否かを報知するための演出状態となることができる。発展演出は、所定状態として、スーパーリーチのリーチ演出が実行されることによる演出状態に制御されることを報知する演出となる。

【0524】

発展演出が実行される期間では、可動部材88AKA1の位置を変更することによる位置変更演出や、画像表示装置5の表示画面に各種の演出画像を表示することによる表示演出などが行われる。ステップ88AKS103による決定は、位置変更演出に関する決定と、表示演出に関する決定とを含んでいけばよい。位置変更演出に関する決定として、例えば可動部材88AKA1の位置を変更する場合の目標位置となる停止対象表示が決定される。表示演出に関する決定として、例えば可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置で特定演出画像を表示する特定表示の内容が決定されてもよい。可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置は、例えば画像表示装置5の表示画面において、その前方側で可動部材88AKA1の位置を変更する場合に、枠部88AKA11の外側における所定外部範囲と、枠部88AKA11の内側である窓部88AKA12にて視認可能な所定内部範囲とを含むように、予め定められた演出画像の表示位置であればよい。また、表示演出に関する決定として、例えば可動部材88AKA1の位置を復帰させる場合に追加の演出画像を表示する復帰追加表示の内容が決定される。

【0525】

ステップ88AKS102にてSPリーチのリーチ演出が実行されないと判定した場合や(ステップ88AKS102; No)、ステップ88AKS103による決定の後には、変動パターンに応じたリーチ演出の設定を行う(ステップ88AKS104)。例えば、カットイン表示の有無、メッセージとなる文字の表示色、演出画像における模様といった、リーチ演出における詳細な設定が、ステップ88AKS104にて行われてもよい。また、SPリーチを伴う大当たり変動パターンである場合に対応して、大当たり報知演出の有無や演出態様が決定されてもよい。大当たり報知演出は、可変表示結果が「大当たり」とあるという特定条件の成立に応じて、可動部材88AKA1の位置が変更される変更演出を含んでいけばよい。変更演出による可動部材88AKA1の位置変更に伴い、画像表示装置5の表示画面では大当たり報知画像が表示されてもよく、スピーカ8L、8Rから大当たり報知音が出力されてもよく、遊技効果ランプ9が大当たり報知態様で点灯されてもよい。リーチ演出の設定は、可変表示開始設定処理のステップ88AKS013にて演出制御パターンを決定することにより行われてもよい。

【0526】

図9-6は、この実施の形態で実行可能な発展演出の演出内容に関する各種設定を示している。図9-6(A)は、リーチ演出設定処理のステップ88AKS103による発展演出内容の決定例における決定割合88AKT21を示している。図9-6(B)は、発展演出内容の大当たり期待度を示している。

10

20

30

40

50

【0527】

発展演出は、位置変更演出と表示演出とを含んでいる。位置変更演出では、例えばプッシュボタン31Bに対する押下操作が繰り返される連打操作となる動作の検出に応じて、可動部材88AKA1の位置を変更する。表示演出では、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置で特定表示を行う。特定表示の表示位置は、可動部材88AKA1の位置にかかわらず変更されない場合と、特定表示と可動部材88AKA1との位置関係が維持されるように変更される場合とがある。例えばプッシュボタン31Bに対する押下操作を有効に検出し、連打操作となる動作の検出に応じて可動部材88AKA1の位置が変更される期間において、特定表示の表示位置は、可動部材88AKA1の位置にかかわらず変更されない。これに対し、連打操作に応じて可動部材88AKA1の位置が変更された後、構成例88AKP0における位置に復帰させるように可動部材88AKA1の位置が変更される期間において、特定表示の表示位置は、特定表示と可動部材88AKA1との位置関係が維持されるように変更される。特定表示では、例えば「SPリーチA」、「SPリーチB」、「SPリーチC」といった、複数態様のスーパーリーチに対応するメッセージを報知する演出画像が、画像表示装置5の表示画面に表示される。これらの演出画像による表示のうち、いずれかを停止対象表示として設定する。連打操作となる動作の検出に基づいて可動部材88AKA1の位置を変更する場合には、停止対象表示となる演出画像の表示が、可動部材88AKA1の内側である窓部88AKA12にて視認可能となるまで、可動部材88AKA1の位置を変更可能に制御する。

10

【0528】

20

演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される発展演出決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶して用意された発展演出決定テーブルのテーブルデータを参照することで、決定割合88AKT21における可変表示結果や停止対象表示に応じた割合により、復帰追加表示を決定できればよい。

【0529】

発展演出内容の大当たり期待度は、発展演出に含まれる位置変更演出での停止対象表示と、表示演出での復帰追加表示との組合せに応じて、異なるように設定されている。この実施の形態では、SPリーチA、SPリーチB、SPリーチCといった、スーパーリーチのリーチ演出のうちで、SPリーチAのリーチ演出が実行された場合よりもSPリーチBのリーチ演出が実行された場合の方が大当たり期待度は高くなり、SPリーチBのリーチ演出が実行された場合よりもSPリーチCのリーチ演出が実行された場合の方が大当たり期待度は高くなる。そのため、位置変更演出において可動部材88AKA1の位置だけに着目すれば、「SPリーチA」の大当たり期待度が最も低く、「SPリーチB」、「SPリーチC」の順に大当たり期待度が高くなる。しかしながら、復帰追加表示の表示内容は、決定割合88AKT21のような可変表示結果に応じた割合で決定される。これにより、位置変更演出の演出内容と組み合わせた場合における大当たり期待度を、様々に変化させることができる。

30

【0530】

演出制御プロセス処理のステップS172にて実行される可変表示中演出処理では、例えば変動パターンに対応した可変表示時間が経過したか否かを判定する。可変表示時間が経過していない場合には、演出制御パターンから読み出された制御データに応じて、各種の演出装置による出力状態を制御するための設定を行う。演出制御パターンから読み出される制御データには、例えば表示制御データ、音声制御データ、ランプ制御データ、モータ制御データ、操作検出制御データの一部または全部が含まれていればよい。表示制御データが読み出された場合には、画像表示装置5における表示状態を制御するための設定を行う。例えば、演出制御用CPU120は、表示制御データに示される命令やレジスタ値を表示制御部123のVDPに供給すればよい。音声制御データが読み出された場合には、スピーカ8L、8Rにおける音声出力状態を制御するための設定を行う。例えば、演出制御用CPU120は、音声制御データに示される命令やレジスタ値を、表示制御部12

40

50

3のVDPまたは音声制御基板13に供給すればよい。ランプ制御データが読み出された場合には、遊技効果ランプ9や装飾用LEDにおける点灯状態を制御するための設定を行う。例えば、演出制御用CPU120は、ランプ制御データに示される命令やレジスタ値を、表示制御部123のVDPまたはランプ制御基板14に供給すればよい。モータ制御データが読み出された場合には、動作モータにおける動作状態を制御するための設定を行う。例えば、演出制御用CPU120は、モータ制御データに示される命令やレジスタ値を、表示制御部123のVDPまたはモータ制御用の駆動回路に供給すればよい。操作検出制御データが読み出された場合には、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bに対する操作などによる遊技者の動作を検出するための制御を行う。例えば、演出制御用CPU120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの信号入力を有効とする有効期間を設定し、その有効期間において信号状態（オンまたはオフ）の判定を行えばよい。

10

【0531】

こうした制御データに応じた制御として、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示時間が経過するまでに、予め定められた複数の期間に応じて異なる制御が行われてもよい。例えば、予告演出期間、リーチ演出期間、一般変動期間といった、複数の期間に対応した制御を行うことができればよい。予告演出期間は、演出制御パターンに対応した予告演出を実行するための期間である。予告演出期間では、予告演出を実行するための制御である予告演出制御が行われることにより、画像表示装置5の表示画面に演出画像を表示させること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力させること、遊技効果ランプ9や装飾用LEDなどの発光部材を点灯または点滅または消灯させること、可動部材88AKA1を動作させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、各種の演出装置を用いて予告演出を実行できればよい。リーチ演出期間は、演出制御パターンに対応したリーチ演出を実行するための期間である。リーチ演出期間では、リーチ演出を実行するための制御であるリーチ演出制御が行われることにより、画像表示装置5の表示画面に演出画像を表示させること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力させること、遊技効果ランプ9や装飾用LEDなどの発光部材を点灯または点滅または消灯させること、可動部材88AKA1を動作させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、各種の演出装置を用いてリーチ演出を実行できればよい。一般変動期間では、飾り図柄の可変表示を実行するための制御である一般変動制御が行われることにより、画像表示装置5の表示画面に演出画像を表示させること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力させること、あるいは、その他の演出装置を用いた出力状態を変化させることで、飾り図柄の可変表示に関する演出を実行できればよい。なお、予告演出期間、リーチ演出期間、一般変動期間といった、可変表示時間が経過するまでの期間に含まれる複数の期間は、互いに一部または全部の期間が重複する部分を含んでいてもよい。

20

30

【0532】

この実施の形態において、リーチ演出期間は、発展演出期間と、大当り用演出期間とを含む場合がある。発展演出期間は、演出制御パターンに対応した発展演出を実行するための期間である。大当り用演出期間は、演出制御パターンに対応した大当り用演出を実行するための期間である。発展演出期間では、発展演出を実行するための制御である発展演出制御が行われることにより、画像表示装置5の表示画面に演出画像を表示させること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力させること、遊技効果ランプ9や装飾用LEDなどの発光部材を点灯または点滅または消灯させること、可動部材88AKA1を動作させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、各種の演出装置を用いて発展演出を実行できればよい。大当り用演出期間では、大当り報知演出として大当り用演出を実行するための制御である大当り用演出制御が行われることにより、画像表示装置5の表示画面に演出画像を表示させること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力させること、遊技効果ランプ9や装飾用LEDなどの発光部材を点灯または点滅または消灯させること、可動部材88AKA1を動作させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、各種の演出装置を用いて大当り用演出を実行できればよい。

40

50

【0533】

発展演出期間は、ノーマルリーチのリーチ演出が実行された後、スーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンに対応して、リーチ演出期間の一部に含まれていればよい。大当り用演出期間は、可変表示結果が「大当り」となる場合の大当り変動パターンに対応して、リーチ演出期間の一部に含まれていればよい。例えば、大当り用演出期間は、リーチ演出期間の最終部分に設けられるようにすればよい。可変表示結果が「大当り」となる場合の大当り変動パターンは、可変表示結果が「ハズレ」となる場合のリーチ変動パターンと共通のリーチ演出を伴う場合でも、リーチ変動パターンよりも所定時間（例えば1000ms）だけ特図変動時間が長くなるように設定されていればよい。大当り変動パターンに対応して大当り用演出期間が設けられる場合には、特図変動時間が経過する以前の所定時間に対応する期間が、大当り用演出期間となればよい。

10

【0534】

図9-7～図9-9は、特徴部88AKに関する演出実行例のうち、発展演出が実行される場合を示している。図9-10は、特徴部88AKに関する演出実行例のうち、大当り用演出が実行される場合を示している。図9-7(A)～(D)は、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後に発展演出が開始される場合の演出実行例88AKD111～88AKD114と、演出実行例88AKD114に対応した演出実行例88AKE114とを示している。図9-8(A)～(C)は、停止対象表示に応じて可動部材88AKA1の位置が変更された場合の演出実行例88AKD121～88AKD123を示している。図9-9(A)～(C)は、復帰追加表示に応じて演出画像が表示された場合の演出実行例88AKD131～88AKD133を示している。図9-10(A)、(B)は、大当り用演出により可変表示結果が「大当り」となることを報知する場合の演出実行例88AKD141、88AKD142を示している。

20

【0535】

発展演出が実行される期間である発展演出期間は、初期演出期間と、連打演出期間と、復帰演出期間とを含んでいればよい。初期演出期間は、発展演出の実行が開始されることを遊技者に報知するための演出が行われる期間である。連打演出期間は、遊技者が押しボタン31Bを連打操作する動作の検出に応じて可動部材88AKA1の位置が変更されるなどの演出が進行する期間である。復帰演出期間は、連打演出期間にて変更された可動部材88AKA1の位置を構成例88AKP0における位置である初期位置に復帰させ、この復帰に伴う表示演出が行われる期間である。

30

【0536】

演出実行例88AKD111のように、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となり、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されているときには、可動部材88AKA1の位置が初期位置から変更されない。可動部材88AKA1の初期位置は、構成例88AKP0における位置のような、画像表示装置5の表示画面に対して下端前方となる位置である。続いて、発展演出期間が開始され、まずは初期演出期間になる。

【0537】

演出実行例88AKD112のように、初期演出期間では、可動部材88AKA1の位置が、初期位置から変更され、予め定められた開始報知位置となる。開始報知位置は、画像表示装置5の表示画面に対して下端前方となる可動部材88AKA1の初期位置よりも上方に設定され、可動部材88AKA1の位置が初期位置から上方に直線移動あるいは平行移動することで開始報知位置に変更されるものであればよい。このときに、例えば可動部材88AKA1の内側となる窓部88AKA12に対応する画像表示装置5の表示位置では、「発展チャレンジ」といったメッセージを示す演出画像が表示される。また、例えば可動部材88AKA1の外側では、枠部88AKA11の上方に対応する画像表示装置5の表示位置にて、演出画像88AKB1～88AKB3が表示される。演出画像88AKB1は、SPリーチAのリーチ演出に対応したメッセージを示す表示画像である。演出画像88AKB2は、SPリーチBのリーチ演出に対応したメッセージを示す表示画像である。演出画像88AKB3は、SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージを示す

40

50

表示画像である。このように、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する表示位置や、可動部材 88AKA1 の外側にて枠部 88AKA11 の上方に対応する表示位置といった、可動部材 88AKA1 の周辺に対応する表示位置にて、発展演出に含まれる表示演出での特定表示を行うことができればよい。なお、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する表示位置と、可動部材 88AKA1 の外側にて枠部 88AKA11 から所定範囲に対応する表示位置とのうち、少なくともいずれか一方の表示位置を、可動部材 88AKA1 の周辺に対応する表示位置として、特定表示を行うものであればよい。発展演出期間において、初期演出期間の次には、連打演出期間になる。

【0538】

演出実行例 88AKD113 のように、連打演出期間では、遊技者に対してプッシュボタン 31B の連打操作となる動作を促すメッセージを示す演出画像が、画像表示装置 5 の表示画面にて表示されればよい。連打演出期間では、プッシュボタン 31B に対する押下操作が繰り返される連打操作となる動作を検出可能な検出有効期間となる。また、演出実行例 88AKD114 のように、連打演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置は、連打操作となる動作の検出に応じて、開始報知位置から上方に移動することで変更される。演出実行例 88AKE114 のように、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出されるごとに、演出制御用 CPU 120 は、単位移動量として予め定められた移動量だけ可動部材 88AKA1 の位置を上方に移動させる制御を行えばよい。ただし、連打演出期間にて可動部材 88AKA1 の位置が変更可能となる範囲は、リーチ演出設定処理のステップ 88AKS103 にて決定された停止対象表示に応じて異なる範囲となる。そして、演出実行例 88AKE114 のように、連打演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が上方に移動して変更されることに伴い、スピーカ 8L、8R により出力される演出音として、上昇時演出音となる効果音が出力される。上昇時演出音は、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作の検出に応じて出力されてもよいし、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作の検出にかかわらず出力されてもよい。あるいは、上昇時演出音は、可動部材 88AKA1 の位置が変更されることに伴って出力されてもよいし、可動部材 88AKA1 の位置が変更されるか否かにかかわらず出力されてもよい。上昇時演出音は、連打演出期間の全部にて出力可能であってもよいし、連打演出期間の一部にて出力可能であってもよい。連打演出期間では、上昇時演出音を出力可能なので、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作に対する遊技者の意欲を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

【0539】

なお、発展演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が変更される動作速度を異ならせることにより、複数の変動パターンに対応する可変表示時間の相違に応じた発展演出を実行可能としてもよい。例えば変動パターンに対応する可変表示時間が、第 1 時間よりも短い第 2 時間である場合には、第 1 時間である場合の第 1 動作速度よりも速い第 2 動作速度により、可動部材 88AKA1 の位置を変更可能に制御する。この場合に、連打演出期間では、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出されるごとに、第 1 単位移動量よりも大きい第 2 単位移動量だけ可動部材 88AKA1 の位置を上方に移動させる制御を行えばよい。第 1 単位移動量は、変動パターンに対応する可変表示時間が第 2 時間よりも長い第 1 時間である場合の単位移動量である。これにより、可変表示時間が第 1 時間よりも短い第 2 時間の変動パターンによる可変表示の実行中に、発展演出を適切に実行することができる。

【0540】

また、可動部材 88AKA1 が移動して位置が変更されるときには、画像表示装置 5 における演出画像の表示位置も移動して変更される制御が行われてもよい。あるいは、可動部材 88AKA1 が移動して位置が変更されることに伴って、画像表示装置 5 における演出画像の表示態様を変化させてもよい。例えば、可動部材 88AKA1 の初期位置や開始報知位置からの移動量が増加するに従って、演出画像の表示色を、白色から青色へと変化

させ、さらに青色から赤色へと変化させてもよい。

【0541】

発展演出期間は、ノーマルリーチのリーチ演出が実行された後、スーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンに対応して、リーチ演出期間の一部に含まれるものに限定されず、スーパーリーチのリーチ演出が実行されない変動パターンに対応して、ノーマルリーチのリーチ演出期間の一部に含まれるものであってもよい。このように、発展演出が実行され、可動部材 88AKA1 の位置を変更可能となった場合でも、スーパーリーチのリーチ演出が実行されないガセ演出を実行可能としてもよい。ガセ演出としての発展演出が実行された場合には、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出されても、可動部材 88AKA1 を一定の位置に停止させてもよい。例えば、連打演出期間にてプッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出されたときには、可動部材 88AKA1 を開始報知位置にて振動させる制御を行い、可動部材 88AKA1 の位置を上方に移動させる制御を行わないようにしてもよい。可動部材 88AKA1 を振動させる場合には、画像表示装置 5 における演出画像の表示位置も移動せずに停止表示されてもよい。

10

【0542】

演出実行例 88AKD121 では、停止対象表示が SPリーチ A に決定された場合に対応して、可動部材 88AKA1 の位置が演出画像 88AKB1 の表示位置を含む位置まで変更されている。この場合に、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 では、SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 の表示が視認可能となるように、可動部材 88AKA1 の位置が、開始報知位置から変更され、連打結果位置となる。このとき、演出画像 88AKB1 ～ 88AKB3 の表示位置は変更されない。こうして、可動部材 88AKA1 の位置が、演出実行例 88AKD121 の連打結果位置であるときに、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する画像表示装置 5 の表示位置では、SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 が表示されている。また、可動部材 88AKA1 の位置が、演出実行例 88AKD121 の連打結果位置であるときに、可動部材 88AKA1 の外側では、枠部 88AKA11 の上方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 の一部と、SPリーチ C のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB3 の全部とが、表示されている。このように、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する表示位置や、可動部材 88AKA1 の外側にて枠部 88AKA11 の上方に対応する表示位置といった、可動部材 88AKA1 の周辺に対応する表示位置にて、発展演出に含まれる表示演出での特定表示を行うことができればよい。なお、演出実行例 88AKD121 における演出画像 88AKB2 のように、特定表示の一部は、可動部材 88AKA1 の枠部 88AKA11 に被覆されて視認できない場合があってもよい。

20

30

【0543】

演出実行例 88AKD122 では、停止対象表示が SPリーチ B に決定された場合に対応して、可動部材 88AKA1 の位置が演出画像 88AKB2 の表示位置を含む位置まで変更されている。この場合に、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 では、SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 の表示が視認可能となるように、可動部材 88AKA1 の位置が、開始報知位置から変更され、連打結果位置となる。このとき、演出画像 88AKB1 ～ 88AKB3 の表示位置は変更されない。こうして、可動部材 88AKA1 の位置が、演出実行例 88AKD122 の連打結果位置であるときに、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する画像表示装置 5 の表示位置では、SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 が表示されている。また、可動部材 88AKA1 の位置が、演出実行例 88AKD122 の連打結果位置であるときに、可動部材 88AKA1 の外側では、枠部 88AKA11 の下方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 の一部が表示され、枠部

40

50

88AKA11の上方に対応する画像表示装置5の表示位置にて、SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像88AKB3の一部が表示されている。このように、可動部材88AKA1の内側となる窓部88AKA12に対応する表示位置や、可動部材88AKA1の外側にて枠部88AKA11の上方に対応する表示位置といった、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置にて、発展演出に含まれる表示演出での特定表示を行うことができればよい。なお、演出実行例88AKD122における演出画像88AKB1や演出画像88AKB3のように、特定表示の一部は、可動部材88AKA1の枠部88AKA11に被覆されて視認できない場合があってもよい。

【0544】

演出実行例88AKD123では、停止対象表示がSPリーチCに決定された場合に対応して、可動部材88AKA1の位置が演出画像88AKB3の表示位置を含む位置まで変更されている。この場合に、可動部材88AKA1の内側となる窓部88AKA12では、SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像88AKB3の表示が視認可能となるように、可動部材88AKA1の位置が、開始報知位置から変更され、連打結果位置となる。このとき、演出画像88AKB1～88AKB3の表示位置は変更されない。こうして、可動部材88AKA1の位置が、演出実行例88AKD123の連打結果位置であるときに、可動部材88AKA1の内側となる窓部88AKA12に対応する画像表示装置5の表示位置では、SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像88AKB3が表示されている。また、可動部材88AKA1の位置が、演出実行例88AKD123の連打結果位置であるときに、可動部材88AKA1の外側では、枠部88AKA11の下方に対応する画像表示装置5の表示位置にて、SPリーチAのリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像88AKB1の全部と、SPリーチBのリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像88AKB2の一部とが、表示されている。このように、可動部材88AKA1の内側となる窓部88AKA12に対応する表示位置や、可動部材88AKA1の外側にて枠部88AKA11の上方に対応する表示位置といった、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置にて、発展演出に含まれる表示演出での特定表示を行うことができればよい。なお、演出実行例88AKD123における演出画像88AKB2のように、特定表示の一部は、可動部材88AKA1の枠部88AKA11に被覆されて視認できない場合があってもよい。

【0545】

連打結果位置は、演出実行例88AKD121～88AKD123に応じて異なる複数種類の第1位置からいずれかを設定可能である。演出実行例88AKD121において、可動部材88AKA1の位置は、停止対象表示がSPリーチAに対応した連打結果位置に設定される。演出実行例88AKD122において、可動部材88AKA1の位置は、停止対象表示がSPリーチBに対応した連打結果位置に設定される。演出実行例88AKD123において、可動部材88AKA1の位置は、停止対象表示がSPリーチCに対応した連打結果位置に設定される。このように、可動部材88AKA1の位置は、複数種類の第1位置のうちいずれかに変更可能である。演出実行例88AKD121の連打結果位置は、スーパーリーチのリーチ演出がSPリーチAである場合に設定される。演出実行例88AKD122の連打結果位置は、スーパーリーチのリーチ演出がSPリーチBである場合に設定される。演出実行例88AKD123の連打結果位置は、スーパーリーチのリーチ演出がSPリーチCである場合に設定される。スーパーリーチのリーチ演出は、SPリーチAの場合に大当たり期待度が最も低くなり、SPリーチAの場合よりもSPリーチBの場合の方が大当たり期待度が高くなり、SPリーチBの場合よりもSPリーチCの場合の方が大当たり期待度が高くなり、SPリーチCの場合に大当たり期待度が最も高くなる。したがって、連打演出期間において可動部材88AKA1の位置がいずれの連打結果位置に変更されるかに応じて、大当たり遊技状態といった遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合を異ならせることができる。発展演出期間において、連打演出期間の次には、復帰演出期間になる。

【0546】

復帰演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が、連打結果位置から変更され、構成例 88AKP0 における位置である初期位置に復帰する。連打結果位置は、開始報知位置よりも更に上方に設定されているので、可動部材 88AKA1 の位置が連打結果位置から下方に直線移動あるいは平行移動することで初期位置に変更されるものであればよい。このときに、画像表示装置 5 の表示画面では、可動部材 88AKA1 と特定表示との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させる。

【0547】

可動部材 88AKA1 の位置は、演出実行例 88AKD121 の連打結果位置を第 1 位置とし、初期位置を第 2 位置として、第 1 位置から第 2 位置へと変更される復帰時位置変更 88AKF1 が行われる場合がある。あるいは、可動部材 88AKA1 の位置は、演出
10
実行例 88AKD122 の連打結果位置を第 1 位置とし、初期位置を第 2 位置として、第 1 位置から第 2 位置へと変更される復帰時位置変更 88AKF2 が行われる場合がある。あるいは、可動部材 88AKA1 の位置は、演出実行例 88AKD123 の連打結果位置を第 1 位置とし、初期位置を第 2 位置として、第 1 位置から第 2 位置へと変更される復帰
時位置変更 88AKF3 が行われる場合がある。

【0548】

演出実行例 88AKD121 において、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 にて視認可能に表示されていた SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 は、復帰時位置変更 88AKF1 の実行に伴い、窓部 88AKA12 にて視認可能な表示状態が維持されるように、画像表示装置 5 の表示画面におけ
20
る表示位置が変更される。演出実行例 88AKD121 において、可動部材 88AKA1 の外側などに表示されていた SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 および SPリーチ C のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB3 は、復帰時位置変更 88AKF1 の実行に伴い、可動部材 88AKA1 の位置に連動して、画像表示装置 5 の表示画面における表示位置が変更される。このときには、
30
枠部 88AKA11 の上方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 の一部と、SPリーチ C のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB3 の全部とが、視認可能な表示状態を維持しつつ、演出画像 88AKB2、88AKB3 の表示位置が変更されるようにすればよい。

【0549】

演出実行例 88AKD122 において、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 にて視認可能に表示されていた SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 は、復帰時位置変更 88AKF2 の実行に伴い、窓部 88AKA12 にて視認可能な表示状態が維持されるように、画像表示装置 5 の表示画面におけ
る表示位置が変更される。演出実行例 88AKD122 において、可動部材 88AKA1 の外側などに表示されていた SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出
40
画像 88AKB1 および SPリーチ C のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB3 は、復帰時位置変更 88AKF2 の実行に伴い、可動部材 88AKA1 の位置に連動して、画像表示装置 5 の表示画面における表示位置が変更される。このときには、
50
枠部 88AKA11 の下方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 の一部と、枠部 88AKA11 の上方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ C のリーチ演出に対応するメッセージを示す演出画像 88AKB3 の一部とが、視認可能な表示状態を維持しつつ、演出画像 88AKB1、88AKB3 の表示位置が変更されるようにすればよい。

【0550】

演出実行例 88AKD123 において、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 にて視認可能に表示されていた SPリーチ C のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB3 は、復帰時位置変更 88AKF3 の実行に伴い、窓部 88AKA12 にて視認可能な表示状態が維持されるように、画像表示装置 5 の表示画面におけ

る表示位置が変更される。演出実行例 88AKD123 において、可動部材 88AKA1 の外側などに表示されていた SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 および SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 は、復帰時位置変更 88AKF3 の実行に伴い、可動部材 88AKA1 の位置に連動して、画像表示装置 5 の表示画面における表示位置が変更される。このときには、枠部 88AKA11 の下方に対応する画像表示装置 5 の表示位置にて、SPリーチ A のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB1 の全部と、SPリーチ B のリーチ演出に対応したメッセージを示す演出画像 88AKB2 の一部とが、視認可能な表示状態を維持しつつ、演出画像 88AKB1、88AKB2 の表示位置が変更されるようにすればよい。

10

【0551】

このように、復帰演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が第 2 位置としての初期位置に変更されるときに、演出画像 88AKB1～88AKB3 の表示による特定表示と、可動部材 88AKA1 との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させる。こうして、特定表示の表示位置を、可動部材 88AKA1 の位置が変更されることに随伴して変更させるので、位置変更演出と表示演出との一体感が高められる適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。なお、演出画像 88AKB1～88AKB3 の表示において、例えば表示サイズや表示色、表示形状など、表示位置とは異なる表示態様を変更することなく、特定表示の表示位置を変更すればよい。これにより、可動部材 88AKA1 の位置が変更される場合に、可動部材 88AKA1 に随伴して特定表示の表示位置が変更されることを明確に認識可能とする適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。

20

【0552】

復帰演出期間にて、可動部材 88AKA1 の位置が第 2 位置としての初期位置に変更されたときに、演出画像 88AKB1～88AKB3 とは異なる演出画像の表示が行われる。このとき表示される演出画像は、リーチ演出設定処理のステップ 88AKS103 にて決定された復帰追加表示に応じて異なる表示画像となる。演出実行例 88AKD131 では、復帰追加表示がキャラクタ X に決定された場合に対応して、キャラクタ X を示す演出画像 88AKC1 が表示される。演出実行例 88AKD132 では、復帰追加表示がキャラクタ Y に決定された場合に対応して、キャラクタ Y を示す演出画像 88AKC2 が表示される。演出実行例 88AKD133 では、復帰追加表示がキャラクタ Z に決定された場合に対応して、キャラクタ Z を示す演出画像 88AKC3 が表示される。このように、可動部材 88AKA1 の位置が連打結果位置から初期位置に変更されたときには、復帰追加表示の決定結果に対応したキャラクタを示す演出画像が表示されることにより、発展演出に含まれる表示演出での追加表示を行うことができればよい。また、演出実行例 88AKE131 のように、復帰演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が下方に移動して変更される一方で、スピーカ 8L、8R による演出音の出力がなく、下降時演出音となる効果音を出力させない。なお、下降時演出音となる効果音は出力させないが、例えば BGM といった、復帰演出期間となる以前から出力されていた演出音については、復帰演出期間でも継続して出力されるようにしてもよい。復帰演出期間では、下降時演出音を出力しないので、遊技者に煩雑な印象を与えない適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。また、復帰演出期間では、演出画像 88AKC1～88AKC3 のいずれかを表示することによる追加表示を行うので、遊技者の注目が高められる適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。

30

40

【0553】

復帰追加表示は、例えば決定割合 88AKT21 のように、可変表示結果が「ハズレ」の場合と「大当たり」の場合とに応じて異なる割合で決定される。復帰追加表示の決定結果に対応して、キャラクタ X を示す演出画像 88AKC1 が表示された場合に大当たり期待度は最も低くなり、キャラクタ X を示す演出画像 88AKC1 が表示された場合よりもキャラクタ Y を示す演出画像 88AKC2 が表示された場合の方が大当たり期待度は高くなり、

50

キャラクタ Y を示す演出画像 88AKC2 が表示された場合よりもキャラクタ Z を示す演出画像 88AKC3 が表示された場合の方が大当たり期待度は高くなり、キャラクタ Z を示す演出画像 88AKC3 が表示された場合に大当たり期待度は最も高くなる。したがって、復帰追加表示となる演出画像の表示により、大当たり遊技状態といった遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを予告可能となる。演出画像 88AKC1 ～ 88AKC3 のいずれかを表示する追加表示により、有利状態に制御されることを予告可能なので、遊技者の期待感が高められる適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。

【0554】

発展演出が実行された後には、変動パターンおよび停止対象表示の決定結果に対応する演出態様によりスーパーリーチのリーチ演出が実行される。例えば変動パターンに応じた停止対象表示が SPリーチ A に決定された場合に対応して、発展演出の終了後には SPリーチ A のリーチ演出が実行される。変動パターンに応じた停止対象表示が SPリーチ B に決定された場合に対応して、発展演出の終了後には SPリーチ B のリーチ演出が実行される。変動パターンに応じた停止対象表示が SPリーチ C に決定された場合に対応して、発展演出の終了後には SPリーチ C のリーチ演出が実行される。スーパーリーチのリーチ演出が終了するときには、可変表示結果が「ハズレ」の場合や「大当たり」の場合などに応じて、可変表示開始設定処理のステップ 88AKS011 にて決定された最終停止図柄が導出される。可変表示結果が「大当たり」となる場合に対応して、スーパーリーチのリーチ演出が実行される場合には、リーチ演出期間の最終部分に設けられた大当たり用演出期間にて、大当たり用演出を実行するための制御が行われる。

【0555】

演出実行例 88AKD141 では、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態であることに基づいて、発展演出の後にスーパーリーチのリーチ演出が実行され、リーチ演出期間の最終部分にて大当たり用演出期間が開始されている。このときには、プッシュボタン 31B に対する 1 回の押下操作となる動作を検出可能な検出有効期間となる。また、可動部材 88AKA1 の位置が初期位置に維持された状態で、窓部 88AKA12 に対応する画像表示装置 5 の表示位置では、遊技者に対してプッシュボタン 31B の押下操作となる動作を促すメッセージを示す演出画像が表示される。なお、このようなメッセージを示す演出画像は、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する表示位置に表示されるものに限定されず、例えば枠部 88AKA11 の上方における表示位置といった、可動部材 88AKA1 の外側に対応する表示位置に表示されるものであってもよい。

【0556】

その後、検出有効期間が終了するまでに、プッシュボタン 31B に対する押下操作となる動作が検出された場合には、演出実行例 88AKD142 のように、可動部材 88AKA1 の位置は、初期位置から上方に移動することで変更される。そして、例えば画像表示装置 5 の表示画面における中央部といった、予め定められた大当たり報知位置まで変更される。この場合に、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する画像表示装置 5 の表示位置では、遊技者に対して大当たりを報知するメッセージを示す演出画像が表示される。また、可動部材 88AKA1 の外側となる枠部 88AKA11 の上下左右などの表示位置では、エフェクト表示が行われてもよい。

【0557】

このように、リーチ演出期間の最終部分に設けられた大当たり用演出期間にて、大当たり用演出を実行することで、可動部材 88AKA1 の位置を初期位置から大当たり報知位置に変更する。大当たり報知位置は、第 2 位置である初期位置とは異なる位置として、第 1 位置に含まれていればよい。スーパーリーチのリーチ演出が開始される前に発展演出が実行されたときには、復帰演出期間にて、可動部材 88AKA1 の位置を、第 1 位置に含まれる連打結果位置から、第 2 位置である初期位置に変更する。また、復帰演出期間にて、可動部材 88AKA1 の位置が変更されることに伴い、特定表示となる演出画像 88AKB1 ～ 88AKB3 の表示位置も変更される。したがって、発展演出にて特定表示の表示位置を変更させた後に、可変表示結果が「大当たり」になるといった特定条件の成立に応じて、大

当り用演出が実行されることにより、可動部材 88AKA1 の位置は、第 2 位置である初期位置から、第 1 位置に含まれる大当り報知位置に変更される。大当り用演出において、可動部材 88AKA1 の位置が第 1 位置に含まれる大当り報知位置に変更されるので、遊技者の注目が高められる適切な演出を実行して、遊技興趣を向上させることができる。

【0558】

(特徴部 88AK に関する変形例)

発展演出期間では、上記実施例のような演出画像 88AKB1～88AKB3 の表示により複数種類のメッセージを報知する場合に代えて、例えば単一のメッセージを報知する場合があってもよい。例えば演出画像 88AKB1、88AKB2 の表示に代えて、演出画像 88AKB3 のみを 3 つ表示することで、停止対象表示の決定結果が SPリーチCであることを確定的に報知可能としてもよい。この場合に、発展演出期間の連打演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置は、開始報知位置から 3 つ表示された演出画像 88AKB3 のいずれかに対応する連打結果位置に変更可能となればよい。あるいは、演出画像 88AKB1、88AKB2 を表示することなく、演出画像 88AKB3 のみを 1 つ表示してもよい。この場合に、発展演出期間の連打演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置は、開始報知位置から 1 つ表示された演出画像 88AKB3 に対応する連打結果位置に変更可能となればよい。

【0559】

発展演出期間に含まれる連打演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置が、連打結果位置として設定された位置まで必ず変更されるものに限定されず、例えばプッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出されなかった場合や、その検出回数が所定数未満である場合には、可動部材 88AKA1 の位置が連打結果位置まで達することなく、連打演出期間が終了するようにしてもよい。この場合に、復帰演出期間では、復帰時位置変更として、連打演出期間が終了した時点における可動部材 88AKA1 の位置から、第 2 位置となる初期位置へと、可動部材 88AKA1 の位置を変更させる制御が行われてもよい。このときに、画像表示装置 5 の表示画面では、可動部材 88AKA1 の位置が変更されることに伴い、可動部材 88AKA1 と特定表示との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させる。そして、可動部材 88AKA1 の位置が初期位置に変更されたときに、特定表示の表示位置を継続して変更させることにより、可動部材 88AKA1 の位置が連打結果位置まで達した場合と同様の表示状態となるように、特定表示の表示位置を調整してもよい。このように、特定表示の表示位置は、少なくとも可動部材 88AKA1 の位置が第 2 位置である初期位置へと変更されるときに、可動部材 88AKA1 の特定表示との位置関係が維持されるように、変更されるものであればよい。これに対し、可動部材 88AKA1 の位置が第 2 位置である初期位置に変更された後には、可動部材 88AKA1 の位置が初期位置であることにかかわらず、特定表示の表示位置を変更して調整が行われてもよい。

【0560】

発展演出期間に含まれる連打演出期間では、可動部材 88AKA1 の位置にかかわらず特定表示の表示位置が変更されないものに限定されず、例えば可動部材 88AKA1 の位置が特定位置であるときに、特定表示の表示位置を変更可能としてもよい。より具体的に、演出実行例 88AKD123 のような連打結果位置まで可動部材 88AKA1 の位置が変更されたときに、演出画像 88AKB1～88AKB3 の表示を含めた特定表示を下方にスクロール表示してもよい。この場合に、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 では、SPリーチA～SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージを示す他の演出画像、あるいは、SPリーチA～SPリーチCのリーチ演出に対応したメッセージとは異なるメッセージを示す他の演出画像が、順に通過表示されることにより、選択対象となる表示が順番に切り替わるルーレット表示が行われるようにしてもよい。そして、連打演出期間が終了するときには、予め決定された停止対象表示となるまでルーレット表示による演出画像の切替えが行われ、停止対象表示に対応する演出画像が窓部 88AKA12 に対応する画像表示装置 5 の表示位置に達することで、ルーレット表示を停止させて

もよい。その後、復帰演出期間では、復帰時位置変更として、第1位置である連打結果位置から第2位置である初期位置へと、可動部材88AKA1の位置を変更させ、可動部材88AKA1と特定表示との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させればよい。

【0561】

可動部材88AKA1を用いた位置変更演出と、これに伴う画像表示装置5の表示画面における表示による表示演出は、リーチの発展を報知する発展演出において実行されるものに限定されず、特定演出状態に制御されることを報知あるいは予告する任意の演出として実行されるものであればよい。特定演出状態の一例として、「擬似連」の可変表示演出が実行されてもよい。「擬似連」の可変表示演出は、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄（最終停止図柄）が導出されるまでに一旦仮停止させた後、再び変動（擬似連変動）させる演出表示を、所定回（例えば最大3回）まで行うことができる。「擬似連」の可変表示演出では、擬似連変動の実行回数が増加するに従って、大当たり期待度が高くなるようにしてもよい。例えば飾り図柄の可変表示が開始された後、「擬似連」の可変表示演出が実行されるより前に、演出画像88AKB1～88AKB3の一部または全部として、「擬似連」の可変表示演出が実行されるか否かという擬似連の有無や擬似連変動の実行回数などに対応したメッセージを示す表示画像を、画像表示装置5の表示画面に表示する。あるいは、「擬似連」の可変表示演出が実行された後でも、例えばリーチ状態となった後の擬似連変動といった、特定擬似連変動が実行されるより前に、演出画像88AKB1～88AKB3の一部または全部として、特定擬似連変動が実行されるか否かという特定擬似連変動の有無に対応したメッセージを示す表示画像を含めて、画像表示装置5の表示画面に表示してもよい。その後、上記実施例の発展演出期間に含まれる連打演出期間と同様に、可動部材88AKA1の位置を複数の連打結果位置のうちいずれかに変更する。これにより、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置にて特定表示を行うことができればよい。続いて、上記実施例の発展演出期間に含まれる復帰演出期間と同様に、復帰時位置変更88AKF1～88AKF3のいずれかが実行されることに伴い、可動部材88AKA1の窓部88AKA12における表示状態が維持されるように、画像表示装置5の表示画面における特定表示の表示位置が変更されるようにすればよい。

【0562】

可動部材88AKA1を用いた位置変更演出と、これに伴う画像表示装置5の表示画面における表示による表示演出は、特定演出状態に制御されることを報知あるいは予告するものとして実行される場合に限定されず、例えば大当たり遊技状態といった遊技者にとって有利な有利状態に制御されること、あるいは、遊技者にとって有利な遊技価値が付与されることを、報知あるいは予告する任意の演出として実行されてもよい。演出画像88AKB1～88AKB3として、「ハズレ」、「大当たり」、「確変」など、有利状態に制御されるか否かや遊技価値が付与されるか否かに対応したメッセージを示す表示画像を含めて、画像表示装置5の表示画面に表示してもよい。その後、上記実施例の発展演出期間に含まれる連打演出期間と同様に、可動部材88AKA1の位置を複数の連打結果位置のうちいずれかに変更する。これにより、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置にて特定表示を行うことができればよい。続いて、上記実施例の発展演出期間に含まれる復帰演出期間と同様に、復帰時位置変更88AKF1～88AKF3のいずれかが実行されることに伴い、可動部材88AKA1の窓部88AKA12における表示状態が維持されるように、画像表示装置5の表示画面における特定表示の表示位置が変更されるようにすればよい。

【0563】

可動部材88AKA1は、画像表示装置5における表示画面の下端前方に設けられた初期位置から上方への直線移動あるいは平行移動により位置を変更可能なものに限定されず、例えば曲線移動や回転移動といった任意の移動態様により位置を変更可能なものであればよい。可動部材88AKA1の初期位置は、画像表示装置5における表示画面の下端前

方に限定されず、表示画面の上端前方、表示画面の右端前方、表示画面の左端前方のうち、いずれかであってもよい。可動部材 88AKA1 の位置を変更可能な第 1 位置と第 2 位置は、画像表示装置 5 の前方側における任意の位置として設定されていればよい。可動部材 88AKA1 は、その形状が変化しないものであってもよいし、形状が変化可能なものであってもよい。

【0564】

構成例 88AKP0 のような可動部材 88AKA1 が初期位置にある場合に、画像表示装置 5 の表示画面では、可動部材 88AKA1 の窓部 88AKA12 に対応する表示位置にて、遊技や演出に関する各種情報を表示するためのインタフェース領域が設けられてもよい。インタフェース領域では、遊技や演出に関する各種情報に対応するインタフェース画像として、例えば保留記憶数に対応する保留表示画像、飾り図柄を縮小表示する小図柄画像、遊技者に打ち方を指示するための打ち方指示画像のうち、一部または全部を含む画像を表示可能であればよい。可動部材 88AKA1 の位置が初期位置から変更された場合に、画像表示装置 5 の表示画面では、インタフェース領域におけるインタフェース画像の表示が継続して行われてもよい。この場合に、画像表示装置 5 の表示画面におけるインタフェース領域の表示位置は、可動部材 88AKA1 の位置にかかわらず変更されないようにすればよい。

【0565】

発展演出期間に含まれる連打演出期間では、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出された場合に、一定の単位移動量だけ可動部材 88AKA1 の位置を移動させることにより変更するものに限定されず、例えば可動部材 88AKA1 の位置が変更される度合いが異なる期間を設けてもよい。より具体的に、連打演出期間においてプッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作を検出可能な検出有効期間は、第 1 有効期間と第 2 有効期間とを含んでもよい。第 1 有効期間にて連打操作となる動作が検出された場合には、可動部材 88AKA1 の位置を第 1 移動量だけ移動させることにより変更可能とする。これに対し、第 2 有効期間にて連打操作となる動作が検出された場合には、可動部材 88AKA1 の位置を第 1 移動量よりも多い第 2 移動量だけ移動させることにより変更可能としてもよい。検出有効期間では、第 1 有効期間が先に開始され、第 1 有効期間が終了してから第 2 有効期間が開始されてもよい。あるいは、検出有効期間では、第 2 有効期間が先に開始され、第 2 有効期間が終了してから第 1 有効期間が開始されてもよい。あるいは、検出有効期間では、所定時間が経過するごとに、第 1 有効期間と第 2 有効期間とが繰返し切り替えられてもよい。このように、連打操作となる動作が検出された期間に応じて、可動部材 88AKA1 の位置を変更させることによる位置変更演出の演出態様を異ならせてもよい。これにより、多様な演出を実行可能として、遊技興趣を向上させることができる。

【0566】

また、検出有効期間では、残り時間が少なくなるにしたがって連打操作となる動作が検出された場合の移動量が大きくなるようにしてもよい。このように、連打操作となる動作が検出された場合には、検出有効期間の残り時間が少なくなるにしたがって、可動部材 88AKA1 の位置を変更させることによる位置変更演出の演出態様を変化させる度合いが大きくなるようにしてもよい。これにより、これにより、多様な演出を実行可能として、遊技興趣を向上させることができる。

【0567】

発展演出期間に含まれる連打演出期間では、プッシュボタン 31B に対する連打操作となる動作が検出された場合に代えて、例えばプッシュボタン 31B に対する押下操作を継続する長押し操作となる動作が検出された場合に、可動部材 88AKA1 の位置が開始報知位置から上方に移動することで変更されてもよい。このように、長押し操作が検出された場合にも、可動部材 88AKA1 の位置を変更可能なオート連打機能（自動連打機能）を設けてもよい。オート連打機能では、例えば演出制御用 CPU 120 の機能として、プッシュボタン 31B に対する長押し操作となる動作が、1 秒間などの第 1 動作期間にわた

り継続して検出されたことに基づいて、オート連打機能による可動部材 88AKA1 の位置変更を開始させる。その後、例えば 0.5 秒間などの第 2 動作期間が経過するごとに動作検出が 1 回増加した場合と同様に位置変更を行うことができればよい。これにより、プッシュボタン 31B に対する長押し操作が検出された場合でも、あたかも連打操作が行われているような位置変更演出が実行可能となる。プッシュボタン 31B に対して遊技者が自力で連打操作することは、自力連打操作ともいう。プッシュボタン 31B に対して遊技者が長押し操作することにより連打操作の代替とすることは、オート連打操作ともいう。

【0568】

連打演出期間においては、連打操作となる動作を有効に検出する検出有効期間が、例えば連打演出期間の開始から終了までといった、所定時間（例えば 5 秒間など）が経過するまでの期間として設定されている。また、連打演出期間では、自力連打操作を開始できる自力連打開始可能期間が検出有効期間の全期間として設定されている。これに対し、連打演出期間では、オート連打操作を開始できるオート連打開始可能期間が検出有効期間の一部期間として設定されてもよい。例えば、オート連打開始可能期間は、検出有効期間の開始時からオート待機期間（例えば 0.5 秒間）として予め定められた期間が経過したときに開始され、検出有効期間のうちでオート無効期間（例えば終了前の 2 秒間）として予め定められた期間の開始時に終了してもよい。このように、連打演出期間には、オート連打操作を開始可能な期間と、オート連打操作を開始不可能な期間とが含まれていてもよい。なお、オート連打開始可能期間は、自力連打開始可能期間と同様に、検出有効期間の全期間として設定されてもよい。検出有効期間のうちにオート無効期間を設けることにより、検出有効期間において所定期間が経過するか否かに基づいて、連続操作としての連打操作となる動作が検出されたとみなす場合と、みなさない場合とを設けることで、演出の面白みを向上させて、遊技興趣を向上させることができる。

【0569】

自力連打操作となる動作が検出された場合と、オート連打操作となる動作が検出された場合とに応じて、異なる移動量により可動部材 88AKA1 の位置を移動させることにより変更可能としてもよい。例えば自力連打操作となる動作が検出された場合には、オート連打操作となる動作が検出された場合よりも多い移動量となるように、可動部材 88AKA1 の位置を移動させることにより変更可能としてもよい。このように、自力連打操作となる動作が検出された場合と、オート連打操作となる動作が検出された場合とに応じて、可動部材 88AKA1 の位置を変更させることによる位置変更演出の演出態様を異ならせてもよい。これにより、多様な演出を実行可能として、遊技興趣を向上させることができる。

【0570】

特定表示における演出画像、復帰追加表示における演出画像、大当り用演出において表示される演出画像のうちで、少なくとも 1 の演出画像は、3 次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトとして表示されてもよい。例えば演出画像 88AKB1～88AKB3 の一部または全部を、3 次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトとして表示してもよい。発展演出期間の連打演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置が開始報知位置から連打結果位置に変更されたときには、可動部材 88AKA1 の内側となる窓部 88AKA12 に対応する表示位置や、可動部材 88AKA1 の外側にて枠部 88AKA11 の上方または下方に対応する表示位置といった、可動部材 88AKA1 の周辺に対応する表示位置にて、3 次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトによる特定表示を行ってもよい。その後、発展演出期間の復帰演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置が連打結果位置から初期位置に変更されるときには、3 次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトによる特定表示と、可動部材 88AKA1 との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させてもよい。あるいは、演出画像 88AKC1～88AKC3 の一部または全部を、3 次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトとして表示してもよい。発展演出期間の復帰演出期間において、可動部材 88AKA1 の位置

が連打結果位置から初期位置に変更されたときには、特定表示とは異なる追加表示として、3次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトによるキャラクタを表示すればよい。このように、3次元コンピュータグラフィックスによって描画されたオブジェクトとして演出画像を表示することにより、表示演出における装飾性を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

【0571】

可動部材88AKA1における枠部88AKA11の一部または全部を、画像が投影される被投影領域とし、投影手段となるプロジェクタによって被投影領域に画像を投影することにより、いわゆるプロジェクションマッピングを用いた表示演出が行われてもよい。特定表示における演出画像、復帰追加表示における演出画像、大当り用演出において表示される演出画像のうちで、少なくとも1の演出画像は、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に投影されてもよい。あるいは、特定表示における演出画像、復帰追加表示における演出画像、大当り用演出において表示される演出画像とは異なる演出画像が、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に投影されてもよい。発展演出期間の連打演出期間において、可動部材88AKA1の位置が開始報知位置から連打結果位置に変更されたときには、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置にて、演出画像88AKB1～88AKB3の表示による特定表示が行われ、この特定表示に伴い、予め定められた演出画像が、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に投影されることにより、特定付加表示が行われてもよい。その後、発展演出期間の復帰演出期間において、可動部材88AKA1の位置が連打結果位置から初期位置に変更されるときには、特定表示と可動部材88AKA1との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置を変更させる。この変更に対し、特定付加表示は、可動部材88AKA1の枠部88AKA11における表示位置が維持されるように、可動部材88AKA1の位置と連動して、プロジェクションマッピングによる投影位置が調整されてもよい。この場合には、可動部材88AKA1の位置が連打結果位置から初期位置に変更されるときに、特定表示と特定付加表示との位置関係が維持されるように、特定表示の表示位置と特定付加表示の投影位置とを変更させればよい。あるいは、演出画像88AKC1～88AKC3の一部または全部を、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に投影してもよい。発展演出期間の復帰演出期間において、可動部材88AKA1の位置が連打結果位置から初期位置に変更されたときには、特定表示とは異なる追加表示として、演出画像88AKC1～88AKC3のいずれかが、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に投影されるようにすればよい。このように、プロジェクションマッピングにより可動部材88AKA1の枠部88AKA11に演出画像を投影することにより、表示演出における装飾性を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

【0572】

大当り用演出は、リーチ演出期間の最終部分に設けられた大当り用演出期間にて実行されるものに限定されず、例えば可変表示が終了した後に、大当り遊技状態の開始を報知するファンファーレ演出の一部として実行されてもよい。この場合に、大当り用演出制御は、演出制御プロセス処理に含まれるステップS172の可変表示中処理にて実行されるものに限定されず、例えば演出制御プロセス処理に含まれるステップS173の特図当り待ち処理またはステップS176の大当り中演出処理にて実行されてもよい。

【0573】

(特徴部88AKの課題解決手段および効果に関する説明)

遊技が可能な、例えばパチンコ遊技機1などの遊技機であって、例えば画像表示装置5など、画像を表示可能な表示手段と、例えば可動部材88AKA1など、表示手段の前方側にて位置を変更可能な可動部材と、可動部材の位置を、例えば演出画像88AKB1～88AKB3に対応する位置など、表示手段の前方側における第1位置と、例えば構成例88AKP0における位置など、第2位置との間で変更可能に制御する、例えば演出制御

用CPU120などの可動制御手段とを備え、表示手段の表示として、可動部材の位置が第1位置であるときに、可動部材の周辺に対応する表示位置で、例えば演出画像88AKB1～88AKB3の表示などの特定表示を行い、可動部材の位置が第2位置に変更されるときに、例えば演出実行例88AKD131～88AKD133など、特定表示と可動部材との位置関係が維持されるように特定表示の表示位置を変更させる。これにより、適切な演出を実行することで遊技興趣を向上させることができる。

【0574】

可動部材の位置が第2位置に変更されたときに、例えば演出画像88AKC1～88AKC3の表示など、特定表示とは異なる追加表示を行うようにしてもよい。このような追加表示により遊技興趣を向上させることができる。

10

【0575】

例えば決定割合88AKT21で復帰追加表示を決定することで、追加表示により遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを予告可能であってもよい。このような追加表示により遊技興趣を向上させることができる。

【0576】

特定表示の表示位置を変更させた後に、特定条件の成立に応じて、例えば演出実行例88AKD142など、可動部材の位置が第2位置から第1位置に変更される変更演出を実行可能であってもよい。このような変更演出により遊技興趣を向上させることができる。

【0577】

可動部材の位置は、複数種類の第1位置のうちいずれかに変更可能であり、例えば決定割合88AKT01、88AKT11、88AKT12、88AKT21などに応じた決定により、可動部材の位置がいずれの第1位置に変更されるかに応じて、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なってもよい。この場合には、可動部材の位置により遊技者の期待感を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

20

【0578】

例えばスピーカ8L、8Rなど、演出音を出力可能な音出力手段を備え、音出力手段により出力される演出音として、可動部材の位置が第2位置から第1位置に変更されるときに、例えば演出実行例88AKE114などのように特定演出音を出力させ、可動部材の位置が第1位置から第2位置に変更されるときに、例えば演出実行例88AKE131など、特定演出音を出力させないようにしてもよい。これにより、煩雑な演出の実行による遊技興趣の低下を防止できる。

30

【0579】

(特徴部の関連づけに係る説明)

特徴部71AK～75AKに関する各構成は、基本特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。このように組み合わせられた特徴部、あるいは、組み合わせられていない個別の特徴部について、基本特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。例えば、特徴部71AKに関し、演出制御メイン処理のステップ71AKS013にて開始時出力切替処理を実行する演出制御用CPU120の構成、特徴部72AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ72AKS007にてショートイニシャル動作を実行する制御を行う演出制御用CPU120の構成、特徴部73AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定されるまで、ショートイニシャル動作を実行する制御を行わない演出制御用CPU120の構成、特徴部74AKに関し、演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120の構成、特徴部75AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ75AKS008にて設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120の構成は、一部または全部を、適宜、組合せたものであってもよい。

40

【0580】

特徴部88AKに関する構成は、基本特徴部に関する構成や、特徴部71AK～75AKに関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。例えば、特徴部

50

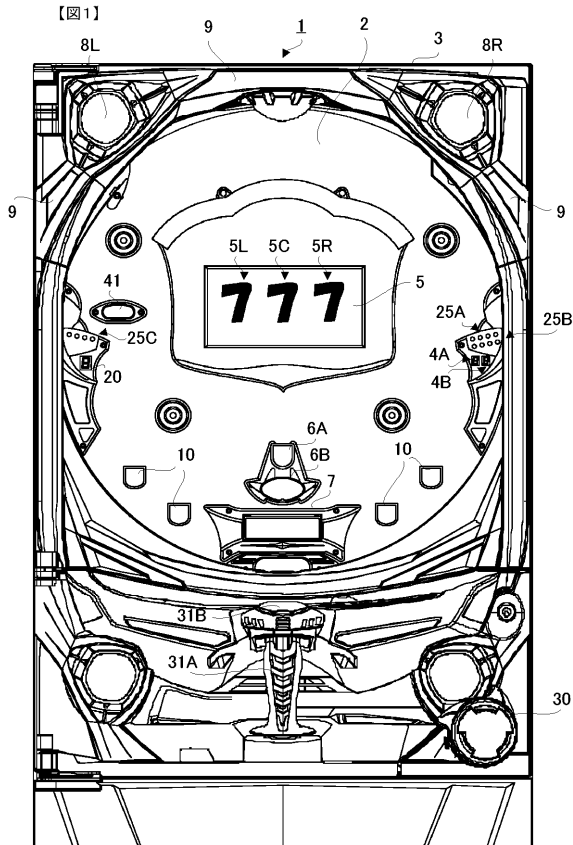
88AKに関し、可動部材88AKA1の位置が第1位置としての連打結果位置であるときに、可動部材88AKA1の周辺に対応する表示位置で演出画像88AKB1～88AKB3の表示などによる特定表示を行い、可動部材88AKA1の位置が第2位置としての初期位置に変更されるときに、特定表示と可動部材88AKA1との位置関係が維持されるように特定表示の表示位置を変更させる演出制御用CPU120や可動部材88AKA1および画像表示装置5などの構成は、特徴部71AKに関し、演出制御メイン処理のステップ71AKS013にて開始時出力切替処理を実行する演出制御用CPU120の構成、特徴部72AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ72AKO07にてショートイニシャル動作を実行する制御を行う演出制御用CPU120の構成、特徴部73AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ73AKS007にて設定変更を終了すると判定されるまで、ショートイニシャル動作を実行する制御を行わない演出制御用CPU120の構成、特徴部74AKに関し、演出制御メイン処理のステップ74AKS018にて確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120の構成、特徴部75AKに関し、電源投入時コマンド処理のステップ75AKS008にて設定変更中確認演出制御処理を実行する演出制御用CPU120の構成と、一部または全部が、適宜、組合せたものであってもよい。

【符号の説明】

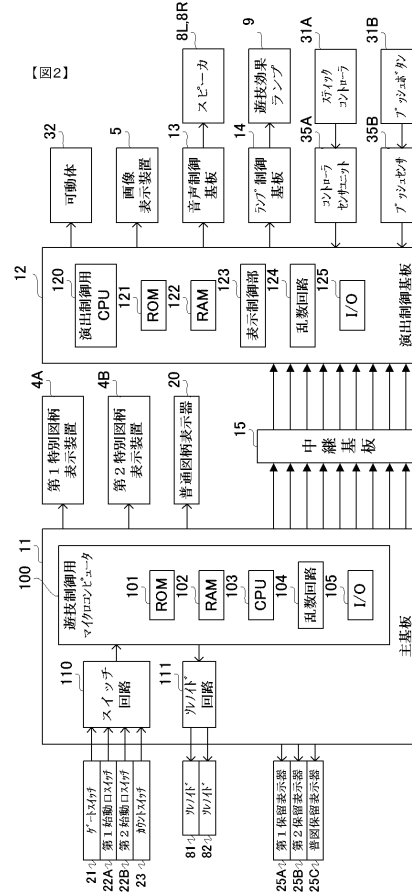
【0581】

1	…	パチンコ遊技機	
5	…	画像表示装置	20
11	…	主基板	
12	…	演出制御基板	
51	…	錠スイッチ	
100	…	遊技制御用マイクロコンピュータ	
120	…	演出制御用CPU	
AK001	…	クリアスイッチ	
71AKO01	…	出力量切替スイッチ	
72AKP01	…	ショートイニシャル制御パターン	
72AKP02	…	ロングイニシャル制御パターン	
74AKP01	…	演出制御パターン	30
88AKA1	…	可動部材	

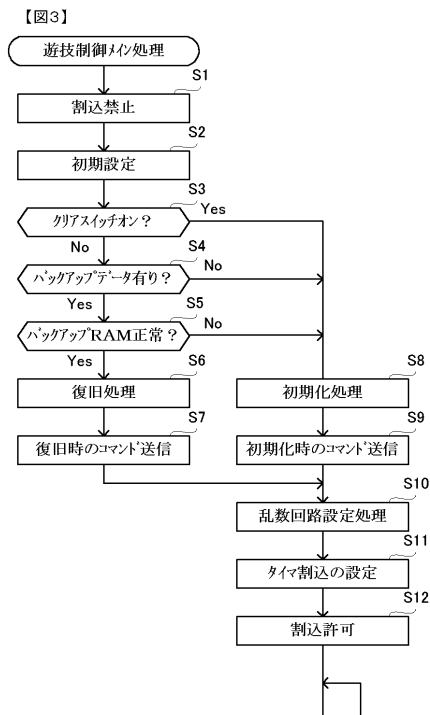
【図 1】



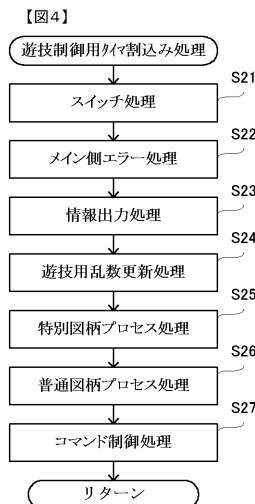
【図 2】



【図 3】

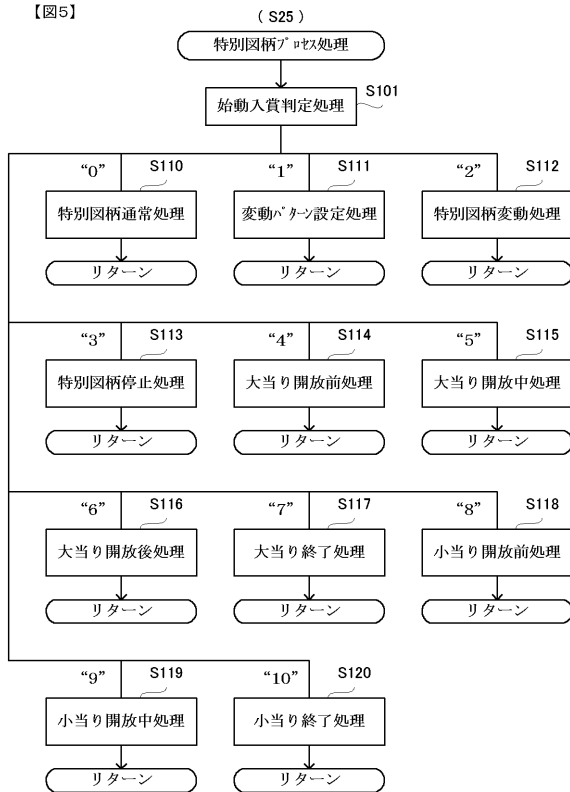


【図 4】



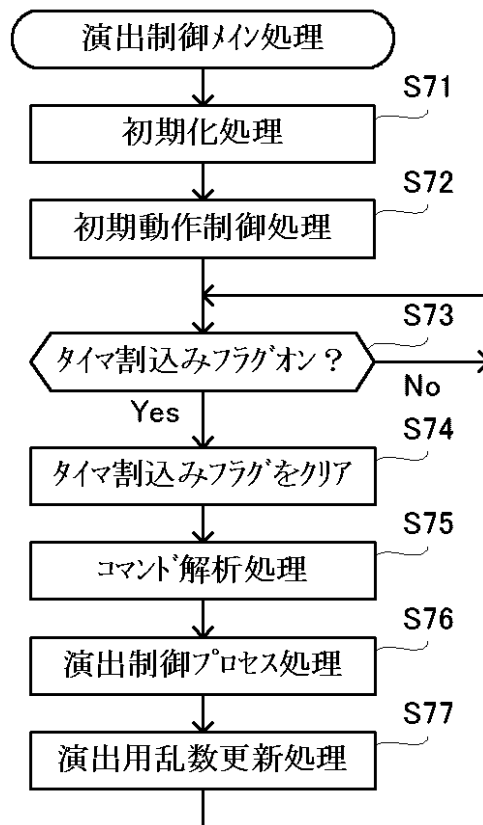
【図 5】

【図5】



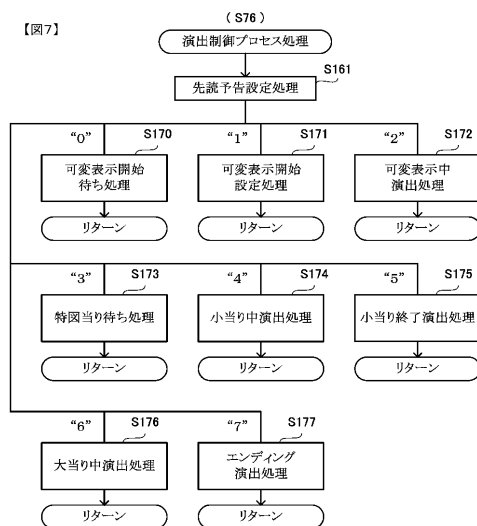
【図 6】

【図6】



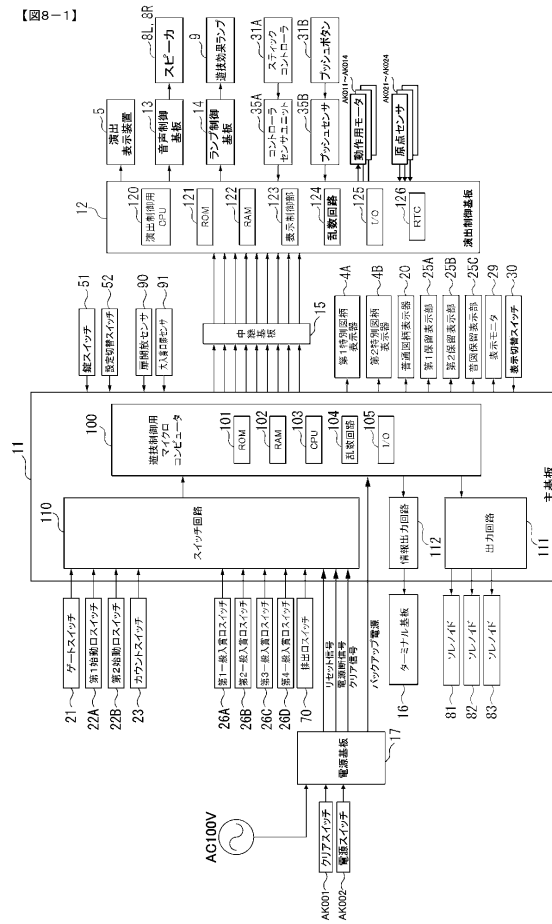
【図 7】

【図7】



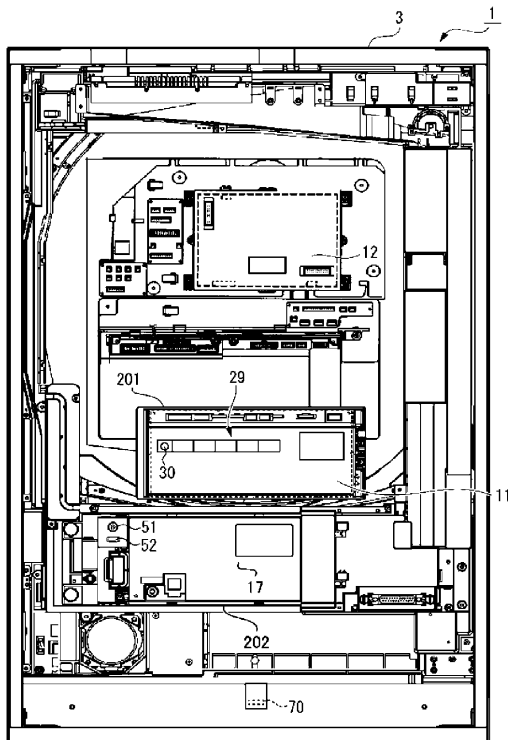
【図 8 - 1】

【図8-1】



【图 8-2】

【图8-2】



【図 8-3】

【图8-3】

MODE	EXT	名称	内容
80	01	第1変動開始	第1特図の変動開始を指定
80	02	第2変動開始	第2特図の変動開始を指定
81	XX	変動パターン指定	変動パターン(変動表示時間)を指定
8C	XX	変動表示結果通知	変動表示結果を指定
8F	00	図柄確定	図柄の変動表示の停止指定
90	00	RAM7/7通知	電源投入時のRAM7/7を通知
91	00	設定変更開始	電源投入時の設定変更開始を指定
92	00	停電復旧指定	停電復旧処理の実行を指定
93	XX	設定変更終了	電源投入時の設定変更終了を指定
94	00	設定確認開始	電源投入時の設定確認開始を指定
94	01	設定確認終了	電源投入時の設定確認終了を指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
96	XX	エラー指定	XXで示すエラーの発生を指定
9F	00	客待ち灯指定	客待ちでエンター/フッシュの表示を指定
A0	XX	当り開始指定	大当り・小当りの開始を指定
A1	XX	大入賞口開放中指定	大入賞口開放中を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	XX	当り終了指定	大当り・小当りの終了を指定
B1	00	第1始動口入賞指定	第1始動口入賞口への入賞を通知
B2	00	第2始動口入賞指定	第2始動口入賞口への入賞を通知
C1	XX	第1保留記憶数通知	第1保留記憶数へ通知
C2	XX	第2保留記憶数通知	第2保留記憶数へ通知
D1	00	V入賞指定	V入賞したことを指定

【图 8-4】

【图8-4】

乱数	範囲	用途	加算
MR1	0～65535	特図表示結果判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR2	0～299	大当たり種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR3	1～997	変動パターン判定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算
MR4	3～23	普通図柄当たり判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR5	3～23	MR4初期値決定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算

【図 8-5】

【图8-5】

変動パターン	特図変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-2	5750	保留2~4個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-3	3750	保留5~8個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-4	5000	短縮(時短制御中)→非リーチ(はずれ)
PA2-1	20000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-2	43000	スーパーリーチ α (はずれ)
PA2-3	53000	スーパーリーチ β (はずれ)
PB1-1	20000	ノーマルリーチ(大当り)
PB1-2	43000	スーパーリーチ α (大当り)
PB1-3	53000	スーパーリーチ β (大当り)
PC1-1	4000	小当り

【图 8-6】

【图8-6】

(A)表示結果判定テーブル(設定値1)

大当り判定値(MR1[0~65535])と比較される)		
変動特図指定パツファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~14242(確率:1/99)
	小当り	32767~34078(確率:1/50)
変動特図指定パツファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~14242(確率:1/99)
	小当り	32767~65535(確率:100/200)

(B)表示結果判定テーブル(設定値2)

大当り判定値(MR1[0~65535])と比較される)		
変動特図指定パツファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13757(確率:1/150)
	小当り	32767~33429(確率:1/99)
変動特図指定パツファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13757(確率:1/150)
	小当り	32767~65535(確率:100/200)

(C)表示結果判定テーブル(設定値3)

大当り判定値(MR1[0~65535])と比較される)		
変動特図指定パツファ=第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13586(確率:1/200)
	小当り	なし(確率:0)
変動特図指定パツファ=第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13586(確率:1/200)
	小当り	32767~65535(確率:100/200)

【図 8 - 7】

【図8-7】

(A) 大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用)

判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)
大当りA	0～49	0～99	0～149
大当りB	50～149	100～249	150～249
大当りC	150～299	250～299	250～299

(B) 大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)

判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)
大当りA	0～29	0～69	0～199
大当りB	30～99	70～269	200～269
大当りC	100～299	270～299	270～299

(C) 小当り種別判定テーブル

判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)	V入賞大当り時 大当り種別
小当りA	0～99	0～149	0～199	大当りD
小当りB	100～299	150～299	200～299	大当りE

【図 8 - 9】

【図8-9】

(A) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りA用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
ノーマルPB1-1	1～300	1～350	1～400
スーパーPB1-2	301～800	351～825	401～850
スーパーPB1-3	801～997	826～997	851～997

(B) 大当り用変動パターン判定テーブル(大当りB、大当りC用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
ノーマルPB1-1	1～100	1～150	1～200
スーパーPB1-2	101～350	151～450	201～550
スーパーPB1-3	351～997	451～997	551～997

(C) 小当り用変動パターン判定テーブル

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
小当りPC1-1	1～997	1～997	1～997

【図 8 - 8】

【図8-8】

大当り種別

大当り種別	時短制御	開放対象	ラウンド数
大当りA	なし	第1大入賞口	5
大当りB	20回 (20回以内の大当りまで)	第1大入賞口	10
大当りC	100回 (100回以内の大当りまで)	第1大入賞口	15
大当りD	なし	第2大入賞口	4
大当りE	100回 (100回以内の大当りまで)	第2大入賞口	14

【図 8 - 10】

【図8-10】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルA(低ベース中合算保留記憶数1個以下用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
非リーチPA1-1	1～350	1～400	1～450
ノーマルPA2-1	351～700	401～700	451～700
スーパーPA2-2	701～900	701～900	701～900
スーパーPA2-3	901～997	901～997	901～997

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルB(低ベース中合算保留記憶数2～4個用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
非リーチPA1-2	1～400	1～450	1～500
ノーマルPA2-1	401～700	451～700	501～700
スーパーPA2-2	701～900	701～900	701～900
スーパーPA2-3	901～997	901～997	901～997

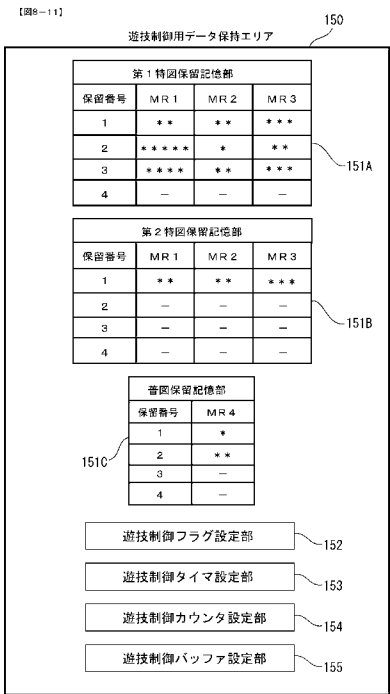
(C) はずれ用変動パターン判定テーブルC(低ベース中合算保留記憶数5個以上用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
非リーチPA1-3	1～450	1～500	1～550
ノーマルPA2-1	451～700	501～700	551～700
スーパーPA2-2	701～900	701～900	701～900
スーパーPA2-3	901～997	901～997	901～997

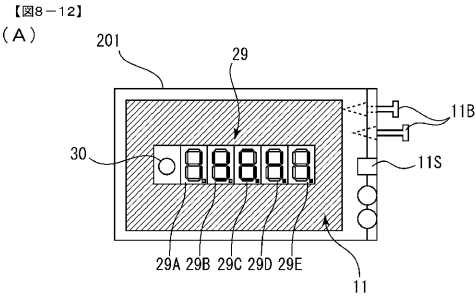
(D) はずれ用変動パターン判定テーブルD(高ベース中用)

変動パターン	MR3 (設定値1)	MR3 (設定値2)	MR3 (設定値3)
非リーチPA1-4	1～450	1～500	1～550
ノーマルPA2-1	451～700	501～700	551～700
スーパーPA2-2	701～900	701～900	701～900
スーパーPA2-3	901～997	901～997	901～997

【図 8 - 1 1】



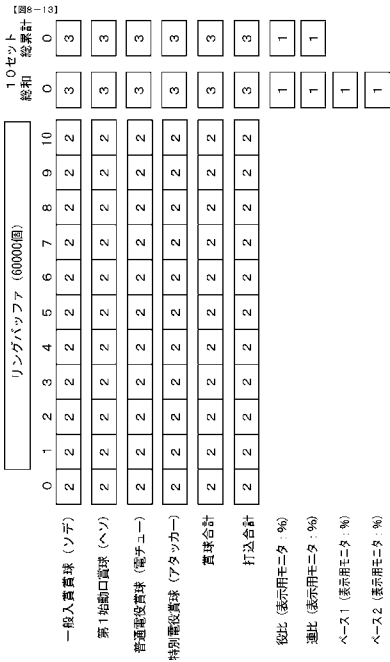
【図 8 - 1 2】



(B) 7セグ+ドット

表示No	表示内容	略記	1桁目	2、3桁目	4、5桁目
1	連比 (%)	y6.	1~3	y 6.	00~99
2	役比 (%)	y7.	1~3	y 7.	00~99
3	連比 (%)	A6.	1~3	A 6.	00~99
4	役比 (%)	A7.	1~3	A 7.	00~99
5	ペース 1 (%)	bL.	1~3	b L.	00~99
6	ペース 2 (%)	B6.	1~3	b 6.	00~99

【図 8 - 1 3】



【図 8 - 1 4】



【図 8-15】

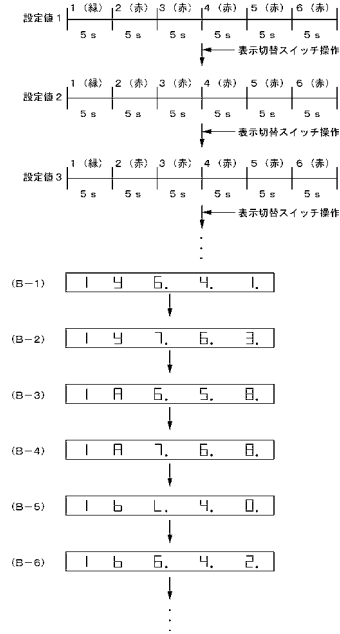
【图8-15】



【图 8-16】

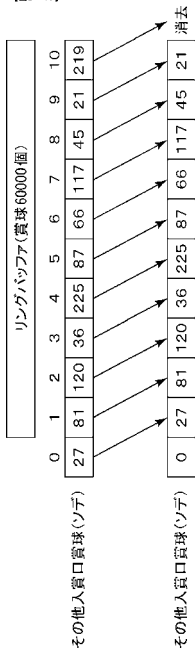
【图8-16】

(A) 速比・役比・ベース値の表示変化の総様



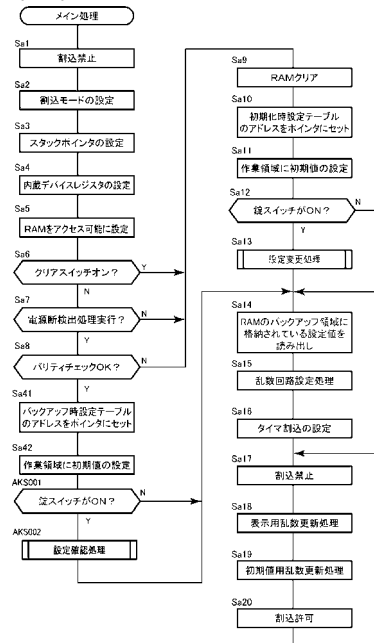
【図 8-17】

【图8-17】



【图 8-18】

【28-18】



【図 8 - 1 9】

【図8-19】

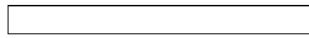
設定変更処理における表示モニタの表示態様

(A) 遊技中

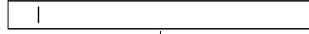


- ・大当り遊技中であればソレノイドへの電力供給が途絶えるので大入賞口閉鎖
- ・規制部材が許容状態に変化

(B) 電源OFF中

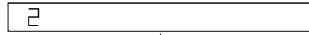


(C) 電源投入 (クリアスイッチ操作有、錠スイッチON)



設定切替スイッチ操作

(D) 表示変更



錠スイッチ押込み操作

(E) 設定完了 (点滅、設定値をRAMのバックアップ領域に格納)



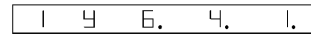
錠スイッチをOFFにすることでS a 1 4以降の処理を実行
・保留記憶を消去

【図 8 - 2 0】

【図8-20】

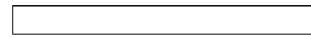
設定確認処理における表示モニタの表示態様

(A) 遊技中



- ・大当り遊技中であればソレノイドへの電力供給が途絶えるので大入賞口閉鎖
- ・規制部材が許容状態に変化

(B) 電源OFF中



(C) 電源投入 (クリアスイッチ操作無、錠スイッチON)



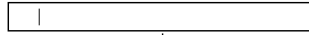
錠スイッチをOFFにすることでS a 1 4以降の処理を実行

【図 8 - 2 1】

【図8-21】

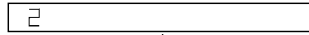
遊技中に設定変更処理を実行可能な場合における表示モニタの表示態様

(A) 錠スイッチON



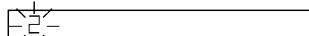
設定切替スイッチ操作

(B) 表示変更



錠スイッチ押込み操作

(C) 設定完了 (点滅、設定値をRAMのバックアップ領域に格納・読み出し)



保留記憶が有る場合は保留記憶をクリア
大当り遊技中である場合は大入賞口を閉鎖

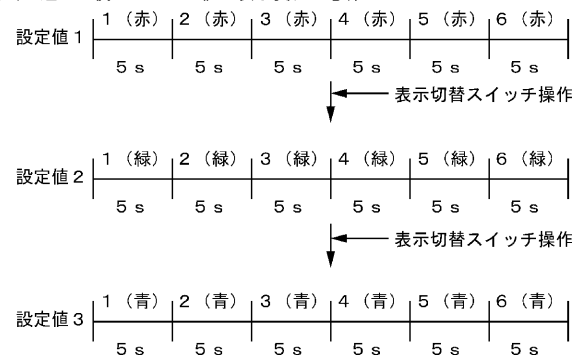
【図 8 - 2 2】

【図8-22】

(A) 設定値表示なし

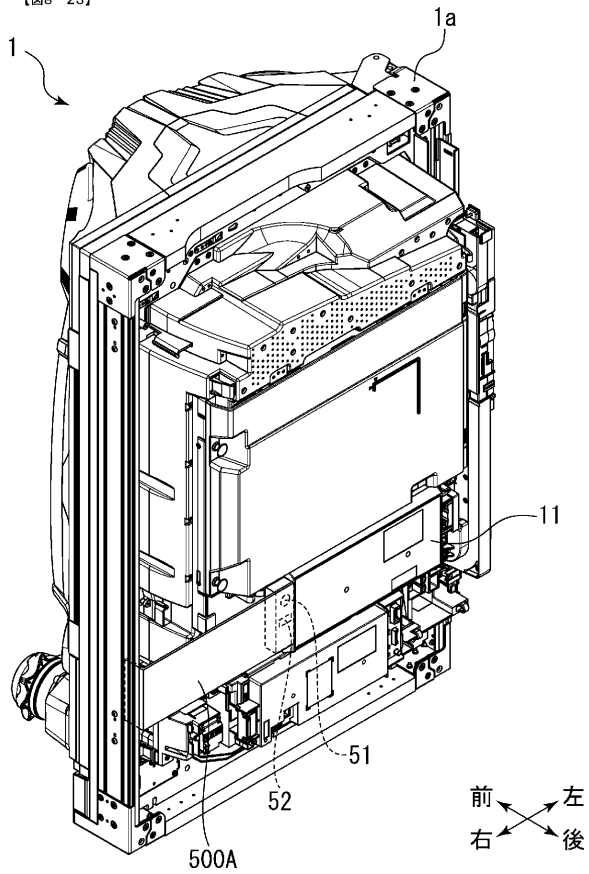


(B) 連比・役比・ベース値の表示変化の態様



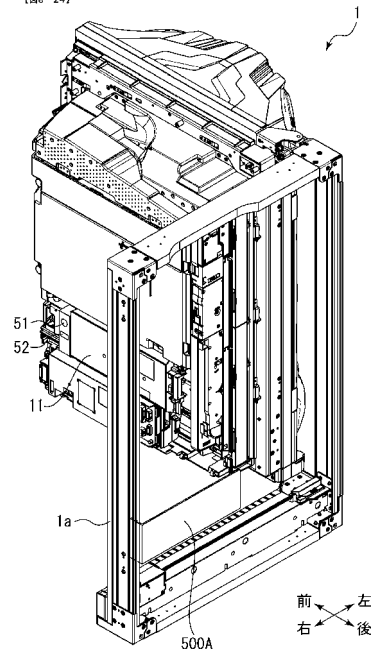
【図 8 - 2 3】

【図8-23】



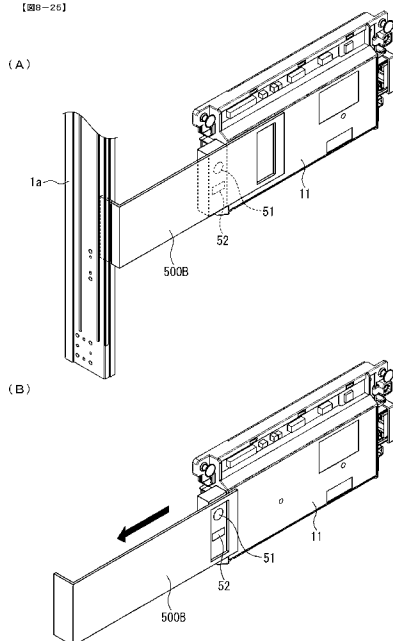
【図 8 - 2 4】

【図8-24】



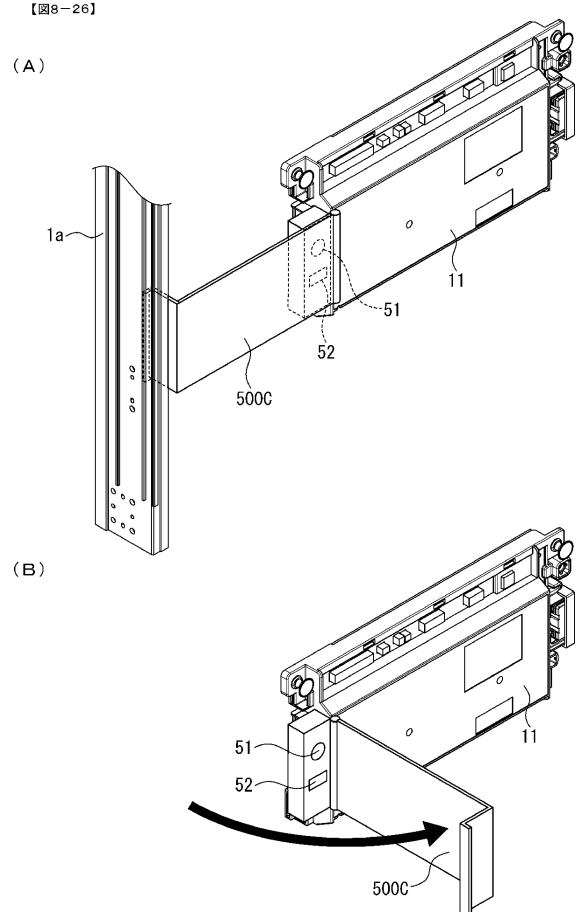
【図 8 - 2 5】

【図8-25】



【図 8 - 2 6】

【図8-26】



【図 8 - 27】

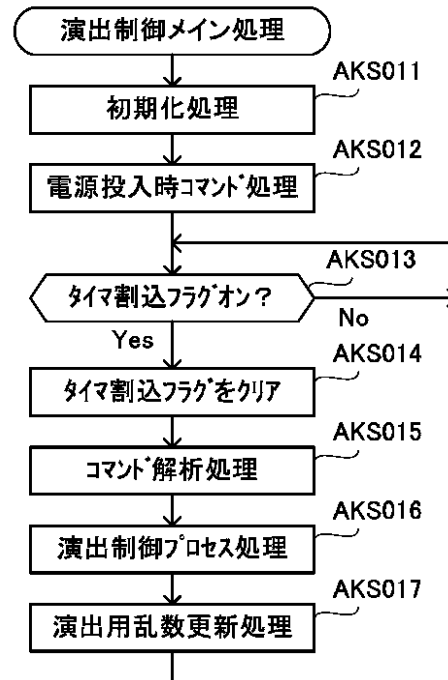
【図8-27】

電源投入時のスイッチ検出

		クリアスイッチ	
		オン	オフ
錠スイッチ	オン	設定変更状態	設定確認状態
	オフ	初期化状態 (RAMクリア)	停電復旧状態

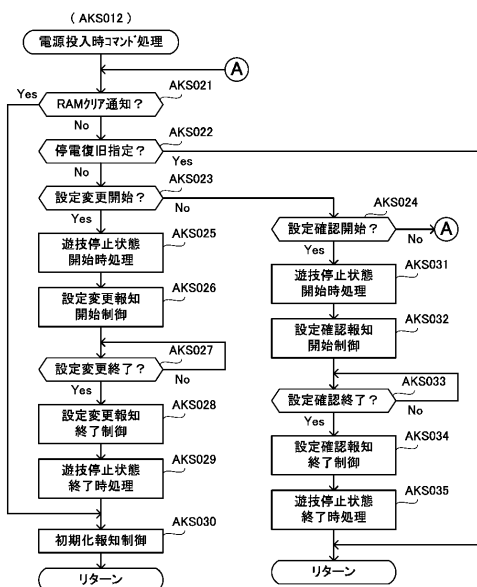
【図 8 - 28】

【図8-28】



【図 8 - 29】

【図8-29】



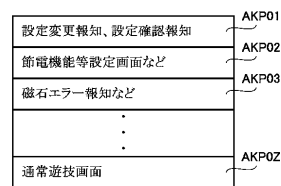
【図 8 - 30】

【図8-30】

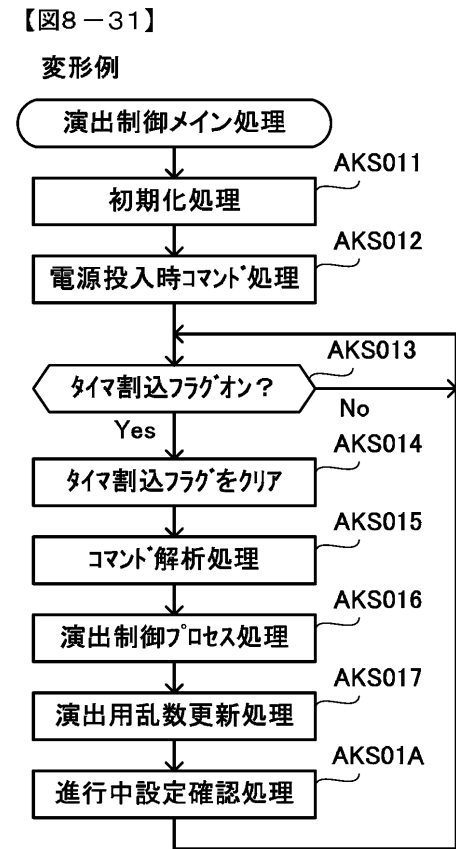
優先度

高

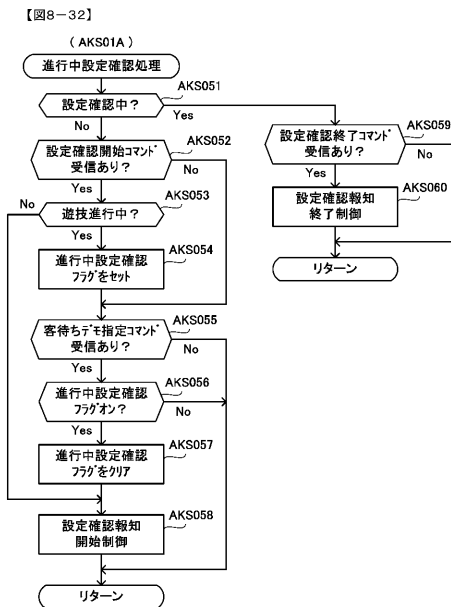
低



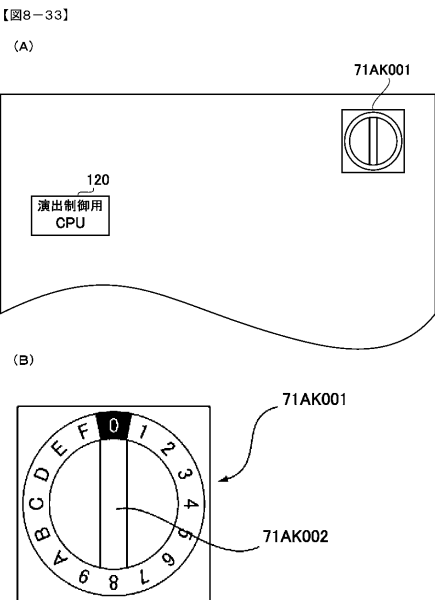
【図 8－3 1】



【図 8－3 2】



【図 8－3 3】



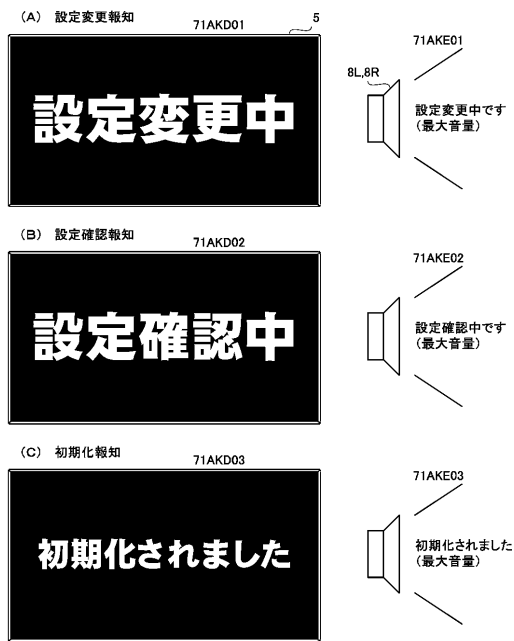
【図 8－3 4】

【図8－34】

71AK001			
スイッチ位置	用途	上限音量	遊技者音量調整
0	音量1(最小)	80.0	可
1	音量2	85.0	可
2	音量3	88.5	可
3	音量4	92.0	可
4	音量5	94.5	可
5	音量6(最大)	97.0	可
6	音量1(最小)	80.0	不可
7	音量2	85.0	不可
8	音量3	88.5	不可
9	音量4	92.0	不可
A	音量5	94.5	不可
B	音量6(最大)	97.0	不可
C	音量4	92.0	不可
D	音量4	92.0	不可
E	音量4	92.0	不可
F	節電機能設定、RTC設定	80.0	不可

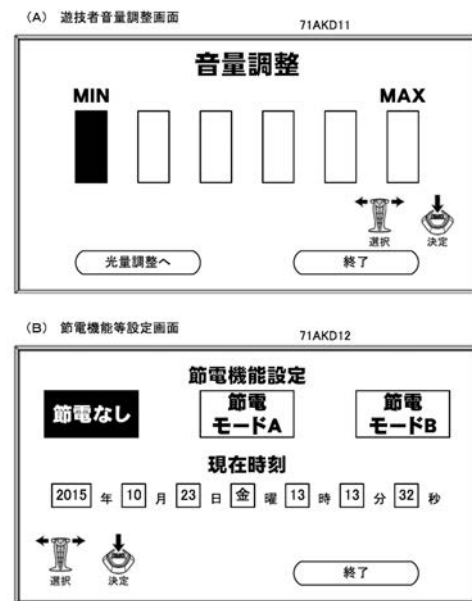
【図 8 - 3 5】

【図8-35】



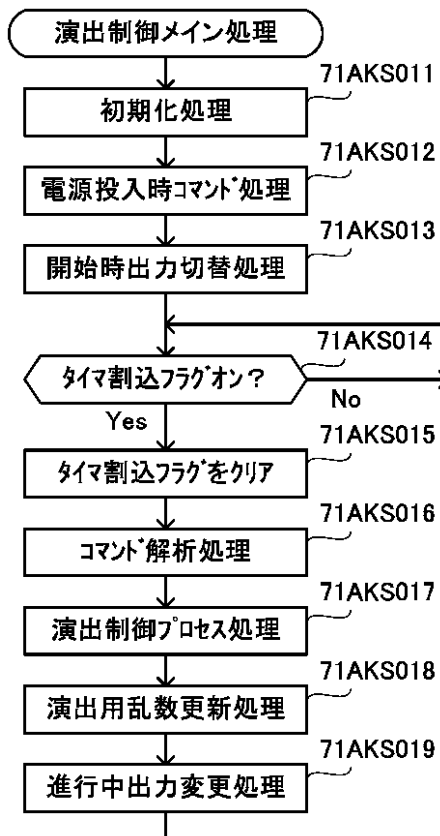
【図 8 - 3 6】

【図8-36】



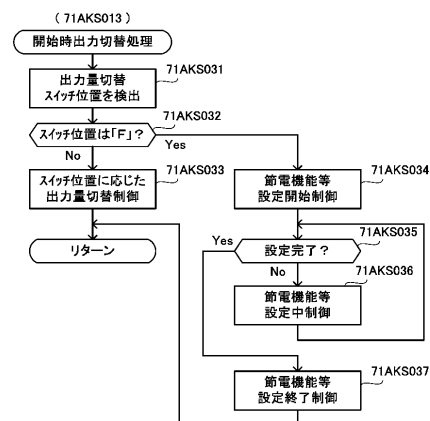
【図 8 - 3 7】

【図8-37】



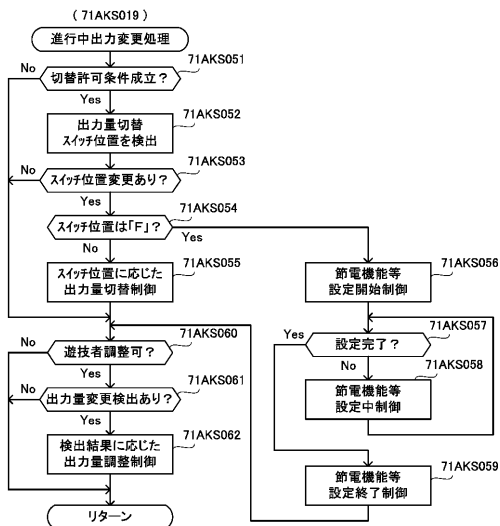
【図 8 - 3 8】

【図8-38】



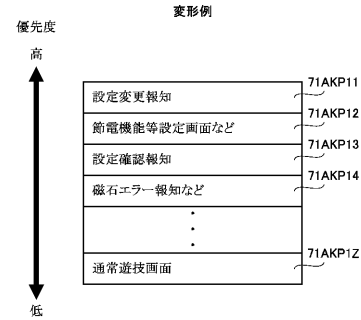
【図 8-39】

【图8-39】



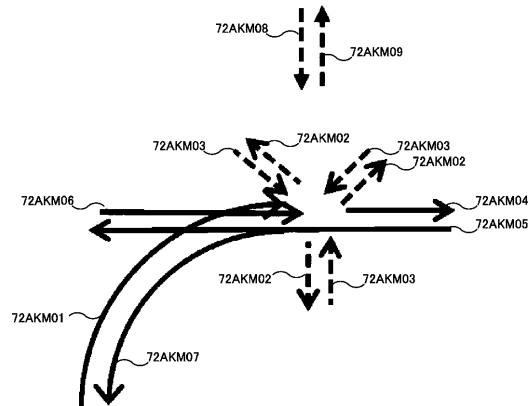
【图 8-40】

【图8-40】



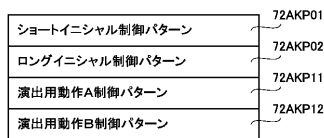
【图 8-4-1】

【图8-41】



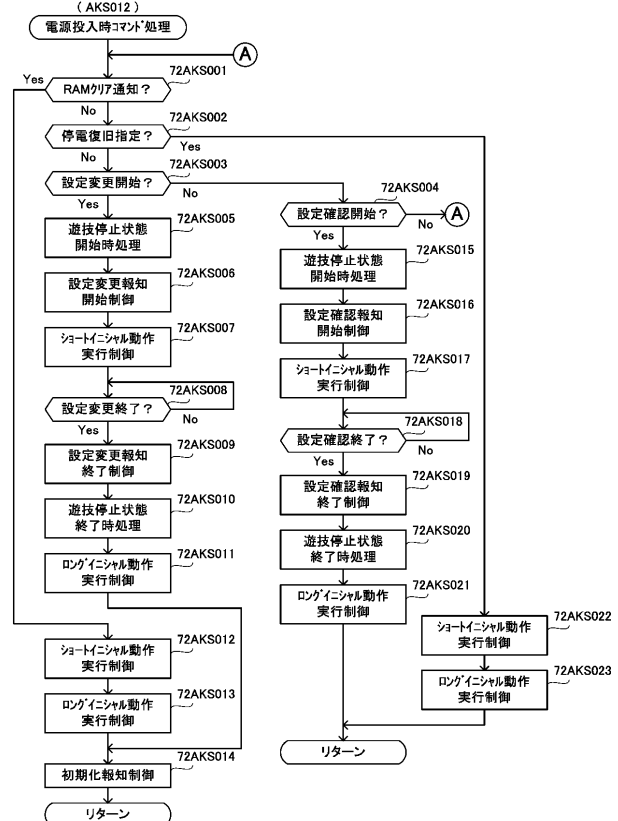
【図 8-42】

【图8-42】

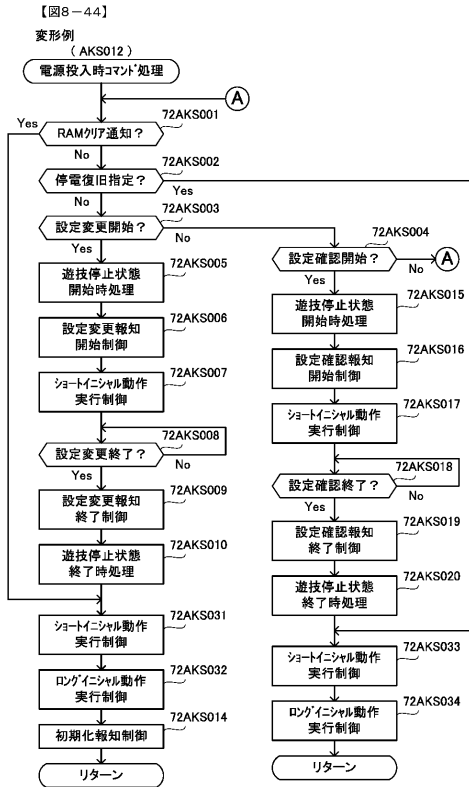


【図 8-43】

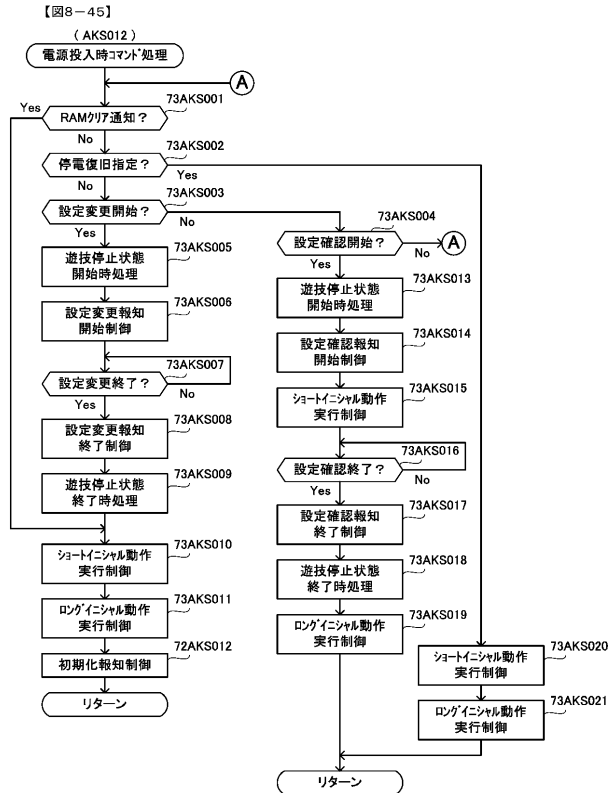
【图8-43】



【図8-44】



【図8-45】



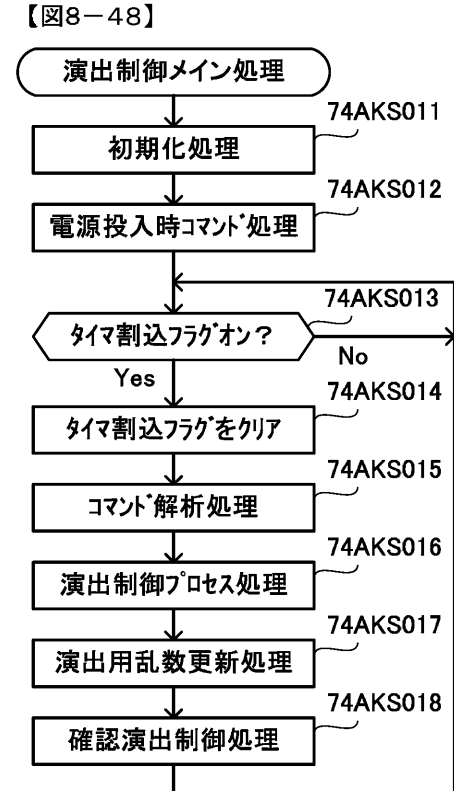
【図8-46】



【図8-47】

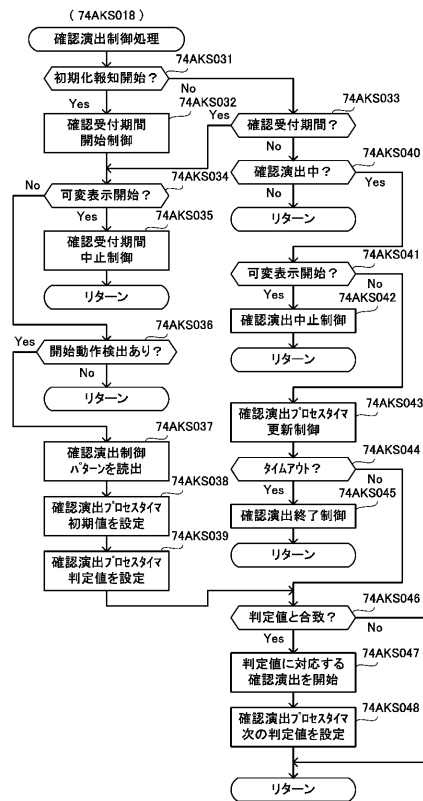


【図8-48】



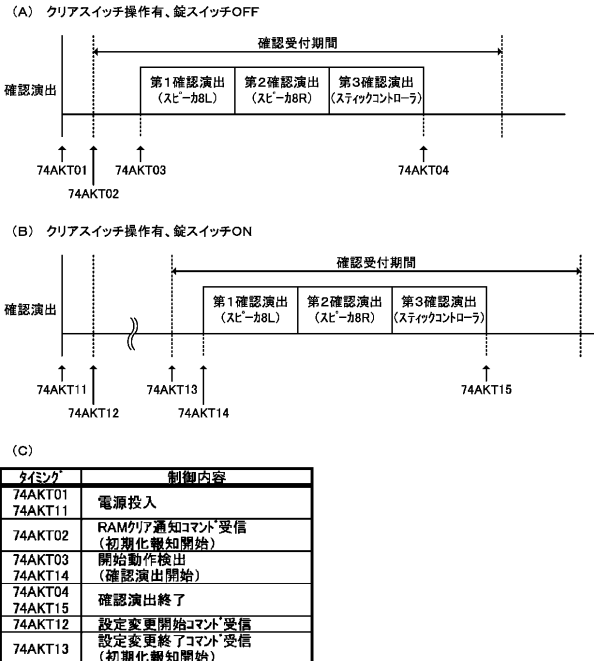
【図 8 - 4 9】

【図8-49】



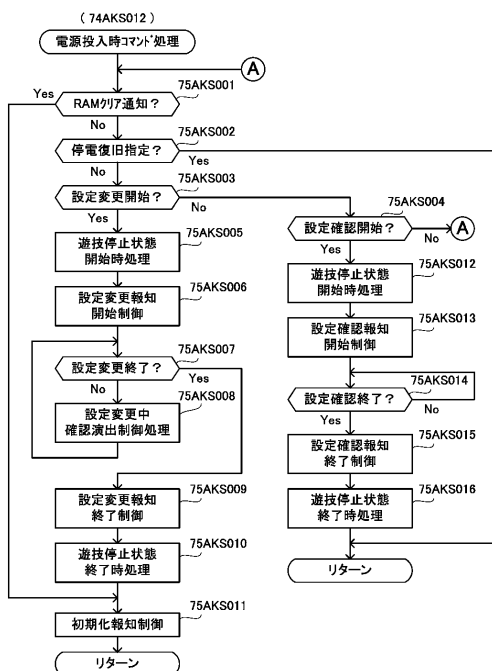
【図 8 - 5 0】

【図8-50】



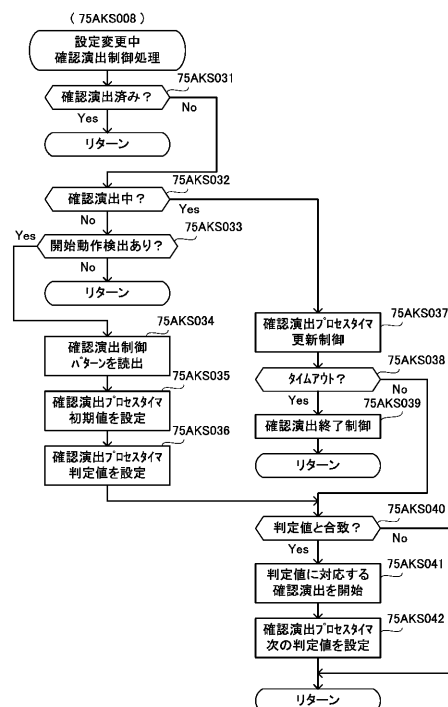
【図 8 - 5 1】

【図8-51】



【図 8 - 5 2】

【図8-52】



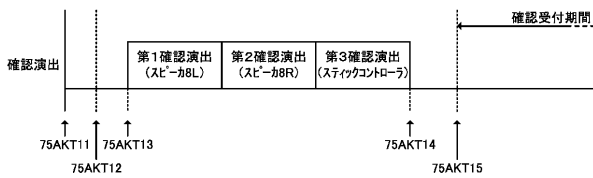
【図 8 - 5 3】

【図8-53】

(A) クリアスイッチ操作有、錠スイッチOFF



(B) クリアスイッチ操作有、錠スイッチON

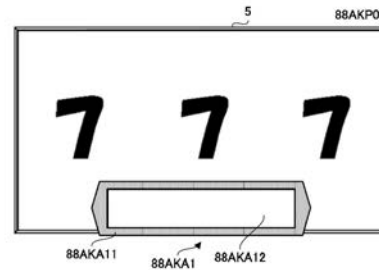


(C)

タイミン	制御内容
75AKT01	電源投入
75AKT11	
75AKT02	RAMクリア通知コマンド受信 (初期化通知開始)
75AKT03	開始動作検出 (確認演出開始)
75AKT04	確認演出終了
75AKT12	設定変更開始コマンド受信
75AKT15	設定変更終了コマンド受信 (初期化通知開始)

【図 9 - 1】

【図9-1】



【図 9 - 2】

【図9-2】

変動パターン	特記変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	通常時短縮なし→非リーチ(ハズレ)
PA1-2	5750	通常時第1短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PA1-3	3750	通常時第2短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PB1-1	8000	時短中短縮なし→非リーチ(ハズレ)
PB1-2	4500	時短中第1短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PB1-3	2000	時短中第2短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PA2-1	20000	ノーマल्लीーチ(ハズレ)
PA2-2	40000	SPリーチA(ハズレ)
PA2-3	80000	SPリーチB(ハズレ)
PA2-4	95000	SPリーチC(ハズレ)
PA3-1	20000	ノーマल्लीーチ(大当り)
PA3-2	50000	SPリーチA(大当り)
PA3-3	90000	SPリーチB(大当り)
PA3-4	105000	SPリーチC(大当り)

【図 9 - 3】

【図9-3】

(A) 大当り変動パターンの決定例

変動パターン	決定値
PA3-4	152~300
PA3-3	53~151
PA3-2	4~52
PA3-1	1~3

(B1) ハズレ変動パターンの決定例 (通常時)

第1保留 記憶数	変動パターン	決定値
0	PA2-4	300
	PA2-3	297~299
	PA2-2	292~296
	PA2-1	241~291
1	PA2-4	300
	PA2-3	298~299
	PA2-2	295~297
	PA2-1	271~294
2以上	PA2-4	300
	PA2-3	298~299
	PA2-2	295~297
	PA2-1	271~294

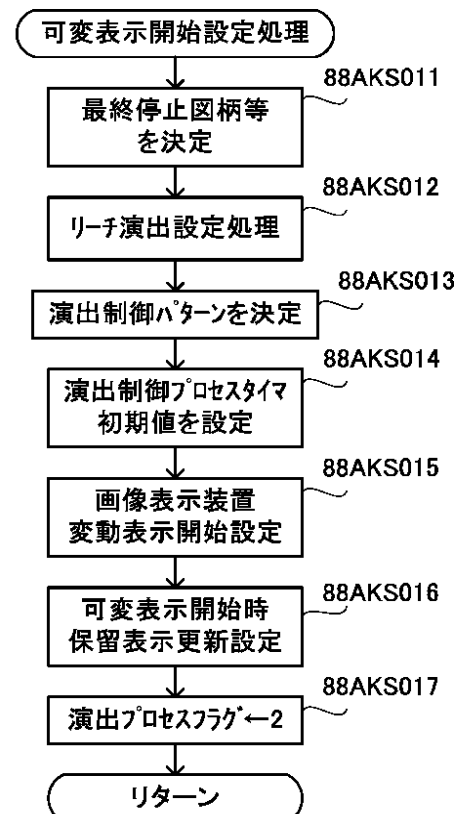
(B2) ハズレ変動パターンの決定例 (時短中)

第2保留 記憶数	変動パターン	決定値
0	PA2-4	300
	PA2-3	298~299
	PA2-2	295~297
	PA2-1	271~294
1	PA2-4	300
	PA2-3	298~299
	PA2-2	295~297
	PA2-1	277~294
2以上	PA2-4	300
	PA2-3	298~299
	PA2-2	295~297
	PA2-1	269~294

【図 9 - 4】

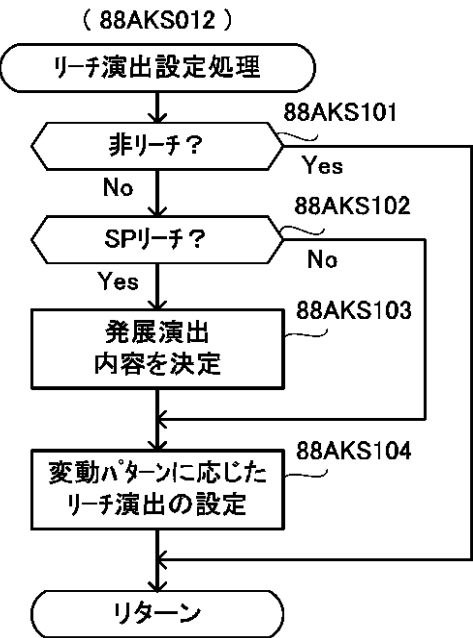
【図9-4】

(S171)



【図 9 - 5】

【図9-5】



【図 9 - 6】

【図9-6】

(A) 発展演出内容の決定例 (88AKS103)

88AKT21

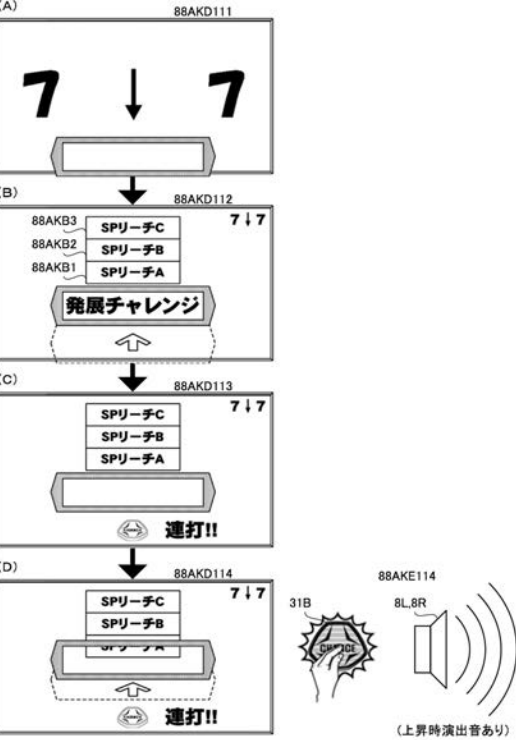
可変表示結果	停止対象表示 (変動パターン)	復帰追加表示	決定割合
ハズレ	SPリーチA (PA2-2)	キャラクタX	70/100
		キャラクタY	20/100
		キャラクタZ	10/100
	SPリーチB (PA2-3)	キャラクタX	70/100
		キャラクタY	20/100
		キャラクタZ	10/100
大当たり	SPリーチA (PA2-4)	キャラクタX	70/100
		キャラクタY	20/100
		キャラクタZ	10/100
	SPリーチB (PA3-2)	キャラクタX	1/100
		キャラクタY	9/100
		キャラクタZ	90/100
	SPリーチB (PA3-3)	キャラクタX	1/100
		キャラクタY	9/100
		キャラクタZ	90/100
	SPリーチC (PA3-4)	キャラクタX	1/100
		キャラクタY	9/100
		キャラクタZ	90/100

(B) 発展演出内容の大当たり期待度

発展演出内容	大当たり期待度
SPリーチC キャラクタZ	高 ↑ ↓ 低
SPリーチB キャラクタZ	
SPリーチA キャラクタZ	
SPリーチC キャラクタY	
SPリーチB キャラクタY	
SPリーチA キャラクタY	
SPリーチC キャラクタX	
SPリーチB キャラクタX	
SPリーチA キャラクタX	
SPリーチC キャラクタZ	
SPリーチB キャラクタZ	
SPリーチA キャラクタZ	
SPリーチC キャラクタY	
SPリーチB キャラクタY	
SPリーチA キャラクタY	
SPリーチC キャラクタX	

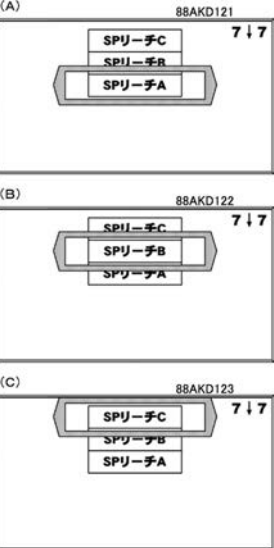
【図 9 - 7】

【図9-7】



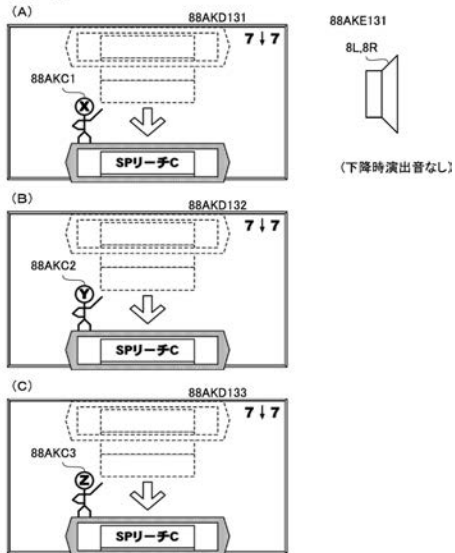
【図 9 - 8】

【図9-8】



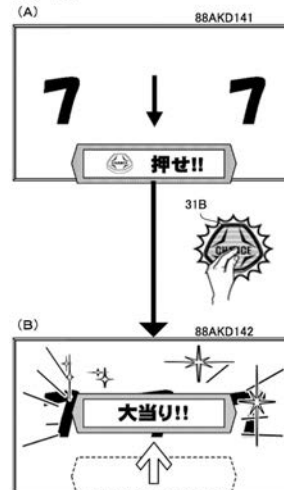
【図 9 - 9】

【図9-9】



【図 9 - 10】

【図9-10】



フロントページの続き

(72)発明者 吉水 俊浩

東京都渋谷区渋谷三丁目２９番１４号 株式会社三共内

(72)発明者 宇野 文人

東京都渋谷区渋谷三丁目２９番１４号 株式会社三共内

Fターム(参考) 2C333 AA11 CA29 CA61 CA77 GA01